

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2023年5月19日(19.05.2023)



(10) 国際公開番号

WO 2023/085176 A1

- (51) 国際特許分類:
A45D 40/04 (2006.01) A45D 40/16 (2006.01)
- (21) 国際出願番号: PCT/JP2022/040903
- (22) 国際出願日: 2022年11月1日(01.11.2022)
- (25) 国際出願の言語: 日本語
- (26) 国際公開の言語: 日本語
- (30) 優先権データ:
特願 2021-185685 2021年11月15日(15.11.2021) JP
- (71) 出願人: 株式会社 資生堂 (SHISEIDO COMPANY, LTD.) [JP/JP]; 〒1040061 東京都中央区銀座7-5-5 Tokyo (JP).
- (72) 発明者: 中平 悠 (NAKAHIRA, Yu); 〒1040061 東京都中央区銀座7丁目5番5号 株式会社資生堂内 Tokyo (JP).
- (74) 代理人: 青木 篤, 外 (AOKI, Atsushi et al.); 〒1050001 東京都港区虎ノ門一丁目2-3

番1号 虎ノ門ヒルズ森タワー 青和特許法律事務所 Tokyo (JP).

- (81) 指定国(表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CV, CZ, DE, DJ, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IQ, IR, IS, IT, JM, JO, JP, KE, KG, KH, KN, KP, KR, KW, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY, MA, MD, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, WS, ZA, ZM, ZW.
- (84) 指定国(表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, CV, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS,

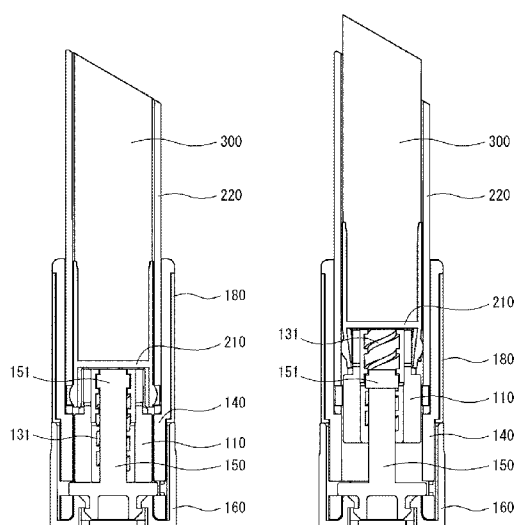
(54) Title: TWIST-UP CONTAINER

(54) 発明の名称: 繰出し容器

図21

(A)

(B)



(57) Abstract: This twist-up container is provided with: a body including a middle part 110, a middle frame 140, a screw member 150, and a skirting 160; and a refill including a middle plate 210, and a middle cylinder 220. The middle part 110 is fitted in the middle frame 140 so as to be prevented from relatively rotating but to be able to freely move vertically. The middle frame 140 is fitted in the skirting 160 so as to be able to relatively rotate but to be prevented from moving vertically. The screw member 150 and the middle part 110 respectively include screw tracks 151, 131 that engage one another. The screw member 150 is mounted in a fixed manner to the skirting 160. The middle plate 210 includes a content storage portion and is fitted in the middle cylinder 220 so as to be prevented from relatively rotating but to be able to freely move vertically. The refill can be assembled in a detachable manner on the body. When the refill is assembled on the body, the middle part 110 and the middle plate 210 are relatively fixed.



IT, LT, LU, LV, MC, ME, MK, MT, NL, NO, PL, PT,
RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF,
CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE,
SN, TD, TG).

添付公開書類：

一 国際調査報告（条約第21条(3)）

(57) 要約：中具 1 1 0、中枠 1 4 0、ネジ部材 1 5 0、及び袴 1 6 0を含む、本体と、中皿 2 1 0及び中筒 2 2 0を含むレフィルとから構成され、中具 1 1 0は、中枠 1 4 0内に相対回転不能かつ昇降自在に嵌挿されており、中枠 1 4 0は、袴 1 6 0内に相対回転自在かつ昇降不能に嵌挿されており、ネジ部材 1 5 0及び中具 1 1 0は、それぞれ、互いに螺合するネジ軌道 1 5 1、1 3 1を有し、ネジ部材 1 5 0は、袴 1 6 0に固定的に装着されており、中皿 2 1 0は、内容物収納部を有し、中筒 2 2 0内に相対回転不能かつ昇降自在に嵌挿されており、本体にレフィルを着脱自在に組み付け可能であり、本体にレフィルを組み付けたときに、中具 1 1 0と中皿 2 1 0とが相対的に固定されている、繰出し容器。

明 細 書

発明の名称：繰出し容器

技術分野

[0001] 本発明は、繰出し容器、特に口紅等の収納に用いられる繰出し容器に関する。

背景技術

[0002] 口紅等を収納し、使用時に繰出し、使用後に繰戻すための容器は公知である。

[0003] 例えば、特許文献 1 には、

周方向に延びる螺旋孔が形成された螺旋筒、及び前記螺旋筒に回転可能に装着された規制筒を備える容器本体と、

前記容器本体の内側に配置され、内側に棒状内容物が収容される収容筒部と

を備え、

前記収容筒部は、前記螺旋孔及び前記案内孔に挿入された被案内突起を有し、この被案内突起が前記案内孔に係止されることによって、前記収容筒部及び前記規制筒の相対的回転が規制されており、

前記螺旋筒及び前記規制筒を相対的に回転させると、前記被案内突起が前記案内孔を通して前記螺旋孔内を摺動することにより、収容筒部が規制筒内を上昇し、又は下降して、口紅等の棒状内容物を繰出し、繰戻すことのできる、繰出し容器が記載されている。

[0004] この特許文献 1 に記載された容器は、内容物を使い切った後には、破棄されることが前提とされている。

[0005] これに対して、内容物を収納するカートリッジ（レフィル）を有し、内容物を使い切った後に、カートリッジ部分は廃棄されるが、カートリッジ以外の部分を再利用できる繰出し容器が提案されている。

[0006] 例えば、特許文献 2 には、

内周面に第 1 螺溝部を有する筒状の主部材と、

前記主部材の下方に配置された基筒部の内側から、縦スリットを有するスリーブ筒を前記主部材の内部へ起立させ、当該主部材に取り付けられた筒状の副部材と、

前記スリーブ内に昇降自在に嵌装された内容物収容用の収容体とを具備し、

前記スリーブ部に対して、前記基筒部及び前記主部材が一体的に回転可能であり、

前記基筒部の内面に、前記第 1 螺溝部と連続して一連の螺旋溝を構成する第 2 螺溝部を設け、

前記収容体の外面に付設した係合突子を、前記縦スリットを介して前記螺旋溝内に突入させた繰出し機構により、前記スリーブ部に対して、前記基筒部及び前記主部材を回転させる操作により、前記収容体を、前記スリーブ内で上方へ繰出し、下方へ繰戻すことができ、

前記副部材及び前記収容体は、前記主部材に組み付けられた 1 個のカートリッジとして形成されており、

前記係合突子が前記第 2 螺溝部内にある状態で、前記カートリッジを前記主部材から引き抜き、付け替えることが可能に構成されている繰出し容器が記載されている。

[0007] このような繰り出し容器は、内容物を使い切った後に、カートリッジ以外の部分を再利用できる利点がある他、複数種の内容物を使い分ける際（例えば、異なる色の口紅を使い分ける際）に、カートリッジ以外の部分を 1 個所有して、所望の内容物を収容したカートリッジを都度差し替えて使用することができる利点もある。

先行技術文献

特許文献

[0008] 特許文献1：特開 2018-186989 号公報

特許文献2：特開 2021-029940 号公報

発明の概要

発明が解決しようとする課題

- [0009] 特許文献2の繰出し容器は、容器の主要な機構である繰出し機構がカートリッジ部分に形成されているため、カートリッジ部分のコストは高い。それにもかかわらず、カートリッジ部分は、容器の内容物を使い切った後に廃棄されるため、繰出し機構もカートリッジ部分とともに廃棄されることになり、無駄が多い。
- [0010] また、複数種の内容物を使い分ける使用者は、繰出し機構を含むカートリッジを複数個所有する必要がある、経済的な無駄が更に大きくなる。
- [0011] 本発明は、上記の事情に鑑みてなされたものであり、その目的は、内容物を収納するレフィルを有し、レフィル以外の部分を再利用できる繰出し容器であって、繰出し機構が再利用できる部分に形成されている、繰出し容器を提供することである。

課題を解決するための手段

- [0012] 本発明は、以下のとおりである。
- [0013] 《態様1》中具、中枠、ネジ部材、及び袴を含む、本体と、
中皿及び中筒を含むレフィルと
から構成され、
前記本体において、
前記中具は、中皿固定用鍵状凸部を有し、前記中枠内に相対回転不能かつ昇降自在に嵌挿されており、
前記中枠は、前記袴内に相対回転自在かつ昇降不能に嵌挿されており、
前記ネジ部材は、ネジ部材ネジ軌道を有し、
前記中具は、前記ネジ部材のネジ部材ネジ軌道と螺合する中具ネジ軌道、又は前記ネジ部材のネジ部材ネジ軌道を滑動し得る中具凸部を有し、
前記ネジ部材は、前記袴に固定的に装着されており、
前記レフィルにおいて、前記中皿は、中具固定用凸部、及び内容物を収納するための内容物収納部を有し、前記中筒内に相対回転不能かつ昇降自在に

嵌挿されており、

前記レフィルの前記中筒を、前記本体の前記中枠に着脱自在に固定することによって、前記本体に前記レフィルを着脱自在に組み付け可能であり、かつ、

前記レフィルを、前記本体に着脱自在に組み付けたときに、前記中具の中皿固定用鍵状凸部と、前記中皿の中具固定用凸部とが係合して、前記中具と前記中皿とが相対的に固定され、

前記袴と前記中枠とを相対的に回転させたとき、前記袴に装着された前記ネジ部材のネジ部材ネジ軌道上を、前記中枠内に相対回転不能に嵌装されている前記中具の前記中具ネジ軌道又は前記中具凸部が滑動することにより、前記中具及びこれに固定された前記中皿を、上方に繰出すこと、及び下方に繰戻すことができる、

繰出し容器。

《態様 2》前記中枠は中筒固定用凸部を有し、

前記中筒は中枠固定用 L 字スリットを有し、

前記中筒の前記中枠への着脱自在の固定は、前記中枠の中筒固定用凸部と前記中枠固定用 L 字スリットとの係合によって行われる、

態様 1 に記載の繰出し容器。

《態様 3》前記中具は中具回転防止用凸部を有し、

前記中枠は中枠縦スリットを有し、

前記中具の前記中具回転防止用凸部が、前記中枠の前記中枠縦スリットに嵌挿されることにより、前記中具が、前記中枠内に相対回転不能かつ昇降自在に嵌挿されている、

態様 1 又は 2 に記載の繰出し容器。

《態様 4》前記中具は中具ネジ軌道を有し、

前記袴と前記中枠とを相対的に回転させたとき、前記袴に装着された前記ネジ部材のネジ部材ネジ軌道上を、前記中具の前記中具ネジ軌道が滑動する

、

態様 1 ～ 3 のいずれか一項に記載の繰出し容器。

《態様 5》前記中枠がネジ部材位置設定用中枠嵌装部を有し、
前記ネジ部材がネジ部材位置設定用ネジ部材嵌装部を有し、
前記中枠の前記ネジ部材位置設定用中枠嵌装部と、前記ネジ部材のネジ部材位置設定用ネジ部材嵌装部とが係合することにより、前記中枠が、前記袴及び前記ネジ部材に、相対回転可能かつ昇降不能に保持されている、
態様 4 に記載の繰出し容器。

《態様 6》前記ネジ部材ネジ軌道が雄ネジ軌道であり、前記中具ネジ軌道が雌ネジ軌道である、態様 4 又は 5 に記載の繰出し容器。

《態様 7》前記本体が更に外筒を含み、前記中枠は前記外筒に固定的に挿入されている、態様 3 ～ 6 のいずれか一項に記載の繰出し容器。

《態様 8》前記中具は中具凸部を有し、
前記中枠は中枠縦スリットを有し、
前記ネジ部材ネジ軌道は雌ネジ軌道であり、
前記中具の前記中具凸部は、
前記中枠の前記中枠縦スリットに嵌挿されて、前記中具を、前記中枠内に相対回転不能かつ昇降自在に嵌挿させる機能を有するとともに、
前記袴と前記中枠とを相対的に回転させたとき、前記袴に装着された前記ネジ部材のネジ部材ネジ軌道上を滑動する、
態様 1 又は 2 に記載の繰出し容器。

《態様 9》前記本体が更にホックを含み、
前記ホックは、中枠固定用係合部を有し、前記袴に相対回転可能かつ昇降不能に装着されており、
前記中枠は、ホック固定用係合部を有し、
前記中枠の前記ホック固定用係合部と、前記ホックの前記中枠固定用係合部とが係合することにより、前記中枠が、前記袴及び前記ネジ部材に、相対回転可能かつ昇降不能に保持されている、
態様 8 に記載の繰出し容器。

《態様 1 0》前記内容物が口紅である、態様 1 ～ 9 のいずれか一項に記載の繰出し容器。

《態様 1 1》中皿及び中筒を含み、
前記中皿は、中具係合用凸部、及び内容物収納部を有し、
前記中筒内に相対回転不能かつ昇降自在に嵌挿されており、
態様 1 の繰出し容器に用いられる、
繰出し容器のレフィル。

《態様 1 2》中具、中枠、ネジ部材、及び袴を含み、
前記中具は、中皿固定用鍵状凸部を有し、前記中枠内に相対回転不能かつ昇降自在に嵌挿されており、
前記中枠は、前記袴内に相対回転自在かつ昇降不能に嵌挿されており、
前記ネジ部材は、ネジ部材ネジ軌道を有し、
前記中具は、前記ネジ部材のネジ部材ネジ軌道と螺合する中具ネジ軌道、又は前記ネジ部材のネジ部材ネジ軌道を滑動し得る中具凸部を有し、
前記ネジ部材は、前記袴に固定的に装着されており、
態様 1 の繰出し容器に用いられる、
繰出し容器の本体。

発明の効果

[0014] 本発明によると、内容物を収納するレフィルを有し、内容物を使い切った後に、レフィル部分は廃棄されるが、レフィル以外の部分を再利用できる繰出し容器であって、繰出し機構が再利用できる部分に形成されており、無駄が少ない繰出し容器が提供される。

[0015] 本発明の繰出し容器は、複数種の内容物を所有する使用者において、レフィル以外の部分を、例えば 1 個だけ所有して、所望の内容物を収容したレフィルを都度差し替えて使用する場合でも、無駄を抑制できる利点も有する。

図面の簡単な説明

[0016] [図1]図 1 (A) は、実施形態 1 の繰出し容器の本体における中具の斜視図であり、図 1 (B) は、図 1 (A) の A - A 線断面図である。

[図2]図2（A）は、実施形態1の繰出し容器の本体における中具の上面図であり、図2（B）は下面図であり、図2（C）は正面図であり、図2（D）は右側面図である。

[図3]図3は、実施形態1の繰出し容器の本体における中具を構成する中具外周部及び中具内ネジ部の斜視図である。

[図4]図4（A）は、実施形態1の繰出し容器の本体における中枠の斜視図であり、図4（B）は、図4（A）のA－A線断面図であり、図4（C）は、図4（A）のB－B線断面図である。

[図5]図5（A）は、実施形態1の繰出し容器の本体における中枠及び中具の斜視図であり、図5（B）は、図5（A）のA－A線断面図である。

[図6]図6（A）は、実施形態1の繰出し容器の本体におけるネジ部材の斜視図であり、図6（B）は上面図であり、図6（C）は下面図であり、図6（D）は正面図である。

[図7]図7（A）は、実施形態1の繰出し容器の本体における袴の斜視図であり、図7（B）は、図7（A）のA－A線断面図である。

[図8]図8（A）は、実施形態1の繰出し容器の本体における袴及びネジ部材の斜視図であり、図8（B）は、図8（A）のA－A線断面図である。

[図9]図9（A）は、実施形態1の繰出し容器の本体における袴、ネジ部材、及び中具の斜視図であり、図9（B）は、図9（A）のA－A線断面図である。また、図9（C）は、図9（B）の状態から、袴及びネジ部材と、中具とを相対的に回転させて、中具を少し繰上げた状態を示す断面図である。

[図10]図10（A）は、実施形態1の繰出し容器の本体における外筒の斜視図であり、図10（B）は、図10（A）のA－A線断面図である。

[図11]図11（A）は、実施形態1の繰出し容器の本体の斜視図であり、図11（B）は、図11（A）のA－A線断面図であり、図11（C）は、図11（A）のB－B線断面図である。

[図12]図12（A）は、実施形態1の繰出し容器のレフィルにおける中皿の斜視図であり、図12（B）は中皿の上面図であり、図12（C）は中皿の

下面図であり、図 1 2 (D) は図 1 2 (A) の A－A 線断面図であり、図 1 2 (E) は、図 1 2 (A) の B－B 線断面図である。

[図13]図 1 3 (A) は、実施形態 1 の繰出し容器のレフィルにおける中皿に、内容物である口紅を収納した状態を示す斜視図であり、図 1 3 (B) は図 1 3 (A) の A－A 線断面図である。

[図14]図 1 4 (A) は、実施形態 1 の繰出し容器のレフィルにおける中筒の斜視図であり、図 1 4 (B) は中筒の上面図であり、図 1 4 (C) は中筒の下面図であり、図 1 4 (D) は中筒の正面図である。

[図15]図 1 5 (A) は、実施形態 1 の繰出し容器のレフィルにおける、中皿及び中筒の斜視図であり、図 1 5 (B) は図 1 5 (A) の A－A 線断面図である。また、図 1 5 (C) は、図 1 5 (B) の状態から、中皿が少し繰上った状態を示す断面図である。

[図16]図 1 6 (A) は、実施形態 1 の繰出し容器の本体にレフィルを差し込んでいる途中の状態において、本体の中枠及びレフィルの中筒の部分のみを表した斜視図であり、図 1 6 (B) は、図 1 6 (A) の A－A 線断面図である。

[図17]図 1 7 (A) は、実施形態 1 の繰出し容器の本体にレフィルを差し込んで、組み付ける直前の状態において、本体の中枠及びレフィルの中筒の部分のみを表した斜視図であり、図 1 7 (B) は、図 1 7 (A) の A－A 線断面図である。

[図18]図 1 8 (A) は、実施形態 1 の繰出し容器の本体にレフィルを差し込んで、組み付ける直前の状態において、本体の中具及びレフィルの中皿の部分のみを表した斜視図であり、図 1 8 (B) は、図 1 8 (A) の A－A 線断面図である。

[図19]図 1 9 (A) は、実施形態 1 の繰出し容器の本体にレフィルを差し込んで、組み付けた状態において、本体の中枠及びレフィルの中筒の部分のみを表した斜視図であり、図 1 9 (B) は、図 1 9 (A) の A－A 線断面図であり、図 1 9 (C) は、図 1 9 (A) の B－B 線断面図である。

[図20]図20(A)は、実施形態1の繰出し容器の本体にレフィルを差し込んで、組み付けた状態において、本体の中具及びレフィルの中皿の部分のみを表した斜視図であり、図20(B)は、図20(A)のA-A線断面図である。

[図21]図21(A)は、実施形態1の繰出し容器の繰出し前の状態を示す断面図である。図21(B)は、図21(A)の状態から内容物を少し繰出した状態を示す断面図である。

[図22]図22(A)は、実施形態2の繰出し容器の本体における中具の斜視図であり、図22(B)は、図22(A)のA-A線断面図であり、図22(C)は、図22(A)のB-B線断面図である。

[図23]図23(A)は、実施形態2の繰出し容器の本体における中具の上面図であり、図23(B)は下面図であり、図23(C)は正面図であり、図23(D)は右側面図である。

[図24]図24(A)は、実施形態2の繰出し容器の本体における中枠の斜視図であり、図24(B)は、図24(A)のA-A線断面図であり、図24(B)は、図24(A)のB-B線断面図である。

[図25]図25は、実施形態2の繰出し容器の本体におけるホックの斜視図である。

[図26]図26(A)は、実施形態2の繰出し容器の本体における、中具、中枠、及びホックの斜視図であり、図26(B)は、図27(A)のA-A線断面図であり、図26(C)は、図26(A)のB-B線断面図である。

[図27]図27(A)は、実施形態2の繰出し容器の本体における袴の斜視図であり、図27(B)は上面図であり、図27(C)は下面図であり、図27(D)は、図27(A)のA-A線断面図である。

[図28]図28(A)は、実施形態2の繰出し容器の本体におけるネジ部材の斜視図であり、図28(B)は上面図であり、図28(C)は下面図であり、図28(D)は、図28(A)のA-A線断面図である。

[図29]図29(A)は、実施形態2の繰出し容器の本体における、中具、中

枠、ホック、ネジ部材、及び袴の斜視図であり、図29(B)は、図29(A)のA-A線断面図であり、図29(C)は、図29(A)のB-B線断面図である。

[図30]図30(A)は、実施形態2の繰出し容器のレフィルにおける中皿の斜視図であり、図30(B)は上面図であり、図30(C)は下面図であり、図30(D)は正面図であり、図30(E)は、図30(A)のA-A線断面図である。

[図31]図31(A)は、実施形態2の繰出し容器のレフィルにおける中筒の斜視図であり、図31(B)は上面図であり、図31(C)は下面図であり、図31(D)は正面図であり、図31(E)は右側面図である。

[図32]図32(A)は、実施形態2の繰出し容器のレフィルにおける中皿及び中筒の斜視図であり、図32(B)は正面図であり、図32(C)は、図32(A)のA-A線断面図である。

[図33]図33(A)は、実施形態2の繰出し容器の本体にレフィルを差し込んで、組み付けた状態において、本体の中枠及びレフィルの中筒の部分のみを表した斜視図であり、図33(B)は、図33(A)のA-A線断面図である。

[図34]図34(A)は、実施形態2の繰出し容器の本体にレフィルを差し込んで、組み付けた状態において、本体の中具及びレフィルの中皿の部分のみを表した斜視図であり、図34(B)は、図34(A)のA-A線断面図である。

[図35]図35(A)は、実施形態2の繰り上げ容器の全体を示す斜視図であり、図35(B)は、図35(A)のA-A線断面図であり、図35(C)は、図35(A)のB-B線断面図である。

発明を実施するための形態

[0017] 本発明の繰出し容器は、

中具、中枠、ネジ部材、及び袴を含む、本体と、
中皿及び中筒を含むレフィルと

から構成されている。

[0018] 本発明の繰出し容器は、更に、尾栓を含んでよい。

[0019] 本発明の繰出し容器の本体において、

前記中具は、中皿固定用鍵状凸部を有し、前記中枠内に相対回転不能かつ昇降自在に嵌挿されており、

前記中枠は、前記袴内に相対回転自在かつ昇降不能に嵌挿されており、

前記ネジ部材は、ネジ部材ネジ軌道を有し、

前記中具は、前記ネジ部材のネジ部材ネジ軌道と螺合する中具ネジ軌道、又は前記ネジ部材のネジ部材ネジ軌道を滑動し得る中具凸部を有し、

前記ネジ部材は、前記袴に固定的に装着されている。

[0020] また、本発明の繰出し容器のレフィルにおいて、

前記中皿は、中具固定用凸部、及び内容物を収納するための内容物収納部を有し、前記中筒内に相対回転不能かつ昇降自在に嵌挿されており、

前記レフィルの前記中筒を、前記本体の前記中枠に着脱自在に固定することによって、前記本体に前記レフィルを着脱自在に組み付け可能であり、かつ、

前記本体に前記レフィルを着脱自在に組み付けたときに、前記中具の中皿固定用鍵状凸部と、前記中皿の中具固定用凸部とが係合して、前記中具と前記中皿とが相対的に固定される。

[0021] そして、本発明の繰出し容器では、前記袴と前記中枠とを相対的に回転させたとき、前記袴に装着された前記ネジ部材のネジ部材ネジ軌道上を、前記中枠内に相対回転不能に嵌装されている前記中具の前記中具ネジ軌道又は前記中具凸部が滑動することにより、前記中具及びこれに固定された前記中皿を、上方に繰出すこと、及び下方に繰戻すことができる。

[0022] 本発明の繰出し容器に収納される内容物は、固形棒状の医薬品、医薬部外品、化粧品等であってよい。内容物は、具体的には、例えば、口紅、リップクリーム、アイシャドウ、アイブロウ（眉墨）、チーク（頬紅）、コンシーラー、ファンデーション等であってよく、典型的には口紅であってよい。

[0023] 本発明の繰出し容器は、固形棒状の文房具の容器として適用することも可能である。このような文房具としては、例えば、消しゴム、糊、クレヨン、パステル等が例示できる。

[0024] 《本体》

本体は、中具、中枠、ネジ部材、及び袴を含む。

[0025] 〈中具〉

中具は、略筒状の形状を有してよく、中皿固定用鍵状凸部と、中具ネジ軌道又は中具凸部とを有し、更に中具回転防止用凸部、中具縦スリット等を有してよい。

[0026] 中皿固定用鍵状凸部は、本発明の繰出し容器の本体にレフィルを取り付けたとき、レフィルの中皿の中具固定用凸部と係合して、中具と中皿とを相対的に固定する機能を有する。

[0027] この中皿固定用鍵状凸部は、例えば、筒状の中具の外周面のうちの上端に近い部分に形成された逆L字状のレリーフ状の突出部、筒状の中具の上端の円周部から上方に突出する逆L字状の突起物等であってよい。ここで、「逆L字状」とは、上方に延びる直線部、及び当該直線部の上端から円周方向に延びる直線部によって構成される形状をいう。

[0028] 中具は、中皿固定用鍵状凸部を1個だけ有していてもよいし、2個以上有していてもよい。中具が2個以上の中皿固定用鍵状凸部を有するとき、これらの中皿固定用鍵状凸部は、筒状の中具の外周面上又は上端付近の円周部上に、円周に沿って均等に配置されてよい。本発明の繰出し容器の本体における中具は、典型的には、2個以上4個以下の中皿固定用鍵状凸部を有する。

[0029] 中具ネジ軌道は、ネジ部材のネジ部材ネジ軌道と螺合して、中具とネジ部材とを相対的に回転させたとき、中具（及び中具と相対的に固定された中皿）をネジ部材（並びにこれに相対的に固定された中枠及び袴）に対して上下動させる機能を有する。

[0030] 中具ネジ軌道は、ネジ部材のネジ部材ネジ軌道と螺合し得る限り、雄ネジであっても雌ネジであってもよい。ネジ部材ネジ軌道が雄ネジであるとき、

中具ネジ軌道は、例えば、筒状の中具の内周面に形成された雌ネジであってよい。

[0031] 中具凸部は、ネジ部材のネジ部材ネジ軌道を滑動し得る凸部であり、中具とネジ部材とを相対的に回転させたとき、中具（及び中具と相対的に固定された中皿）をネジ部材（及びこれに相対的に固定された中枠及び袴）に対して昇降させる機能を有する。

[0032] 中具凸部は、ネジ部材のネジ部材ネジ軌道を滑動し得る限り、中具のどこに形成されていてもよい。ネジ部材ネジ軌道が雌ネジであるとき、中具凸部は、例えば、筒状の中具の外周面に形成された、1個又は2個以上の凸部であってよい。中具凸部の形状は、ネジ部材のネジ部材ネジ軌道を滑動し得る限り、任意である。

[0033] 中具は、中具凸部を1個だけ有していてもよいし、2個以上有していてもよい。中具が2個以上の中具凸部を有するとき、これらの中具凸部は、筒状の中具の内周面上又は外周面上に、円周に沿って均等に配置されてよい。本発明の繰出し容器の本体における中具が中具凸部を有するとき、その個数は、典型的には、2個以上4個以下であってよい。

[0034] 本発明の繰出し容器の中具は、ネジ部材が有するネジ部材ネジ軌道の態様に応じて、中具ネジ軌道及び中具凸部を選択的に有してよい。例えば、ネジ部材ネジ軌道が雄ネジであるとき、中具は、筒状の中具の内周面に形成された雌ネジ状の中具ネジ軌道、及び筒状の中具の内周面に形成された突起である中具凸部のうちの1個以上を有してよい。ネジ部材ネジ軌道が雌ネジであるとき、中具は、筒状の中具の外周面に形成された突起である中具凸部を有してよい。

[0035] 本発明の繰出し容器の中具は、中具回転防止用凸部を有してよい。この中具回転防止用凸部は、中具を中枠内に嵌挿したときに、中枠が任意的に有する中枠縦スリット内に嵌装されてよい。この構成により、中具が、中枠内に相対回転不能かつ昇降自在に嵌装される。

[0036] 中具回転防止用凸部は、筒状の中具の外周面に形成された凸部であってよ

い。中具回転防止用凸部の形状は、中枠の中枠縦スリットに嵌装可能な程度の幅、及び突出高さ、並びに中枠縦スリット内でスムーズな昇降が可能な程度の長さを有してよく、その余の形状は任意であってよい。

[0037] 中具は、中具回転防止用凸部を１個だけ有していてもよいし、２個以上有していてもよい。中具が２個以上の中具回転防止用凸部を有するとき、これらの中具回転防止用凸部は、筒状の中具の外周面上に、円周に沿って均等に配置されてよい。本発明の繰出し容器の本体における中具が中具回転防止用凸部を有するとき、その個数は、典型的には、２個以上４個以下であってよい。

[0038] 中具が、その外表面に中具凸部を有するとき、当該中具凸部は、中具回転防止用凸部の機能を兼ねていてよい。この場合、中具凸部は、中枠縦スリットに嵌装された状態で、中枠の外表面から突出して、雌ネジであるネジ部材ネジ軌道を滑動する。

[0039] 中具は、一体に形成されていてもよいし、２つ以上の部品が組み合わされて構成されていてもよい。後者の場合、中具は、例えば、大小２つの筒状部品である、中具外周部及び中具内ネジ部から構成されていてもよい。中具外周部は、その外周面に、中皿固定用鍵状凸部、中具回転防止用凸部を有していてもよく、中具内ネジ部は、その内周面に、中具ネジ軌道を有していてもよい。

[0040] 中具縦スリットは、筒状の中具の外表面に形成された、縦方向の切り欠き部である。本発明の繰出し容器の本体における中具は、この中具縦スリットを、有していてもよいし、有していなくてもよい。

[0041] 〈中枠〉

本発明の繰出し容器の本体における中枠は、袴内に、相対回転自在かつ昇降不能に嵌挿されている。

[0042] 中枠は、略筒状の形状を有していてもよく、中枠縦スリット、中筒固定用凸部、ネジ部材位置設定用中枠嵌装部、ホック固定用係合部、中筒回転防止用中枠ツメ等を有していてもよい。

[0043] 中枠の中枠縦スリットは、中具を中枠内に嵌挿したときに、中具の中具回

転防止用凸部が嵌装されることにより、中具が、中枠内で、相対回転不能かつ昇降自在となるように制御する機能を有する。

[0044] 中枠縦スリットは、筒状の中枠の下端から上方に向かって伸びる直線状のスリットであってよい。中枠縦スリットの幅は、中具の中具回転防止用凸部を嵌装でき、かつ、スムーズな昇降が可能な程度の幅であってよい。中枠縦スリットの長さは、中具及びこれに固定的に装着される中皿、並びに中皿に収納される内容物の昇降長さを規定する。したがって、中枠縦スリットの長さは、内容物の繰出し長さとはほぼ同じであってよい。

[0045] 中枠縦スリットは、中枠の周壁の一部を所定の形状に切り欠き、中枠の中枠縦スリット部分には周壁を有さない貫通形態としてもよいし、中枠の周壁の内周面の一部を所定の形状に薄くして、中枠の中枠縦スリット部分にも周壁を有する薄肉形態としてもよいし、中枠の中枠縦スリット部の一部には周壁を有さない薄肉形態とし、かつ、中枠の中枠縦スリット部の残りの部分には周壁を有する貫通形態としてもよい。

[0046] 本発明の繰出し容器の本体における中枠は、中具の有する中具回転防止用凸部と同数の中枠縦スリットを、中具回転防止用凸部のそれぞれと対応する場所に、有してよい。

[0047] 中枠の中筒固定用凸部は、繰出し容器の本体にレフィルを組み付けたとき、レフィルの中筒が任意的に有する中枠固定用L字スリットと係合して、中筒を中枠に着脱自在に固定する機能を有する。そして、この機能によって、本発明の繰出し容器の本体には、レフィルを着脱自在に取り付けることができる。

[0048] 中筒固定用凸部は、筒状の中枠の内周面のうちの上端に近い部分に形成された突起であってよい。中筒固定用凸部は、中筒の中枠固定用L字スリットにおける上下方向の滑動が可能であり、かつ、中枠固定用L字スリットの横方向への係合が可能であれば、任意の形状を有してよい。中筒固定用凸部は、例えば、半球状の突起であってよい。

[0049] 中枠は、中筒固定用凸部を1個だけ有していてもよいし、2個以上有して

いてもよい。中枠が2個以上の中筒固定用凸部を有するとき、これらの中筒固定用凸部は、筒状の中枠の内周面上に、円周に沿って均等に配置されてよい。本発明の繰出し容器の本体における中枠が中筒固定用凸部を有するとき、その個数は、典型的には、2個以上4個以下であってよい。

[0050] ネジ部材位置設定用中枠嵌装部は、ネジ部材が任意的に有するネジ部材位置設定用ネジ部材嵌装部を受容して、中枠を、ネジ部材（及びこれを固定的に装着される袴）に対して、相対回転可能、かつ昇降不能に保持する機能を有する。

[0051] ネジ部材位置設定用中枠嵌装部は、筒状の中枠の周壁のうちの下端に近い部分に形成された、円周方向に延びるスリットであってよい。

[0052] ネジ部材位置設定用中枠嵌装部は、中枠の周壁の一部を所定の形状に切り欠き、中枠のネジ部材位置設定用中枠嵌装部の部分には周壁を有さない形態としてもよいし、中枠の周壁の内周面の一部を所定の形状に薄くして、中枠のネジ部材位置設定用中枠嵌装部の部分にも周壁を有する形態としてもよいし、中枠のネジ部材位置設定用中枠嵌装部の一部には周壁を有さず、かつ、中枠のネジ部材位置設定用中枠嵌装部の残りの部分には周壁を有する形態としてもよい。

[0053] 中枠は、ネジ部材位置設定用中枠嵌装部を1個だけ有していてもよいし、2個以上有していてもよい。中枠が2個以上のネジ部材位置設定用中枠嵌装部を有するとき、これらの中枠嵌装部は、筒状の中枠の周壁上に、円周に沿って均等に配置されてよい。本発明の繰出し容器の本体における中枠がネジ部材位置設定用中枠嵌装部を有するとき、その個数は、典型的には、2個以上4個以下であってよい。

[0054] ホック固定用係合部は、本発明の繰出し容器の本体が任意的に有するホックの中枠固定用係合部と係合して、中具を、中枠及びホックで形成される空間中に、相対回転不能、かつ昇降自在に保持する機能を有する。そして、後述するように、ホックは、袴の内部に相対回転自在、かつ昇降不能に装着されるから、中枠は、袴に固定的に装着されるネジ部材に対して、相対回転可

能、かつ昇降不能に保持されることになる。

[0055] ホック固定用係合部は、筒状の中枠の周壁のうちの下端に近い部分に形成された、凹欠部、又は円周方向に延びるスリットであってよい。

[0056] 中枠は、ホック固定用係合部を1個だけ有していてもよいし、2個以上有していてもよい。中枠が2個以上のホック固定用係合部を有するとき、これらのホック固定用係合部は、筒状の中枠の周壁上に、円周に沿って均等に配置されてよい。本発明の繰出し容器の本体における中枠がホック固定用係合部を有するとき、その個数は、典型的には、2個以上4個以下であってよい。

[0057] 中枠は、ネジ部材位置設定用中枠嵌装部及びホック固定用係合部を両方とも有していてもよい。しかしながら、中枠を、ネジ部材に対して、相対回転可能、かつ昇降不能に保持する機能を発揮するためには、ネジ部材位置設定用中枠嵌装部及びホック固定用係合部のうちのいずれか一方を有していれば足りる。ただし、中枠が、ホック固定用係合部を有し、ネジ部材位置設定用中枠嵌装部を有さないとき、繰出し容器の本体は、ホックを具備することが望まれる。

[0058] 中筒回転防止用中枠ツメ部は、本発明の繰出し容器のレフィルにおける中筒が任意的に有する中筒回転防止用中筒係合部（又はこの機能を兼ねる中枠固定用L字スリット）と係合して、中筒と中枠との相対的な回転を抑制する機能を有する。これらの係合によって、袴と中枠とを相対的に回転させて、中具等を上方に繰出し、及び下方に繰戻すときに、中筒と中枠とが相対的に回転しないから、中枠内に相対回転不能に嵌装されている中具、及びこれに固定された中皿の、上方への繰出し、下方への繰戻しを、効率的かつスムーズに行うことができる。

[0059] 中筒回転防止用中枠ツメ部は、筒状の中枠の軸方向中間付近の周壁に形成された、可とう性を有するツメ状の突起であってよい。具体的には、例えば、筒状の中枠の周壁に形成された「Π（パイ）」の字状の切込みの先端（「Π」の字の上の横線）付近に、中枠の内側に向けて突出する突起部を有する

形態であってよい。

[0060] 中枠は、中筒回転防止用中枠ツメ部を1個だけ有していてもよいし、2個以上有していてもよい。中枠が2個以上の中筒回転防止用中枠ツメ合部を有するとき、これらの中筒回転防止用中枠ツメ部は、筒状の中枠の周壁上に、円周に沿って均等に配置されてよい。本発明の繰出し容器の本体における中枠が中筒回転防止用中枠ツメ部を有するとき、その個数は、典型的には、2個以上4個以下であってよい。

[0061] 〈ネジ部材〉

本発明の繰出し容器の本体におけるネジ部材は、袴に固定的に装着されている。このネジ部材は、ネジ部材ネジ軌道を有し、ネジ部材位置設定用ネジ部材嵌装部、ネジ部材固定用ネジ部材係合部等を有してよい。

[0062] ネジ部材ネジ軌道の機能は、以下のとおりである。

[0063] 上述したように、中枠内には、中具が相対回転不能かつ昇降自在に嵌挿されている。更に、本発明の繰出し容器の本体にレフィルを取り付けたとき、中具の中皿固定用鍵状凸部と、中皿の中具固定用凸部とが係合して、中具は、レフィルの中皿と相対的に固定される。

[0064] そして、袴と、上述の中枠とを相対的に回転させたとき、袴に装着されたネジ部材のネジ部材ネジ軌道上を、中具の中具ネジ軌道又は中具凸部が滑動することにより、中具及びこれに固定された中皿を、上方に繰出すこと、及び下方に繰戻すことができる。

[0065] ネジ部材ネジ軌道は、雄ネジであっても、雌ネジであってもよい。

[0066] ネジ部材ネジ軌道が雄ネジであるとき、ネジ部材は、円盤状のネジ部材位置設定用ネジ部材嵌装部と、該ネジ部材位置設定用ネジ部材嵌装部の中心から上方に延びるネジ軸と、該ネジ軸の外周面上に形成されたネジ部材ネジ軌道と、を有してよい。

[0067] ネジ部材位置設定用ネジ部材嵌装部は、中枠のネジ部材位置設定用中枠嵌装部に挿入されて、中枠を、ネジ部材（及びこれを固定的に保持される袴）に対して、相対回転可能、かつ昇降不能に保持する機能を有する。

- [0068] ネジ部材位置設定用ネジ部材嵌装部は、上記の機能を発揮するため、中枠のネジ部材位置設定用中枠嵌装部に挿入されて、スムーズに回転することのできる、直径及び厚さを有してよい。
- [0069] ネジ軸は、ネジ部材位置設定用ネジ部材嵌装部の中心から上方に延びる棒状体であってよい。このネジ軸の長さは、中具及びこれに固定的に装着される中皿、並びに中皿に収納される内容物の昇降長さを規定する。したがって、ネジ軸の長さは、内容物の繰出し長さとはほぼ同じであってよい。
- [0070] ネジ軸は、その外表面に形成されているネジ部材ネジ軌道が、中具の中具ネジ軌道と螺合して、中具等を繰上げ、繰下げることが予定されている。したがって、ネジ軸は、係る機能を有するネジ軌道を形成可能な太さを有してよい。
- [0071] 雄ネジであるネジ部材ネジ軌道は、雌ネジである中具の中具ネジ軌道と螺合して、中具等を繰上げ、繰下げの機能を有する。この機能を発揮できる限り、ネジ部材ネジ軌道の態様は任意である。ネジ部材ネジ軌道は、ネジ軸の長さの全部にわたって形成されていてもよいし、ネジ軸の長さの一部にのみ形成されていてもよい。また、ネジ部材ネジ軌道は、連続したネジ軌道であってもよいし、中具の中具ネジ軌道と螺合し得る限り、途中が中断されていてもよい。
- [0072] ネジ部材固定用ネジ部材係合部は、袴のネジ部材固定用袴係合部と係合して、ネジ部材を袴に固定的に装着する機能を有する。このネジ部材固定用ネジ部材係合部は、ネジ部材ネジ軌道が雄ネジであるとき、ネジ部材に具備されていてよい。
- [0073] ネジ部材固定用ネジ部材係合部は、例えば、ネジ部材位置設定用ネジ部材嵌装部の底面に形成された、鍵状の突起であってよい。
- [0074] ネジ部材は、ネジ部材固定用ネジ部材係合部を1個だけ有していてもよいし、2個以上有していてもよい。ネジ部材が2個以上のネジ部材固定用ネジ部材係合部を有するとき、これらのネジ部材固定用ネジ部材係合部は、円盤状のネジ部材位置設定用ネジ部材嵌装部の底面に、点対象となるように均等

に配置されてよい。本発明の繰出し容器の本体におけるネジ部材がネジ部材固定用ネジ部材係合部を有するとき、その個数は、典型的には、2個以上4個以下であってよい。

[0075] ネジ部材ネジ軌道が雌ネジであるとき、ネジ部材は、円筒状の形状を有し、ネジ部材ネジ軌道は、該円筒状のネジ部材の内周面上に形成されていてよい。

[0076] 雌ネジであるネジ部材ネジ軌道は、この上を中具の中具凸部が滑動して、中具等を繰上げ、繰下げる機能を有する。この機能を発揮できる限り、ネジ部材ネジ軌道の態様は任意である。ネジ部材ネジ軌道は、ネジ部材の軸方向の長さの全部にわたって形成されていてよいし、ネジ部材の軸方向の長さの一部にのみ形成されていてよい。また、ネジ部材ネジ軌道は、連続したネジ軌道であってもよいし、この上を中具の中具凸部が滑動し得る限り、途中が中断されていてよい。

[0077] 〈袴〉

袴は、本発明の繰出し容器の底部にあって、ネジ部材を固定的に装着して、使用者が、ネジ部材を中具等に対して相対的に回転させる操作をし易くする機能を有する。

[0078] 袴は、有底筒状の形状を有してよい。

[0079] 袴は、ネジ部材を固定的に装着するために、例えば、ネジ部材固定用袴係合部を有してよい。このネジ部材固定用袴係合部は、ネジ部材のネジ部材固定用ネジ部材係合部と係合して、上記の機能を発揮することが予定されている。したがって、ネジ部材固定用袴係合部は、例えば、底面の内側に形成された、鍵状の突起であってよい。

[0080] 袴は、ネジ部材のネジ部材固定用ネジ部材係合部と同数のネジ部材固定用袴係合部を、ネジ部材固定用ネジ部材係合部のそれぞれに対応する位置に有してよい。

[0081] 〈フック〉

フックは、中具を、中枠及びフックで形成される空間中に、相対回転不能

、かつ昇降自在に保持するために用いられてよい。

[0082] ホックは、円盤状のホック基板と、このホック基板に形成された中枠固定用係合部を有してよい。この中枠固定用係合部は、中枠のホック固定用係合部と係合して、中枠及びホックで形成される空間を恒常的なものとする機能を有する。したがって、中枠固定用係合部は、ホック基板から上方に突出し、中枠のホック固定用係合部と係合し得る、鍵状の突起物であってよい。

[0083] ホックは、中枠のホック固定用係合部と同数の中枠固定用係合部を、中枠固定用係合部のそれぞれに対応する位置に有してよい。

[0084] ホックは、袴に相對回転可能かつ昇降不能に装着されてよい。このような装着態様によって、袴及びネジ部材の組は、中枠及びホックの組に対して、相對回転可能かつ昇降不能となり、ネジ部材と中枠との相對的回転によって、中枠内に相對回転不能に保持装されている中具の中具ネジ軌道又は中具凸部が、ネジ部材ネジ軌道上を滑動して、中具及びこれに固定された中皿を、上方に繰出し、及び下方に繰戻すことが可能となる。

[0085] 〈外筒〉

本発明の繰出し容器は、外筒を有してよい。外筒は、中枠の外周面を取り囲み、使用者が、中枠を、袴（及びこれに固定的に装着されているネジ部材）に対して相對的に回転させる操作をし易くする機能を有する。

[0086] したがって、外筒は、中枠の外周面を取り囲み得る筒状であってよく、中枠は外筒に固定的に挿入されていてよい。

[0087] 《レフィル》

本発明の繰出し容器のレフィルは、中皿及び中筒を含む。レフィルは、更に、仮栓を有していてもよい。

[0088] 〈中皿〉

中皿は、略筒状の形状を有してよく、内容物収納部及び中具固定用凸部を有し、更に、中皿回転防止用中皿係合部、中皿仕切り段、内容物固定用凸部等を有してよい。

- [0089] 内容物収納部は、棒状の内容物（例えば口紅）の下端部を収納及び保持するための空間である。内容物の上端は、内容物収納部から上方に突出して露出する。
- [0090] 中皿は、中皿仕切り段を有してよい。筒状の中皿の内部空間は、この中皿仕切り段によって上下に分割されていてよく、中皿の内部空間のうちの中皿仕切り段より上側の空間が、内容物収納部であってよい。中皿仕切り段は、1個又は2個以上の内容物充填用空気抜き孔を有してよい。この内容物充填用空気抜き孔は、中皿仕切り段を貫通する孔であり、中皿に内容物を充填する際、内容物収納部の下部の空気を内容物充填部外に逃がし、内容物収納部に内容物を充填し易くする機能を有する。
- [0091] 中皿は、更に、中皿の周壁の内周面から内側（内容物収納部側）に突出する、内容物固定用凸部を有してよい。内容物固定用凸部は、内容物収納部に充填された内容物に食い込んで、内容物と内皿との相対的な移動を抑制する機能を有する。
- [0092] 中具固定用凸部は、本発明の繰出し容器の本体にレフィルを取り付けたとき、本体の中具の中皿固定用鍵状凸部と係合して、中具と中皿とを相対的に固定する機能を有する。
- [0093] 中具固定用凸部は、例えば、筒状の中皿の外周面のうちの下端に近い部分に形成されたレリーフ状突出部であってよい。中具固定用凸部の形状は、中具の中皿固定用鍵状凸部と係合し得る限り任意であり、例えば、矩形、半球状等の突出部であってよい。
- [0094] 中皿回転防止用中皿係合部は、中筒の中皿回転防止用中筒係合部と係合して、本体にレフィルを取り付けるまでの間、中皿と中筒とを相対的に固定する機能を有する。
- [0095] しかしながら、本体にレフィルを取り付けた後には、中皿は、中具固定用凸部及び中皿固定用鍵状凸部を介して、本体の中具に固定され、中筒は、中枠固定用L字スリット及び中枠固定用凸部を介して、本体の中枠に固定される。したがって、本体にレフィルを取り付けた後には、中皿と中具とを、直

接固定する実益は減ずる。

[0096] また、本発明の繰出し容器では、袴と中枠とを相対的に回転させたとき、中皿は、中筒に対して上下方向に移動して、繰出され、又は繰戻されることが予定されているので、中皿と中具との固定は、暫定的なものであることが望まれる。

[0097] これらの観点から、中皿回転防止用中皿係合部は、例えば、筒状の中皿の外周面のうちの下端に近い部分に形成された2つの切込みに囲まれて、中皿の半径方向に可とう性を付与された領域に形成された突出部であってよい。この構成により、中皿を中筒に対して繰出すときときには、中皿回転防止用中皿係合部の形成領域は、その可撓性によって、中皿の半径方向内側方向にたわみ、中皿回転防止用中皿係合部と中皿回転防止用中筒係合部との係合は解除され、中皿は、中筒に対して、相対的に昇降することが可能となる。

[0098] 中皿は、中皿固定用鍵状凸部を1個だけ有していてもよいし、2個以上有していてもよい。中皿が2個以上の中皿回転防止用中皿係合部を有するとき、これらの中皿回転防止用中皿係合部は、筒状の中皿の外周面の円周部上に、円周に沿って均等に配置されてよい。本発明の繰出し容器の本体における中皿は、典型的には、2個以上4個以下の中皿固定用鍵状凸部を有する。

[0099] 本発明の繰出し容器のレフィルにおいて、内皿は中筒内に相対回転不能かつ昇降自在に嵌挿されている。

[0100] 〈中筒〉

中筒は、略筒状の形状を有し、中枠固定用L字スリットを有し、中皿回転防止用中筒係合部、中筒回転防止用中筒係合部等を有していてもよい。

[0101] 中筒は、略筒状の形状を有する。この筒状の形状は、上端が斜めに切断された形状を有してよい。この構成により、内容物が例えば口紅である場合の使用感が向上する。

[0102] 中枠固定用L字スリットは、繰出し容器の本体にレフィルを組み付けたとき、本体の中枠が任意的に有する中筒固定用凸部と係合して、中筒を中枠に着脱自在に固定する機能を有する。そして、この機能によって、本発明の繰

出し容器の本体には、レフィルを着脱自在に取り付けることができる。

- [0103] 中枠固定用L字スリットは、中筒の下端から上方に延びる直線状の縦切込み部、及び当該縦切込み部の上端から円周方向に延びる直線状の横切込み部から成る、L字状の切込み部であってよい。
- [0104] 本体にレフィルを差し込むとき、中枠の中筒固定用凸部は、中筒の中枠固定用L字スリットの縦切込み部を、下方から上方に滑動する。中筒固定用凸部が中枠固定用L字スリットの縦切込み部の上端に至った後、レフィルと本体とを相対的に回転させることにより、中筒固定用凸部は、中枠固定用L字スリットの横切込み部に入って係合して、中筒は、中枠に固定される。
- [0105] 本発明の繰出し容器のレフィルにおける中筒は、中枠の有する中筒固定用凸部と同数の中枠固定用L字スリットを、中筒固定用凸部のそれぞれと対応する場所に、有してよい。
- [0106] 中皿回転防止用中筒係合部は、中皿の中皿回転防止用中皿係合部と係合して、本体にレフィルを取り付けるまでの間、中皿と中筒とを相対的に固定する機能を有する。
- [0107] 中皿回転防止用中筒係合部は、例えば、筒状の中筒の下端付近に形成された孔であってよい。この孔の形状及び大きさは、中皿の中皿回転防止用中皿係合部と、容易に係合し、かつ容器に係合が解除できる形状及び大きさであってよい。
- [0108] 本発明の繰出し容器のレフィルにおける中筒は、中皿の有する中皿回転防止用中皿係合部と同数の中皿回転防止用中筒係合部を、中皿回転防止用中皿係合部のそれぞれと対応する場所に、有してよい。
- [0109] 中筒回転防止用中筒係合部は、本発明の繰出し容器の本体における中枠が任意的に有する中筒回転防止用中枠ツメ部と係合して、中筒と中枠との相対的な回転を抑制する機能を有する。このことによって、袴と中枠とを相対的に回転させたときの、中具及び中皿の、上方への繰出し、及び下方への繰戻しを、効率的かつスムーズに行うことができる。
- [0110] 中筒回転防止用中筒係合部は、繰出し容器の本体における中枠の中筒回転

防止用中枠ツメ部との可逆的な係合が可能のように、筒状の中枠の周壁に形成された凹欠部（孔）であってよい。

[0111] 本発明の繰出し容器のレフィルにおける中筒は、中枠の有する中筒回転防止用中枠ツメ部と同数の中筒回転防止用中筒係合部を、中筒回転防止用中枠ツメ部のそれぞれと対応する場所に、有してよい。

[0112] 本発明の繰出し容器のレフィルにおける中筒は、中筒回転防止用中筒係合部を有さず、中枠固定用Ｌ字スリットに、中筒回転防止用中筒係合部の機能を持たせてもよい。この場合、中枠固定用Ｌ字スリットは、中筒を中枠に着脱自在に固定する機能とともに、中枠の回転を抑制する機能を併有する。

[0113] 〈仮栓〉

本発明の繰出し容器のレフィルは、搬送中、販売展示中、及び使用者が購入後、本体に取り付けるまでの間に、内容物を保護するため、又は複数種の内容物を使い分ける際に使用していないレフィルの内容物を保護するための、仮栓を有していてもよい。この仮栓は、中筒の上部を覆う形状の蓋、及び中筒の下部を覆う形状の蓋のうちの１つ以上であってよい。

[0114] 使用者が本体にレフィルを組み付けて、内容物の使用が開始された後には、仮栓は廃棄されてもよいし、複数種の内容物を使い分ける際に使用していないレフィルの内容物を保護するために保管されてもよい。

[0115] 《尾栓》

本発明の繰出し容器は、上記のような本体及びレフィルの他、更に、尾栓を含んでいてよい。

[0116] 尾栓は、使用者が本体にレフィルを組み付けて、内容物の使用が開始された後に、内容物を保護する機能を有する。使用者は、仮栓付きのレフィルを購入後、本体に組み付けて繰出し容器とした後に、仮栓を廃棄して、尾栓を装着する。使用時には、繰出し容器から尾栓を外したうえで、袴と中枠（又は中枠を固定的に覆う外筒）とを相対的に回転させて、中具及びこれに固定された中皿、並びに中皿に収納された内容物を繰り出して、使用に供する。使用後には、袴と中枠とを逆方向に相対的に回転させて、内容物を繰り戻し

、尾栓を装着して、次回の使用まで保管することになる。

[0117] 尾栓は、中筒を覆い得る、天井を有する筒状体であってよい。尾栓の底部は、本体にレフィルを組み付けた状態で、袴の上端又はその近傍に至ってよい。

[0118] 《本体へのレフィルの組み付け、及び取り外し》

本発明の繰出し容器では、本体にレフィルを着脱自在に組み付けることが可能である。すなわち、本発明の繰出し容器では、本体にレフィルを組み付けること、及び本体からレフィルを取り外すこと、が容易にできる。

[0119] 本体にレフィルを組み付けるときには、上述したとおり、先ず、本体にレフィルを差し込む。このとき、レフィルの中枠が有する中筒固定用凸部は、本体の中筒の中枠固定用Ｌ字スリットの縦切込み部を、下方から上方に滑動する。そして、中筒固定用凸部が中枠固定用Ｌ字スリットの縦切込み部の上端に至った後に、レフィルと本体とを相対的に回転させることにより、中筒固定用凸部は、中枠固定用Ｌ字スリットの横切込み部に入って係合して、中筒は、中枠に固定される。

[0120] また、中枠の中筒固定用凸部と、中筒の中枠固定用Ｌ字スリットとが係合したとき、同時に、本体の中具の中皿固定用鍵状凸部と、レフィルの中皿の中具固定用凸部とが係合して、中具と中皿とが相対的に固定される。

[0121] 上記の、中枠の中筒固定用凸部と中筒の中枠固定用Ｌ字スリットとの係合、及び中具の中皿固定用鍵状凸部と中皿の中具固定用凸部との係合は、いずれも、可逆であるので、レフィルは、本体に着脱自在に取り付けることが可能となる。

[0122] 《繰出し機構》

本体にレフィルを組み付けた後の繰出し容器では、袴と中枠（又は中枠を固定的に覆う外筒）とを相対的に回転させることにより、中具及びこれに固定された中皿、並びに中皿に収納された内容物を繰り出し、及び繰り戻すことができる。

[0123] すなわち、袴には、ネジ部材ネジ軌道を有するネジ部材が、固定的に装着

されている。また、中枠には、レフィルの中筒が固定的に組み付けられている。中枠には、更に、中具ネジ軌道又は中具凸部を有する中具が、相対回転不能かつ昇降自在に嵌挿されている。そして、中枠と、ネジ部材との間では、相対回転は可能であるが、相対的な昇降は不能である。したがって、中枠と、ネジ部材が固定的に装着されている袴との間にも、同様に、相対回転は可能であるが、相対的な昇降は不能の関係がある。

[0124] 一方、中具には、レフィルの中皿が固定的に組み付けられており、中皿には棒状の内容物が収容されている。

[0125] したがって、本体の袴と中枠（又は中枠を固定的に覆う外筒）とを相対的に回転させると、袴に固定的に装着されているネジ部材と、中枠に相対回転不能かつ昇降自在に嵌挿されている中具とが、相対的に回転する。そうすると、中具の中具ネジ軌道又は中具凸部は、ネジ部材のネジ部材ネジ軌道上を滑動して、中具は、袴、ネジ部材、中枠、及び中筒に対して、相対的に昇降する。これにより、中具に固定的に組み付けられた中皿も中具とともに昇降するから、中皿に収容された内容物も、昇降する。したがって、中皿の上方に突出している内容物の先端が、中枠の上部に繰出され、及び下方に繰戻されることになるのである。

[0126] 本発明の別の観点によると、

中皿及び中筒を含み、
前記中皿は、中具係合用凸部、及び内容物収納部を有し、
前記中筒内に相対回転不能かつ昇降自在に嵌挿されており、
本発明の繰出し容器に用いられる、
繰出し容器のレフィルが提供される。

[0127] 本発明の更に別の観点によると、

中具、中枠、ネジ部材、及び袴を含み、
前記中具は、中皿固定用鍵状凸部を有し、前記中枠内に相対回転不能かつ昇降自在に嵌挿されており、
前記中枠は、前記袴内に相対回転自在かつ昇降不能に嵌挿されており、

前記ネジ部材は、ネジ部材ネジ軌道を有し、

前記中具は、前記ネジ部材のネジ部材ネジ軌道と螺合する中具ネジ軌道、又は前記ネジ部材のネジ部材ネジ軌道を滑動し得る中具凸部を有し、

前記ネジ部材は、前記袴に固定的に装着されており、

本発明の繰出し容器に用いられる、

繰出し容器の本体が提供される。

[0128] 《実施形態 1》

実施形態 1 の繰出し容器の形態を表す図を、図 1 ～図 21 に示す。これらのうち、図 1 ～図 11 は本体に関し、図 12 ～図 15 はレフィルに関し、図 16 ～図 20 は本体へのレフィルの組み付けに関し、図 21 は繰出し機構に関する。

[0129] 〈本体〉

図 1 及び図 2 に、実施形態 1 の繰出し容器の本体における中具を示す。図 1 (A) は中具の斜視図であり、図 1 (B) は、図 1 (A) の A-A 線断面図である。また、図 2 (A) は、中具の上面図、図 2 (B) は下面図、図 2 (C) は正面図、図 2 (D) は右側面図である。

[0130] 図 1 及び図 2 に示した中具 (110) は、略筒状の形状を有しており、中皿固定用鍵状凸部 (121)、中具ネジ軌道 (131)、及び中具回転防止用凸部 (122) を有している。

[0131] 図 1 及び図 2 の中具 (110) における中皿固定用鍵状凸部 (121) は、中具 (110) の外周面のうちの上端に近い部分に形成された逆 L 字状のレリーフ状の突出部である。中具 (110) は、筒状の形状の外表面の上端付近において、円周の中心を介して相対する位置に、2 個の中皿固定用鍵状凸部 (121) を有する。

[0132] 中具 (110) の中具ネジ軌道 (131) は、筒状の形状の中具 (110) における、内周面上に形成された一連の雌ネジである。

[0133] 中具 (110) の中具回転防止用凸部 (122) は、外周面のうちの下端に近い部分に形成された縦長の突出部である。中具 (110) は、筒状の形

状の外表面の下端付近において、円周の中心を介して相対する位置に、２個の中具回転防止用凸部（１２２）を有する。

[0134] 中具は、一体の部品として構成されていてもよいし、２つの部品、例えば、中具外周部及び中具内ネジ部から構成されていてもよい。図３に、中具（１１０）を構成する中具外周部（１２０）及び中具内ネジ部（１３０）の斜視図を示す。図３の態様では、中具外周部（１２０）は、略筒状の形状を有し、外周面に、中皿固定用鍵状凸部（１２１）及び中具回転防止用凸部（１２２）を有している。また、中具内ネジ部（１３０）は、略筒状の形状を有し、かつ、中具外周部（１２０）内に嵌装されており、中具ネジ軌道（１３１）を有している。

[0135] 中具内ネジ部（１３０）は、中具外周部（１２０）内に固定的に嵌装されている。図３の中具外周部（１２０）では、平滑な外周面を有する中具内ネジ部（１３０）が、平滑な内周面を有する中具外周部（１２０）内に嵌装されている。

[0136] 中具（１１０）が、中具外周部（１２０）及び中具内ネジ部（１３０）から構成される場合の別態様として、中具内ネジ部（１３０）が、その外周面に雄ネジ軌道を有し、中具外周部（１２０）が、その内周面に雌ネジ軌道を有する、二重ネジ構造が挙げられる。この場合、中枠縦スリット（１４１）の長さを短くすることができ、中枠の強度を高く維持することが可能となる。

[0137] すなわち、中枠縦スリット（１４１）が短いと、本体の袴と中枠とを相対的に回転させて中具が上昇するとき、中具外周部（１２０）の中具回転防止用凸部（１２２）が中枠縦スリット（１４１）の上端に接触して、中具外周部（１２０）のそれ以上の上昇が阻まれることになる。しかし、中具（１１０）が二重ネジ構造であると、中具外周部（１２０）の上昇が阻まれたとき、中具外周部（１２０）内周面に雌ネジ軌道上を中具内ネジ部（１３０）外周面の雄ネジ軌道が滑動して、中具内ネジ部（１３０）のみが上昇を続けることができ、中皿（２１０）及びこれに収納された内容物を、更に繰出すこ

とができる。

[0138] 図4に、実施形態1の繰出し容器の本体における中枠を示す。図4（A）は中枠の斜視図であり、図4（B）は、図4（A）のA－A線断面図であり、図4（C）は、B－B線断面図である。

[0139] 図4に示した中枠（140）は、略筒状の形状を有している。図4の中枠（140）は、上部が下部に比べて、少し太く形成されており、軸方向の中央付近に中枠段差（145）を有する。しかしながら、この態様は、必須的なものではない。

[0140] 図4の中枠（140）は、中枠縦スリット（141）、中筒固定用凸部（142）、ネジ部材位置設定用中枠嵌装部（143）、及び中筒回転防止用中枠ツメ部（144）を有している。

[0141] 図4の中枠（140）における中枠縦スリット（141）は、筒状の中枠の下端から上方に向かって伸びる直線状のスリットである。中枠縦スリット（141）の幅は、中具（110）の中具回転防止用凸部（122）の幅よりも僅かに大きい。中枠縦スリット（141）は、中枠縦スリット（141）の上側に存在し、中枠の周壁の内周面の一部を薄肉化して成る、中枠縦スリット薄肉部（141a）と、中枠縦スリット（141）の下側に存在し、中枠の周壁の内周面の一部を切り欠いて貫通させて成る、中枠縦スリット貫通部（141b）と、から構成されている。

[0142] 中枠縦スリット（141）の長さ（中枠縦スリット薄肉部（141a）及び中枠縦スリット貫通部（141b）の合計長さ）は、中枠（140）の長さの約90%である。

[0143] 中枠（140）は、筒状の形状の外表面において、円周の中心を介して相対する位置に、2個の中枠縦スリット（141）を有する。

[0144] 中筒固定用凸部（142）は、筒状の中枠（140）の内周面のうちの上端に近い部分に形成された、略半球状の突起である。中枠（140）は、筒状の形状の内周面において、円周の中心を介して相対する位置に、2個の中筒固定用凸部（142）を有する。

- [0145] ネジ部材位置設定用中枠嵌装部（１４３）は、筒状の中枠（１４０）の周壁のうちの下端に近い部分に形成された、円周方向に延びるスリットである。中枠（１４０）は、筒状の形状の周壁において、円周の中心を介して相対する位置に、２個のネジ部材位置設定用中枠嵌装部（１４３）を有する。
- [0146] 中筒回転防止用中枠ツメ部（１４４）は、筒状の中枠（１４０）の軸方向中間付近の周壁に形成された、「コ」の字状の切れ込みの先端（「コ」の字の縦線）付近に、中枠の内側に向けて突出する突起部を有する形態である。この「コ」の字状の切れ込みでは、「コ」の字の２本の横線が、中枠（１４０）の円周方向に延びている。
- [0147] 中枠（１４０）は、筒状の形状の周壁において、円周の中心を介して相対する位置に、２個の中筒回転防止用中枠ツメ部（１４４）を有する。
- [0148] 図５に、実施形態１の繰出し容器の本体における、中枠及び中具の関係を示す。図５（Ａ）は中枠及び中具の斜視図であり、図５（Ｂ）は、図５（Ａ）のＡ－Ａ線断面図である。
- [0149] 図５を参照すると、中枠（１４０）の中枠縦スリット（１４１）内に、中具（１１０）の中具回転防止用凸部（１２２）が嵌装されることにより、中具（１１０）が中枠（１４０）内に相対回転不能かつ昇降自在に嵌挿されている態様が理解できる。ここで、中枠（１４０）内における中具（１１０）の昇降可能範囲は、中具（１１０）の中具回転防止用凸部（１２２）が、中枠縦スリット薄肉部（１４１ａ）及び中枠縦スリット貫通部（１４１ｂ）の合計の範囲を動き得る範囲である点に留意されたい。
- [0150] 図６に、実施形態１の繰出し容器の本体における、ネジ部材を示す。図６（Ａ）はネジ部材の斜視図であり、図６（Ｂ）は上面図であり、図６（Ｃ）は下面図であり、図６（Ｄ）は正面図である。
- [0151] 図６に示したネジ部材（１５０）は、略円盤状のネジ部材位置設定用ネジ部材嵌装部（１５３）と、このネジ部材位置設定用ネジ部材嵌装部（１５３）の中心から上方に突出している棒状のネジ軸（１５２）と、ネジ軸（１５２）上に形成されたネジ部材ネジ軌道（１５１）と、ネジ部材位置設定用ネ

ジ部材嵌装部（１５３）の底面に形成されたネジ部材固定用ネジ部材係合部（１５４）と、を有する。

[0152] ネジ部材位置設定用ネジ部材嵌装部（１５３）は、略円盤状である。この円盤の厚さは、中枠（１４０）のネジ部材位置設定用中枠嵌装部（１４３）のスリットの幅よりも少し小さい。また、ネジ部材位置設定用ネジ部材嵌装部（１５３）の円盤の直径は、中枠（１４０）のネジ部材位置設定用中枠嵌装部（１４３）形成部の内径よりも少し大きい。このようなサイズ構成とすることにより、ネジ部材位置設定用ネジ部材嵌装部（１５３）は、ネジ部材位置設定用中枠嵌装部（１４３）に挿入されて、スムーズに回転し得ることになる。

[0153] 実施形態１の繰出し容器の本体では、以上のことによって、中枠（１４０）が、ネジ部材（１５０）に対して、相対回転可能かつ昇降不能に装着されている。

[0154] 実施形態１の繰出し容器の本体では、ネジ部材ネジ軌道（１５１）は雄ネジであり、ネジ軸（１５２）上に形成されている。ネジ軸（１５２）の直径は、ネジ部材位置設定用ネジ部材嵌装部（１５３）の直径の約５０％程度と、比較的太い。これは、ネジ軸（１５２）上に形成されるネジ部材ネジ軌道（１５１）が、中具（１１０）の中具ネジ軌道（１３１）と効果的な螺合を形成して、中具（１１０）等のスムーズな繰上げ及び繰下げを実現するためである。

[0155] 図６のネジ部材（１５０）において、ネジ軸（１５２）の全長のうちの、上方の一部分のみに、ネジ部材ネジ軌道（１５１）が形成されている。このような態様も、ネジ部材ネジ軌道（１５１）と中具ネジ軌道（１３１）との効果的な螺合を形成し得る限りで、好ましい。

[0156] ネジ部材固定用ネジ部材係合部（１５４）は、ネジ部材位置設定用ネジ部材嵌装部（１５３）の底面に形成された、鍵状の突起である。ネジ部材（１５０）は、ネジ部材位置設定用ネジ部材嵌装部（１５３）の底面において、該底面の中心を介して相対する位置に、２個のネジ部材固定用ネジ部材係合

部（１５４）を有する。

[0157] 図７に、実施形態１の繰出し容器の本体における、袴を示す。図７（Ａ）は袴の斜視図であり、図７（Ｂ）は、図７（Ａ）のＡ－Ａ線断面図である。

[0158] 図７の袴（１６０）は、有底の略円筒状である。袴（１６０）の底面には、ネジ部材（１５０）の２個のネジ部材位置設定用ネジ部材嵌装部（１５３）のそれぞれと係合し得る位置に、２個のネジ部材固定用袴係合部（１６１）が形成されている。

[0159] 図８に、袴（１６０）にネジ部材（１５０）を固定的に装着した状態を示す。図８（Ａ）は袴及びネジ部材の斜視図であり、図８（Ｂ）は、図８（Ａ）のＡ－Ａ線断面図である。図８（Ｂ）の断面図には、袴（１６０）のネジ部材固定用袴係合部（１６１）と、ネジ部材（１５０）のネジ部材位置設定用ネジ部材嵌装部（１５３）とが係合している様子が示されている。

[0160] 図９に、実施形態１の繰出し容器の本体において、袴及びネジ部材と、中具とを組み合わせた状態を示す。図９（Ａ）は、実施形態１の繰出し容器の本体における袴（１６０）、ネジ部材（１５０）、及び中具（１１０）の斜視図であり、図９（Ｂ）は、図９（Ａ）のＡ－Ａ線断面図である。

[0161] また、図９（Ｃ）は、図９（Ｂ）の状態から、袴（１６０）及びネジ部材（１５０）と、中具（１１０）とを相対的に回転させて、中具（１１０）を少し繰上げた状態を示す断面図である。袴（１６０）及びネジ部材（１５０）と、中具（１１０）とを相対的に回転させると、ネジ部材（１５０）のネジ部材ネジ軌道（１５１）が、中具（１１０）の中具ネジ軌道（１３１）上を滑動して、中具（１１０）が、袴（１６０）及びネジ部材（１５０）に対して相対的に上昇する。

[0162] 実施形態１の繰出し容器の本体は、外筒を有している。図１０に外筒を示す。図１０（Ａ）は外筒の斜視図であり、図１０（Ｂ）は、図１０（Ａ）のＡ－Ａ線断面図である。

[0163] 図１０の外筒（１８０）は、略円筒形状である。図１０（Ｂ）の断面図を見ると、外筒（１８０）の下端付近には、半径方向内側に突出する外筒突出

部（１８１）が確認できる。これは、外筒（１８０）中に中枠（１４０）を挿入したとき、中枠（１４０）が軸方向の中央付近に有する中枠段差（１４５）と係合して、外筒（１８０）と中枠（１４０）との一体性を高め、袴（１６０）と中枠（１４０）との相対的な回転を容易化するための部位である。しかしながら、この突出部は、本発明の繰出し容器の外筒に必須的なものではない。

[0164] 図１１に、実施形態１の繰出し容器の本体の全体像を示す。図１１（Ａ）は本体の斜視図であり、図１１（Ｂ）は、図１１（Ａ）のＡ－Ａ線断面図であり、図１１（Ｃ）は、図１１（Ａ）のＢ－Ｂ線断面図である。

[0165] 図１１（Ａ）の斜視図では、実質的に、袴（１６０）及び外筒（１８０）が見えるだけである。しかしながら、図１１（Ｂ）及び図１１（Ｃ）の断面図を参照すると、以下のことが理解できる。

ネジ部材（１５０）が、ネジ部材固定用ネジ部材係合部（１５４）及びネジ部材固定用袴係合部（１６１）を介して、袴（１６０）に固定的に装着されていること、

ネジ部材位置設定用ネジ部材嵌装部（１５３）が、ネジ部材位置設定用中枠嵌装部（１４３）に嵌装されることにより、中枠（１４０）が、ネジ部材（１５０）を介して、袴（１６０）内に相対回転自在かつ昇降不能に嵌挿されていること、

中具回転防止用凸部（１２２）が、中枠縦スリット（１４１）内に嵌装されることにより、中具（１１０）が、中枠（１４０）内に相対回転不能かつ昇降自在に嵌挿されていること、

ネジ部材（１５０）のネジ部材ネジ軌道（１５１）と、中具（１１０）の中具ネジ軌道（１３１）とが螺合していること、及び

中枠（１４０）が、外筒（１８０）中に固定的に挿入されていること。

[0166] 以上の構成により、実施形態１の繰出し容器の本体では、袴（１６０）と外筒（１８０）とを相対的に回転させることにより、中具（１１０）の中具ネジ軌道（１３１）が、ネジ部材（１５０）のネジ部材ネジ軌道（１５１）

上を滑動するので、中具（１１０）を、中枠（１４０）、ネジ部材（１５０）、袴（１６０）、及び外筒（１８０）に対して昇降させることができる。

[0167] 〈レフィル〉

図１２に、実施形態１の繰出し容器のレフィルにおける中皿を示す。図１２（Ａ）は、中皿の斜視図であり、図１２（Ｂ）は中皿の上面図であり、図１２（Ｃ）は中皿の下面図であり、図１２（Ｄ）は図１２（Ａ）のＡ－Ａ線断面図であり、図１２（Ｅ）は、図１２（Ａ）のＢ－Ｂ線断面図である。

[0168] 図１２の中皿（２１０）は、略筒状の形状を有し、内容物収納部（２１１）、中皿仕切り段（２１４）、中具固定用凸部（２１２）、及び中皿回転防止用中皿係合部（２１３）を有している。

[0169] 中皿（２１０）は、筒状の内部空間を上下に分割する中皿仕切り段（２１４）を有しており、中皿（２１０）の内部空間のうちの中皿仕切り段（２１４）より上側の空間が、内容物収納部（２１１）である。また、中皿仕切り段（２１４）は、その半径方向に相対する２カ所に、それぞれ、内容物充填用空気抜き孔（２１４ａ）を有している。

[0170] なお、中皿（２１０）は、その周壁の内周面から内容物収納部（２１１）に突出する、内容物固定用凸部を有しているが、図１２には図示されていない。

[0171] 中具固定用凸部（２１２）は、中皿（２１０）の周壁のうちの下端に近い部分の内周面から内側に突出する、略矩形の突出部である。中皿（２１０）は、周壁のうちの下端に近い部分において、円周の中心を介して相対する位置に、２個の中具固定用凸部（２１２）を有する。

[0172] また、中皿回転防止用中皿係合部（２１３）は、中皿（２１０）の周壁のうちの下端に近い部分の外周面から外側に突出する、かまぼこ型の突出部である。この中皿回転防止用中皿係合部（２１３）の両側には、中皿（２１０）の周壁の下端から上方に延びる切込みが形成されており、中皿回転防止用中皿係合部（２１３）の形成領域には可とう性が付与されている。

[0173] 中皿（２１０）は、周壁のうちの下端に近い部分において、円周の中心を

介して相対する位置に、２個の中皿回転防止用中皿係合部（２１３）を有する。

[0174] 中皿（２１０）の内容物収納部（２１１）に、内容物（３００）として口紅を収納した状態を、図１３に示す。図１３（Ａ）は斜視図であり、図１３（Ｂ）は図１３（Ａ）のＡ－Ａ線断面図である。

[0175] 図１４に、実施形態１の繰出し容器のレフィルにおける中筒を示す。図１４（Ａ）は、中筒の斜視図であり、図１４（Ｂ）は中筒の上面図であり、図１４（Ｃ）は中筒の下面図であり、図１４（Ｄ）は中筒の正面図である。

[0176] 図１４の中筒（２２０）は、略筒状の形状を有し、中枠固定用Ｌ字スリット（２２１）、中皿回転防止用中筒係合部（２２２）、及び中筒回転防止用中筒係合部（２２３）を有している。

[0177] 中筒（２２０）は、略筒状の形状を有するが、その上端が斜めに切断された形状である。

[0178] 中枠固定用Ｌ字スリット（２２１）は、中筒の下端から上方に延びる直線状の縦切込み部（２２１ａ）、及び縦切込み部（２２１ａ）の上端から円周方向に延びる直線状の横切込み部（２２１ｂ）から成る、Ｌ字状のスリットである。中枠固定用Ｌ字スリット（２２１）において、横切込み部（２２１ｂ）の長さは、縦切込み部（２２１ａ）に比べて短い。

[0179] 中筒（２２０）は、本体の中枠（１４０）が有する中筒固定用凸部（１４２）のそれぞれに対応する位置に、２個の中枠固定用Ｌ字スリット（２２１）を有している。

[0180] 中皿回転防止用中筒係合部（２２２）は、中筒（２２０）の下端付近に形成された略矩形の孔である。中筒（２２０）は、中皿（２１０）が有する中皿回転防止用中皿係合部（２１３）のそれぞれに対応する位置に、２個の中皿回転防止用中筒係合部（２２２）を有している。

[0181] 中筒回転防止用中筒係合部（２２３）は、中筒（２２０）の下端からやや上に形成された、縦長略矩形の孔である。中筒（２２０）は、本体の中枠（１４０）が有する中筒回転防止用中枠ツメ部（１４４）のそれぞれに対応す

る位置に、２個の中筒回転防止用中筒係合部（２２３）を有している。

[0182] 実施形態１の繰出し容器のレフィルにおいて、内皿は、中筒内に相対回転不能かつ昇降自在に嵌挿されている。中皿を中筒内に嵌挿した状態を、図１５に示す。図１５（Ａ）は、中皿及び中筒の斜視図であり、図１５（Ｂ）は図１５（Ａ）のＡ－Ａ線断面図である。また、図１５（Ｃ）は、図１５（Ｂ）の状態から、中皿が少し繰上がった状態を示す断面図である。

[0183] 中皿（２１０）が、中筒（２２０）中で最も下にある図１５（Ａ）及び図１５（Ｂ）の状態では、中皿（２１０）の中皿回転防止用中皿係合部（２１３）が、中筒（２２０）の中皿回転防止用中筒係合部（２２２）と係合して、中皿（２１０）と中筒（２２０）との相対的な回転は抑制されている。しかし、図１５（Ｃ）に示すように、中皿回転防止用中皿係合部（２１３）形成領域の可とう性によって、中皿回転防止用中皿係合部（２１３）と中皿回転防止用中筒係合部（２２２）との係合が解除されて、中皿（２１０）は中筒（２２０）に対して繰上がるができる。

[0184] 〈本体へのレフィルの組み付け〉

実施形態１の繰出し容器では、本体にレフィルを差し込んで、本体とレフィルとを相対的に少し回転させることにより、本体にレフィルを組み付けることができる。また、本体にレフィルを組み付けた状態において、本体とレフィルとを相対的に少し回転させることにより、本体からレフィルを引き抜くことが可能となる。

[0185] 図１６に、実施形態１の繰出し容器の本体にレフィルを差し込んでいる途中の状態を示す。図１６（Ａ）は、本体にレフィルを差し込んでいる途中の状態において、本体の中枠及びレフィルの中筒の部分のみを表した斜視図であり、図１６（Ｂ）は、図１６（Ａ）のＡ－Ａ線断面図である。

[0186] 図１６の状態において、本体の中枠（１４０）の中筒固定用凸部（１４２）は、レフィルの中筒（２２０）の中枠固定用Ｌ字スリット（２２１）のうちの縦切込み部（２２１ａ）に嵌装されている。本体にレフィルを差し込んでいる途中では、本体の中枠（１４０）の中筒固定用凸部（１４２）は、レ

フィルの中筒（２２０）の中枠固定用Ｌ字スリット（２２１）のうちの縦切込み部（２２１ａ）中を、下から上に滑動する。

[0187] 図１７及び図１８に、繰出し容器の本体にレフィルを差し込んで、組み付ける直前の状態を示した。図１７（Ａ）は、本体の中枠及びレフィルの中筒の部分のみを表した斜視図であり、図１７（Ｂ）は、図１７（Ａ）のＡ－Ａ線断面図である。また、図１８（Ａ）は、本体の中具及びレフィルの中皿の部分のみを表した斜視図であり、図１８（Ｂ）は、図１８（Ａ）のＡ－Ａ線断面図である。

[0188] 本体とレフィルとを組み付ける直前の状態では、図１７に示したように、本体の中枠（１４０）の中筒固定用凸部（１４２）は、レフィルの中筒（２２０）の中枠固定用Ｌ字スリット（２２１）のうちの縦切込み部（２２１ａ）の最上部に至っている。また、図１８に示したように、レフィルの中皿（２１０）の中具固定用凸部（２１２）は、本体の中具（１１０）の中皿固定用鍵状凸部（１２１）と係合可能な高さに至っている。

[0189] 図１９及び図２０は、図１７及び図１８の状態から、本体とレフィルとを相対的に少し回転させて、組み付けたときの状態を示す。図１９（Ａ）は、本体の中枠及びレフィルの中筒の部分のみを表した斜視図であり、図１９（Ｂ）は図１９（Ａ）のＡ－Ａ線断面図であり、図１９（Ｃ）は図１９（Ａ）のＢ－Ｂ線断面図である。また、図２０（Ａ）は、本体の中具及びレフィルの中皿の部分のみを表した斜視図であり、図２０（Ｂ）は、図２０（Ａ）のＡ－Ａ線断面図である。

[0190] 本体にレフィルを組み付けた状態では、図１９に示したように、本体の中枠（１４０）の中筒固定用凸部（１４２）は、レフィルの中筒（２２０）の中枠固定用Ｌ字スリット（２２１）のうちの横切込み部（２２１ｂ）に入り込んで、係合している。更に、中枠（１４０）の中筒回転防止用中枠ツメ部（１４４）は、レフィルの中筒（２２０）の中筒回転防止用中筒係合部（２２３）と係合している。

[0191] また、図２０に示したように、レフィルの中皿（２１０）の中具固定用凸

部（２１２）は、本体の中具（１１０）の中皿固定用鍵状凸部（１２１）の鍵形状の部分に入り込んで、係合している。

[0192] 実施形態１の繰出し容器では、本体にレフィルを組み付けると、上記のように、

本体の中枠（１４０）の中筒固定用凸部（１４２）と、レフィルの中筒（２２０）の中枠固定用Ｌ字スリット（２２１）との係合、

本体の中枠（１４０）の中筒回転防止用中枠ツメ部（１４４）と、レフィルの中筒（２２０）の中筒回転防止用中筒係合部（２２３）との係合、及び

本体の中具（１１０）の中皿固定用鍵状凸部（１２１）と、レフィルの中皿（２１０）の中具固定用凸部（２１２）との係合が同時に起こる。

[0193] 〈繰出し機構〉

実施形態１の繰出し容器の本体にレフィルを組み付けた後に、内容物を繰り出す様子を、図２１に示す。図２１（Ａ）は、繰出し前における、本体、レフィル、及び内容物の状態を示す断面図である。また、図２１（Ｂ）は、繰出し時の状態を示す断面図である。

[0194] 図２１（Ａ）の状態では、本体の袴（１６０）に、ネジ部材（１５０）が固定的に装着されている。また、中枠（１４０）には、レフィルの中筒（２２０）が固定的に組み付けられており、中枠（１４０）を固定的に覆うように、外筒（１８０）が装着されている。中枠（１４０）には、更に、中具（１１０）が相対回転不能かつ昇降自在に嵌挿されている。

[0195] ここで、中枠（１４０）とネジ部材（１５０）の間では、相対回転は可能であるが、相対的な昇降は不能である。したがって、中枠（１４０）及び外筒（１８０）と、袴（１６０）の間にも、相対回転は可能であるが、相対的な昇降は不能の関係がある。

[0196] 一方、本体の中具（１１０）には、レフィルの中皿（２１０）が固定的に組み付けられており、中皿（２１０）には棒状の内容物（３００）が収容さ

れている。

[0197] したがって、図21(A)の状態、本体の袴(160)と外筒(180)とを相対的に回転させると、袴(160)及びネジ部材(150)の組と、外筒(180)、中枠(140)、中具(110)、及び中皿(210)の組とが、相対的に回転する。そうすると、中具(110)の中具ネジ軌道(131)は、ネジ部材(150)のネジ部材ネジ軌道(151)上を滑動する。

[0198] その結果、中具(110)及び中皿(210)は、袴(160)、ネジ部材(150)、中枠(140)、外筒(180)、及び中筒(220)に対して、相対的に昇降する。これにより、中皿(210)に収容された内容物(300)も昇降する。したがって、袴(160)と外筒(180)とを相対的に回転させることにより、中皿(210)の上方に突出している内容物(300)の先端が、中筒(220)の上部に繰出され、及び下方に繰戻されることになるのである。

[0199] 《実施形態2》

実施形態2の繰出し容器の形態を表す図を、図22～図35に示す。これらのうち、図22～図29は本体に関し、図30～図32はレフィルに関し、図33及び図34は本体へのレフィルの組み付けに関し、図35は、実施形態2の繰出し容器の全体に関する。

[0200] 〈本体〉

図22及び図23に、実施形態2の繰出し容器の本体における中具を示す。図22(A)は中具の斜視図であり、図22(B)は、図22(A)のA-A線断面図であり、図22(C)は、図22(A)のB-B線断面図である。また、図23(A)は、中具の上面図、図23(B)は下面図、図23(C)は正面図、図23(D)は右側面図である。

[0201] 図22及び図23に示した中具(610)は、略筒状の形状を有しており、中皿固定用鍵状凸部(621)及び中具凸部(632)を有している。

[0202] 中具(610)における中皿固定用鍵状凸部(621)は、中具(610)

）の上端の円周部から上方に突出する逆Ｌ字状の突起物である。中具（６１０）は、筒状の上端において、円周の中心を介して相対する位置に、２個の中皿固定用鍵状凸部（６２１）を有する。

[0203] 中具（６１０）の中具凸部（６３２）は、筒状の下端付近に形成された略矩形の凸部である。中具凸部（６３２）は、ネジ部材のネジ部材ネジ軌道を滑動して、中具（及び中具と相対的に固定された中皿）をネジ部材（及びこれに相対的に固定された中枠及び袴）に対して昇降させるとともに、中枠の中枠縦スリットに嵌装されて、中具を、中枠内に相対回転不能かつ昇降自在に嵌装する機能を有する。

[0204] 中具（６１０）の中具凸部（６３２）は、断面形状が少し斜めの矩形状突起として形成されている。断面が斜めなのは、ネジ部材のネジ部材ネジ軌道上の滑動を容易化するためである。

[0205] 中具（６１０）は、筒状の形状の外表面の下端付近において、円周の中心を介して相対する位置に、２個の中具凸部（６３２）を有する。

[0206] 図２２及び図２３に示した中具（６１０）では、更に、２個の中具凸部（６３２）のそれぞれに対して、円周の中心角が９０°になる位置に、２つの中具縦スリットを有する。

[0207] 図２４に、実施形態２の繰出し容器の本体における中枠を示す。図２４（Ａ）は中枠の斜視図であり、図２４（Ｂ）は、図２４（Ａ）のＡ－Ａ線断面図であり、図２４（Ｃ）は、Ｂ－Ｂ線断面図である。

[0208] 図２４に示した中枠（６４０）は、以下の点では、実施形態１の中枠（１４０）と同様である。

略筒状の形状を有していること、

上部が下部に比べて、少し太く形成されており、軸方向の中央付近に中枠段差（６４５）を有すること、

中枠縦スリット（６４１）、中筒固定用凸部（６４２）、及び中筒回転防止用中枠ツメ部（６４４）を有すること。

[0209] しかしながら、以下の点では、実施形態１の中枠（１４０）と異なる。

ネジ部材位置設定用中枠嵌装部に代えて、フック固定用係合部（６４３）を有すること、

中枠縦スリット（６４１）が、中枠（６４０）の下端から上方向に延びる切り欠き状の貫通部のみから成り、薄肉部を有さないこと、

中枠縦スリット（６４１）の長さが、中枠（６４０）の長さの約６０％であること、及び

各部分の形成位置が異なること。

[0210] フック固定用係合部（６４３）は、筒状の中枠（１４０）の周壁のうちの下端に近い部分に形成された、円周方向に延びるスリットである。中枠（６４０）は、筒状の下端付近において、円周の中心を介して相対する位置に、２個のフック固定用係合部（６４３）を有する。

[0211] 図２４に示した中枠（６４０）は、ネジ部材位置設定用中枠嵌装部の代わりのフック固定用係合部（６４３）が、フックの中枠固定用係合部と係合して、中具（６１０）を、中枠及びフックで形成される空間中に、相対回転不能、かつ昇降自在に保持する機能を有する他は、実施形態１の中枠（１４０）とほぼ同じ機能を発現する。

[0212] 図２５に、フックの斜視図を示す。

[0213] 図２５のフック（６７０）は、円盤状のフック基板（６７１）、及びフック基板（６７１）から上方に突出する鍵状の突起物である、中枠固定用係合部（６７２）を有する。フック（６７０）は、中枠（６４０）のフック固定用係合部（６４３）のそれぞれと対応する位置に、２個の中枠固定用係合部（６７２）を有している。

[0214] 図２６に、実施形態２の繰出し容器の本体において、中具を、中枠及びフックで形成される空間中に保持して状態を示す。図２６（Ａ）は、中具、中枠、及びフックの斜視図であり、図２６（Ｂ）は、図２７（Ａ）のＡ－Ａ線断面図であり、図２６（Ｃ）は、図２６（Ａ）のＢ－Ｂ線断面図である。

[0215] 図２６に示したように、中枠（６４０）のフック固定用係合部（６４３）と、フック（６７０）の中枠固定用係合部（６７２）とが係合して、中枠（

640)と、ホック(670)のホック基板(671)とで形成される空間中に、中具(610)が収納保持されている。このとき、中具(610)の中具凸部(632)が中枠(640)の中枠縦スリット(641)に嵌装されているから、中具(610)は、中枠(640)及びホック(670)に対して、相対回転不能であり、かつ昇降自在である。

[0216] なお、図27(B)に示したように、中枠(640)の中枠縦スリット(641)に嵌装されている中具(610)の中具凸部(632)は、中枠(640)の中枠縦スリット(641)を突き抜けて、更に外側まで伸びている。この中具凸部(632)の延長部分は、ネジ部材のネジ部材ネジ軌道上を滑動することが予定されている。

[0217] 図27に、実施形態2の繰出し容器の本体における袴を示す。図27(A)は、袴の斜視図であり、図27(B)は上面図であり、図27(C)は下面図であり、図27(D)は、図27(A)のA-A線断面図である。

[0218] 図27の袴(660)は、有底の筒状であり、底面内側にネジ部材固定用袴係合部を有さず、かつ、直径と高さとの比が異なる他は、実施形態1の袴(160)とほぼ同様である。

[0219] 図28に、実施形態2の繰出し容器の本体におけるネジ部材を示す。図28(A)は、ネジ部材の斜視図であり、図28(B)は上面図であり、図28(C)は下面図であり、図28(D)は、図28(A)のA-A線断面図である。

[0220] 図28に示したネジ部材(650)は、略円筒の形状を有し、その内周面にネジ部材ネジ軌道(651)を有する。したがって、ネジ部材(650)のネジ部材ネジ軌道(651)は雌ネジである。

[0221] 図28のネジ部材(650)におけるネジ部材ネジ軌道(651)は、ネジ部材(650)の下端から軸方向の全長の約70%の範囲にのみ、形成されている。このような態様も、中具(610)の中具凸部(632)が当該ネジ部材ネジ軌道(651)上を滑動し得る限りで、好ましい。

[0222] 図29に、実施形態2の繰出し容器の本体の全体像を示す。図29(A)

は本体の斜視図であり、図29(B)は、図29(A)のA-A線断面図であり、図29(C)は、図11(A)のB-B線断面図である。

[0223] 図29(A)の斜視図では、実質的に、中枠(640)の上部、ネジ部材(650)の上部、及び袴(660)だけが見える。しかしながら、図29(B)及び図29(C)の各断面図を参照すると、以下のことが理解できる。

[0224] ネジ部材(650)が、袴(660)に固定的に装着されていること、中枠(640)及びホック(670)が相互に固定された組となって、袴(660)内に回転自在かつ昇降不能に装着されていること、中枠(640)とホック(670)とが形成する空間内に、中具(610)が保持されていること、並びに中具(610)の中具凸部(632)は、中枠(640)の中枠縦スリット(641)に嵌装され、更に中枠縦スリット(641)を貫通してネジ部材(650)のネジ部材ネジ軌道(651)まで至り、ネジ部材ネジ軌道(651)上を滑動し得る構成になっていること。

[0225] 以上の構成により、実施形態2の繰出し容器の本体では、袴(660)と中枠(640)とを相対的に回転させることにより、中具(610)の中具凸部(632)がネジ部材(650)ネジ部材ネジ軌道(651)上を滑動するので、中具(610)を、中枠(640)、ネジ部材(650)、及びホック(670)に対して昇降させることができる。

[0226] 〈レフィル〉

図30に、実施形態2の繰出し容器のレフィルにおける中皿を示す。図30(A)は、中皿の斜視図であり、図30(B)は中皿の上面図であり、図30(C)は中皿の下面図であり、図30(D)は正面図であり、図12(E)は、図12(A)のA-A線断面図である。

[0227] 図30の中皿(710)は、略筒状の形状を有し、内容物収納部(711)、中具固定用凸部(712)、及び中皿回転防止用中皿係合部(713)を有している。

- [0228] 中皿（７１０）は、中皿仕切り段、及びこれに形成される内容物充填用空気抜き孔を有さない他は、実施形態１のレフィルにおける中皿（２１０）と同様の構成及び機能を有する。
- [0229] 図３１に、実施形態２の繰出し容器のレフィルにおける中筒を示す。図３１（Ａ）は、中筒の斜視図であり、図３１（Ｂ）は中筒の上面図であり、図３１（Ｃ）は下面図であり、図３１（Ｄ）は正面図であり、図３１（Ｅ）は右側面図である。
- [0230] 図３１の中筒（７２０）は、上端が斜めに切断された略筒状の形状を有し、中枠固定用Ｌ字スリット（７２１）、及び中皿回転防止用中筒係合部（７２２）を有している。
- [0231] 中枠固定用Ｌ字スリット（７２１）は、実施形態１の中筒（２２０）の中枠固定用Ｌ字スリット（２２１）と同様に、中筒の下端から上方に延びる直線状の縦切込み部（７２１ａ）、及び縦切込み部（７２１ａ）の上端から円周方向に延びる直線状の横切込み部（７２１ｂ）から成る、Ｌ字状のスリットである。中筒（７２０）は、本体の中枠（６４０）が有する中筒固定用凸部（６４２）のそれぞれに対応する位置に、２個の中枠固定用Ｌ字スリット（７２１）を有している。
- [0232] 中筒（７２０）は、中筒回転防止用中筒係合部を有さず、中枠固定用Ｌ字スリット（７２１）の縦切込み部（７２１ａ）が、中筒回転防止用中筒係合部の機能を併有する。したがって、中筒（７２０）には、本体の中枠（６４０）が有する中筒回転防止用中枠ツメ部（６４４）と同数の中枠固定用Ｌ字スリット（７２１）が、中筒回転防止用中枠ツメ部（６４４）のそれぞれと係合可能な位置に形成されている。
- [0233] 中皿回転防止用中筒係合部（７２２）は、中筒（７２０）の下端から更に下方向に突出した板状の突出部に形成された略矩形の孔である。その機能は、実施形態１の中筒（２２０）における中皿回転防止用中筒係合部（２２２）と同様である。
- [0234] 実施形態２の繰出し容器のレフィルにおいて、内皿は、中筒内に相対回転

不能かつ昇降自在に嵌挿されている。中皿を中筒内に嵌挿した状態を、図32に示す。図32(A)は、中皿及び中筒の斜視図であり、図32(B)は正面図である。

[0235] 図32に示したように、中皿(710)の中皿回転防止用中皿係合部(713)が、中筒(720)の中皿回転防止用中筒係合部(722)と係合して、中皿(710)と中筒(720)との相対的な回転は抑制されている。しかしながら、中皿回転防止用中皿係合部(713)形成領域の可とう性によって、中皿回転防止用中皿係合部(713)と中皿回転防止用中筒係合部(722)との係合は、容易に解除することができ、中皿(710)は中筒(720)に対して繰上がることができる。

[0236] 〈本体へのレフィルの組み付け〉

実施形態2の繰出し容器も、実施形態1の繰出し容器と同様に、本体にレフィルを差し込んで、本体とレフィルとを相対的に少し回転させることにより、本体にレフィルを組み付けることができる。また、本体にレフィルを組み付けた状態において、本体とレフィルとを相対的に少し回転させることにより、本体からレフィルを引き抜くことが可能となる。

[0237] 本体にレフィルを組み付けたときの、本体の中枠及びレフィルの中筒の関係を図33に、本体の中具及びレフィルの中皿の関係を図34に、それぞれ示す。図33(A)は、本体にレフィルを組み付けたときの、中枠及び中筒の斜視図であり、図33(B)は、図33(A)のA-A線断面図である。また、図34(A)は、中具及び中皿の斜視図であり、図34(B)は、図34(A)のA-A線断面図である。

[0238] 本体にレフィルを組み付けた状態では、図33に示したように、本体の中枠(640)の中筒固定用凸部(642)が、レフィルの中筒(720)の中枠固定用L字スリット(721)のうちの横切込み部(721b)に入り込んで係合している。更に、中枠(640)の中筒回転防止用中枠ツメ部(644)が、中筒(720)の中枠固定用L字スリット(721)のうちの縦切込み部(721a)と係合している。また、図34に示したように、レ

フィルの中皿（７１０）の中具固定用凸部（７１２）は、本体の中具（６１０）の中皿固定用鍵状凸部（６２１）の鍵形状の部分に入り込んで、係合している。

[0239] 実施形態２の繰出し容器では、本体にレフィルを組み付けると、上記のように、

本体の中枠（６４０）の中筒固定用凸部（６４２）と、レフィルの中筒（７２０）の中枠固定用Ｌ字スリット（７２１）との係合、

本体の中枠（６４０）の中筒回転防止用中枠ツメ部（６４４）と、レフィルの中筒（７２０）の中枠固定用Ｌ字スリット（７２１）との係合、及び

本体の中具（６１０）の中皿固定用鍵状凸部（６２１）と、レフィルの中皿（７１０）の中具固定用凸部（７１２）との係合が同時に起こる。

[0240] 〈繰り出し容器の全体〉

図３５に、実施形態２の繰出し容器の全体（本体及びレフィル）を示す。図３５（Ａ）は、繰出し容器の斜視図であり、図３５（Ｂ）は図３５（Ａ）のＡ－Ａ線断面図であり、図３５（Ｃ）は図３５（Ａ）のＢ－Ｂ線断面図である。

[0241] 図３５の繰り上げ容器の本体では、図２９を参照して上記に説明したように、袴（６６０）と中枠（６４０）とを相対的に回転させることにより、中具（６１０）の中具凸部（６３２）がネジ部材（６５０）ネジ部材ネジ軌道（６５１）上を滑動して、中具（６１０）を、中枠（６４０）、ネジ部材（６５０）、及びホック（６７０）に対して昇降させることができる。

[0242] 更に、本体の中具（６１０）とレフィルの中皿（７１０）とは、

中皿固定用鍵状凸部（６２１）と中具固定用凸部（７１２）との係合により、固定的に装着されており（図３５（Ｂ）参照）、かつ、

本体の中枠（６４０）とレフィルの中筒（７２０）とは、

中筒固定用凸部（６４２）と中枠固定用Ｌ字スリット（７２１）との係合、及び

中筒回転防止用中枠ツメ部（６４４）と中枠固定用Ｌ字スリット（７２１）との係合

により、固定的に装着されている（図３３及び図３４参照）。

[0243] 以上の構成により、実施形態２の繰出し容器では、袴（６６０）と中枠（６４０）とを相対的に回転させることにより、中具（６１０）及び中皿（７１０）は、袴（６６０）、ネジ部材（６５０）、中枠（６４０）、及び中筒（７２０）に対して、相対的に昇降する。これにより、中皿（７１０）に収容された内容物も昇降する。したがって、袴（６６０）と中枠（６４０）とを相対的に回転させることにより、内容物の先端が、中筒（７２０）の上部に繰出され、及び下方に繰戻されることになるのである。

符号の説明

- [0244] １１０、６１０ 中具
 １２０ 中具外周部
 １２１、６２１ 中皿固定用鍵状凸部
 １２２ 中具回転防止用凸部
 １３０ 中具内ネジ部
 １３１ 中具ネジ軌道
 １４０、６４０ 中枠
 １４１、６４１ 中枠縦スリット
 １４１ a 中枠縦スリット薄肉部
 １４１ b 中枠縦スリット貫通部
 １４２、６４２ 中筒固定用凸部
 １４３ ネジ部材位置設定用中枠嵌装部
 １４４、６４４ 中筒回転防止用中枠ツメ部
 １４５、６４５ 中枠段差
 １５０、６５０ ネジ部材
 １５１、６５１ ネジ部材ネジ軌道
 １５２ ネジ軸

- 1 5 3 ネジ部材位置設定用ネジ部材嵌装部
- 1 5 4 ネジ部材固定用ネジ部材係合部
- 1 6 0、6 6 0 袴
- 1 6 1 ネジ部材固定用袴係合部
- 1 8 0 外筒
- 2 1 0、7 1 0 中皿
- 2 1 1、7 1 1 内容物収納部
- 2 1 2、7 1 2 中具固定用凸部
- 2 1 3、7 1 3 中皿回転防止用中皿係合部
- 2 1 4 中皿仕切り段
- 2 1 4 a 内容物充填用空気抜き孔
- 2 2 0、7 2 0 中筒
- 2 2 1、7 2 1 中枠固定用L字スリット
- 2 2 1 a、7 2 1 a 縦切込み部
- 2 2 1 b、7 2 1 b 横切込み部
- 2 2 2、7 2 2 中皿回転防止用中筒係合部
- 2 2 3、7 2 3 中筒回転防止用中筒係合部
- 3 0 0 内容物
- 6 4 3 ホック固定用係合部
- 6 3 2 中具凸部
- 6 7 0 ホック
- 6 7 1 ホック基板
- 6 7 2 中枠固定用係合部

請求の範囲

[請求項1]

中具、中枠、ネジ部材、及び袴を含む、本体と、
中皿及び中筒を含むレフィルと
から構成され、

前記本体において、

前記中具は、中皿固定用鍵状凸部を有し、前記中枠内に相対回転
不能かつ昇降自在に嵌挿されており、

前記中枠は、前記袴内に相対回転自在かつ昇降不能に嵌挿されて
おり、

前記ネジ部材は、ネジ部材ネジ軌道を有し、

前記中具は、前記ネジ部材のネジ部材ネジ軌道と螺合する中具ネ
ジ軌道、又は前記ネジ部材のネジ部材ネジ軌道を滑動し得る中具凸部
を有し、

前記ネジ部材は、前記袴に固定的に装着されており、

前記レフィルにおいて、前記中皿は、中具固定用凸部、及び内容物
を収納するための内容物収納部を有し、前記中筒内に相対回転不能か
つ昇降自在に嵌挿されており、

前記レフィルの前記中筒を、前記本体の前記中枠に着脱自在に固定
することによって、前記本体に前記レフィルを着脱自在に組み付け可
能であり、かつ、

前記本体に前記レフィルを着脱自在に組み付けたときに、前記中具
の中皿固定用鍵状凸部と、前記中皿の中具固定用凸部とが係合して、
前記中具と前記中皿とが相対的に固定され、

前記袴と前記中枠とを相対的に回転させたとき、前記袴に装着され
た前記ネジ部材のネジ部材ネジ軌道上を、前記中枠内に相対回転不能
に嵌装されている前記中具の前記中具ネジ軌道又は前記中具凸部が滑
動することにより、前記中具及びこれに固定された前記中皿を、上方
に繰出すこと、及び下方に繰戻すことができる、

繰出し容器。

[請求項2]

前記中枠は中筒固定用凸部を有し、

前記中筒は中枠固定用L字スリットを有し、

前記中筒の前記中枠への着脱自在の固定は、前記中枠の中筒固定用凸部と前記中枠固定用L字スリットとの係合によって行われる、
請求項1に記載の繰出し容器。

[請求項3]

前記中具は中具回転防止用凸部を有し、

前記中枠は中枠縦スリットを有し、

前記中具の前記中具回転防止用凸部が、前記中枠の前記中枠縦スリットに嵌挿されることにより、前記中具が、前記中枠内に相対回転不能かつ昇降自在に嵌挿されている、
請求項1又は2に記載の繰出し容器。

[請求項4]

前記中具は中具ネジ軌道を有し、

前記袴と前記中枠とを相対的に回転させたとき、前記袴に装着された前記ネジ部材のネジ部材ネジ軌道上を、前記中具の前記中具ネジ軌道が滑動する、

請求項1～3のいずれか一項に記載の繰出し容器。

[請求項5]

前記中枠がネジ部材位置設定用中枠嵌装部を有し、

前記ネジ部材がネジ部材位置設定用ネジ部材嵌装部を有し、

前記中枠の前記ネジ部材位置設定用中枠嵌装部と、前記ネジ部材のネジ部材位置設定用ネジ部材嵌装部とが係合することにより、前記中枠が、前記袴及び前記ネジ部材に、相対回転可能かつ昇降不能に装着されている、

請求項4に記載の繰出し容器。

[請求項6]

前記ネジ部材ネジ軌道が雄ネジ軌道であり、前記中具ネジ軌道が雌ネジ軌道である、請求項4又は5に記載の繰出し容器。

[請求項7]

前記本体が更に外筒を含み、前記中枠は前記外筒に固定的に挿入されている、請求項3～6のいずれか一項に記載の繰出し容器。

- [請求項8] 前記中具は中具凸部を有し、
前記中枠は中枠縦スリットを有し、
前記ネジ部材ネジ軌道は雌ネジ軌道であり、
前記中具の前記中具凸部は、
前記中枠の前記中枠縦スリットに嵌挿されて、前記中具を、前記中枠内に相対回転不能かつ昇降自在に嵌挿させる機能を有するとともに、
前記袴と前記中枠とを相対的に回転させたとき、前記袴に装着された前記ネジ部材のネジ部材ネジ軌道上を滑動する、
請求項 1 又は 2 に記載の繰出し容器。
- [請求項9] 前記本体が更にフックを含み、
前記フックは、中枠固定用係合部を有し、前記袴に相対回転可能かつ昇降不能に装着されており、
前記中枠は、フック固定用係合部を有し、
前記中枠の前記フック固定用係合部と、前記フックの前記中枠固定用係合部とが係合することにより、前記中枠が、前記袴及び前記ネジ部材に、相対回転可能かつ昇降不能に装着されている、
請求項 8 に記載の繰出し容器。
- [請求項10] 前記内容物が口紅である、請求項 1 ～ 9 のいずれか一項に記載の繰出し容器。
- [請求項11] 中皿及び中筒を含み、
前記中皿は、中具係合用凸部、及び内容物収納部を有し、
前記中筒内に相対回転不能かつ昇降自在に嵌挿されており、
請求項 1 の繰出し容器に用いられる、
繰出し容器のレフィル。
- [請求項12] 中具、中枠、ネジ部材、及び袴を含み、
前記中具は、中皿固定用鍵状凸部を有し、前記中枠内に相対回転不能かつ昇降自在に嵌挿されており、

前記中枠は、前記袴内に相対回転自在かつ昇降不能に嵌挿されており、

前記ネジ部材は、ネジ部材ネジ軌道を有し、

前記中具は、前記ネジ部材のネジ部材ネジ軌道と螺合する中具ネジ軌道、又は前記ネジ部材のネジ部材ネジ軌道を滑動し得る中具凸部を有し、

前記ネジ部材は、前記袴に固定的に装着されており、

請求項 1 の繰出し容器に用いられる、
繰出し容器の本体。

[図1]

(B)

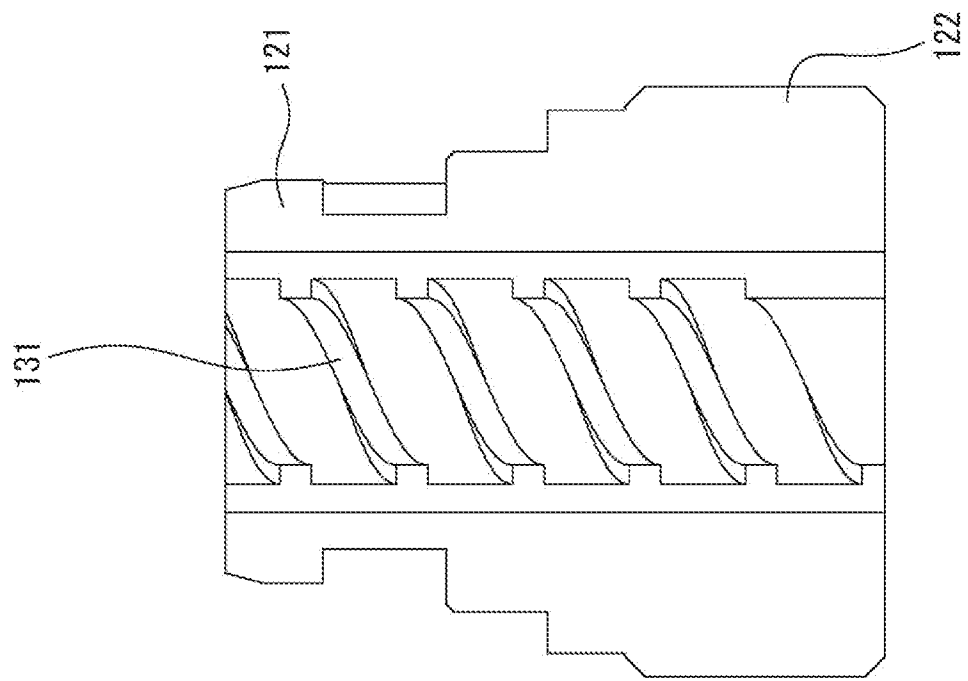
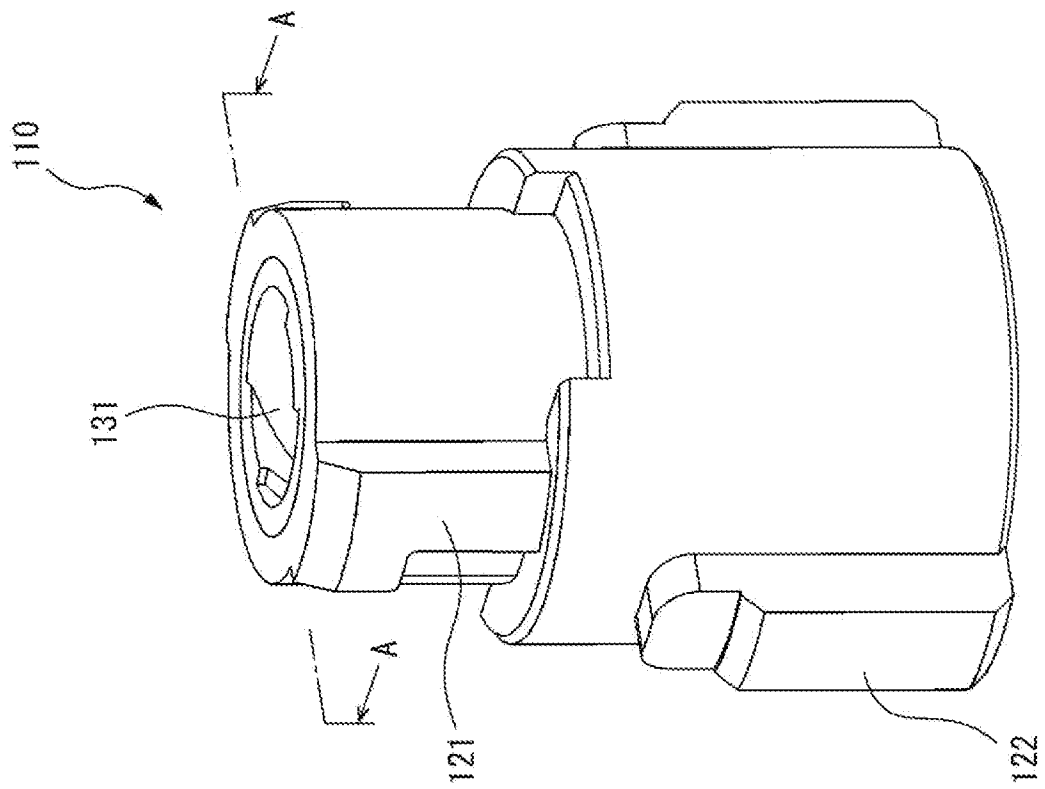
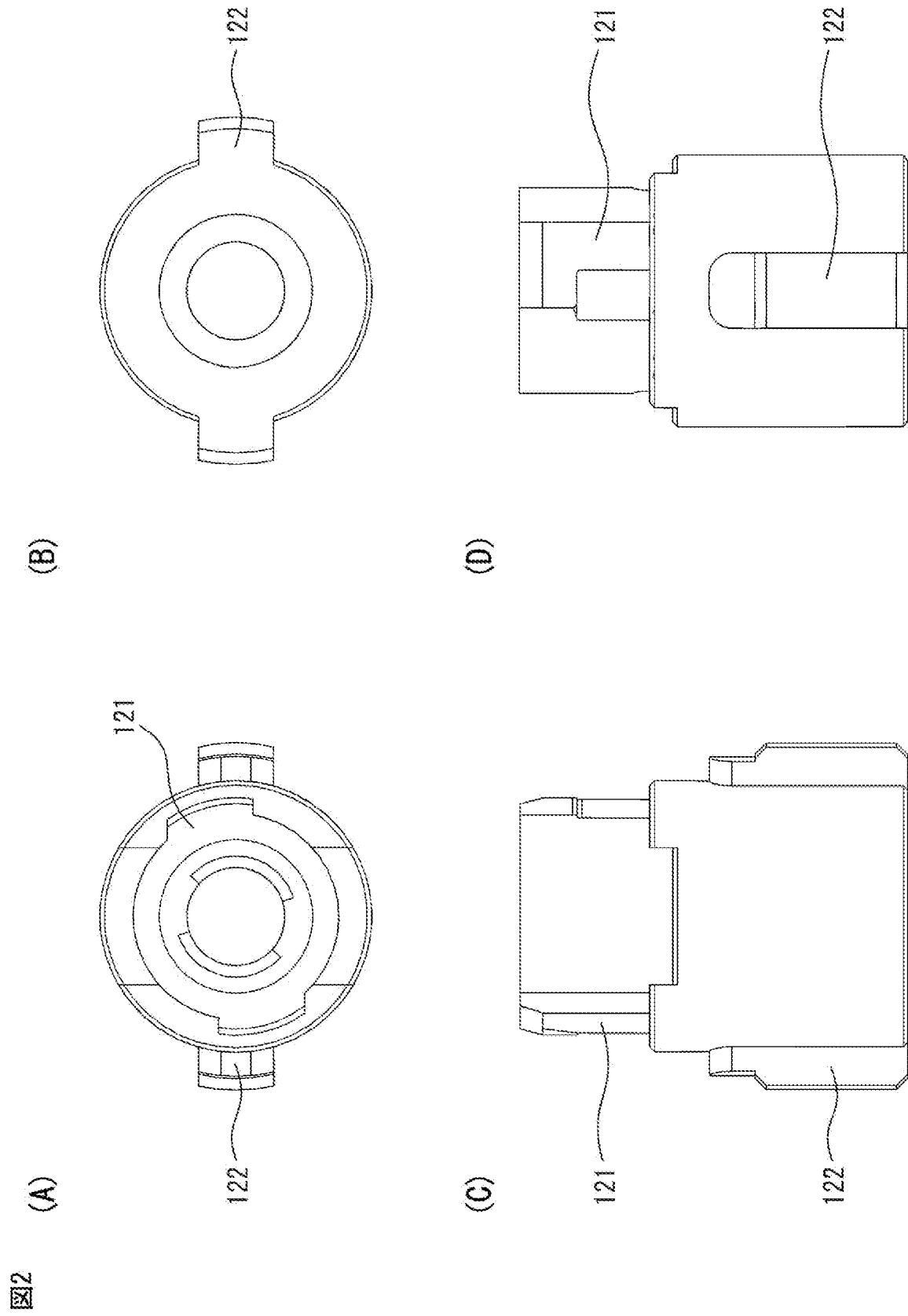


図1 (A)

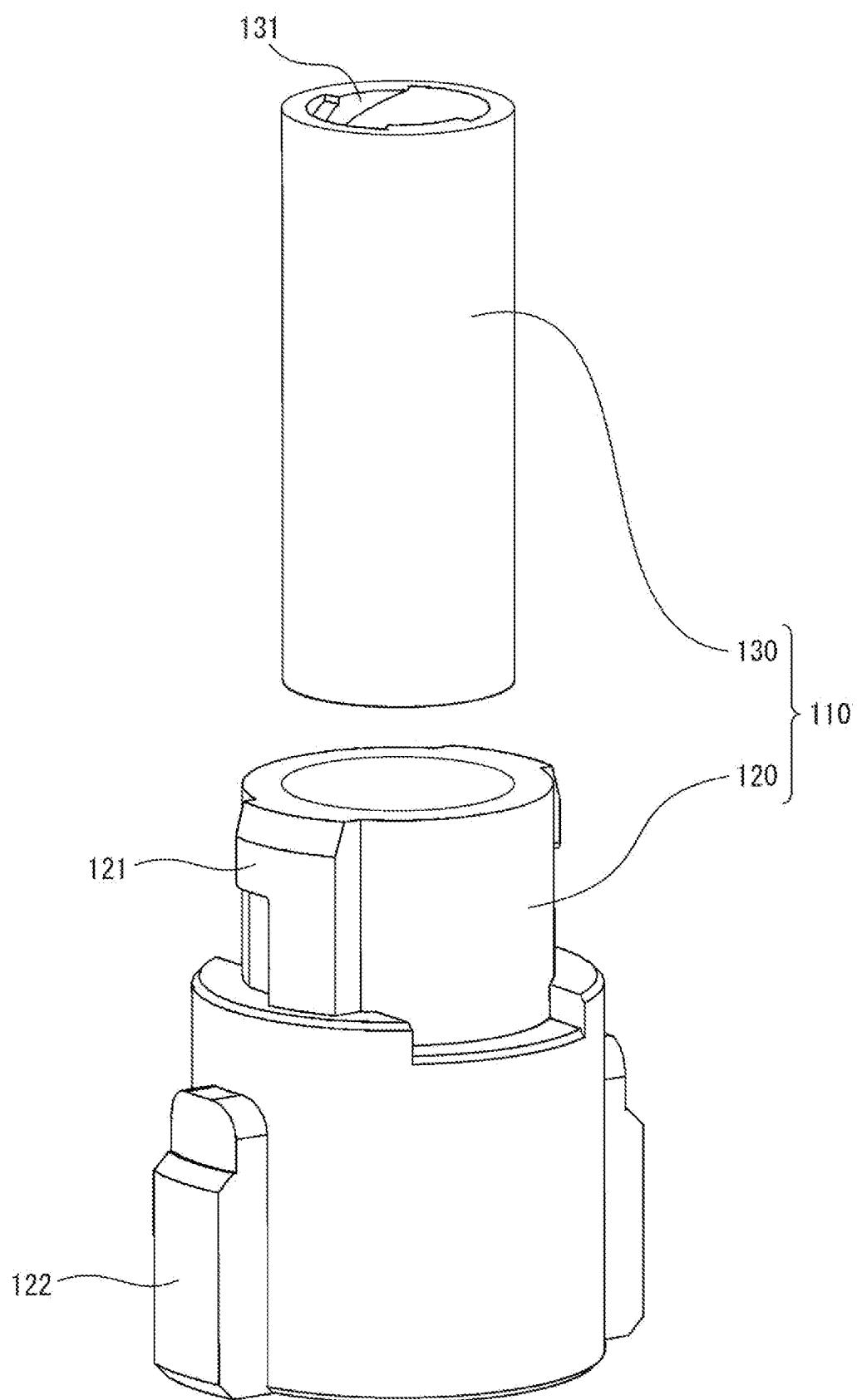


[図2]

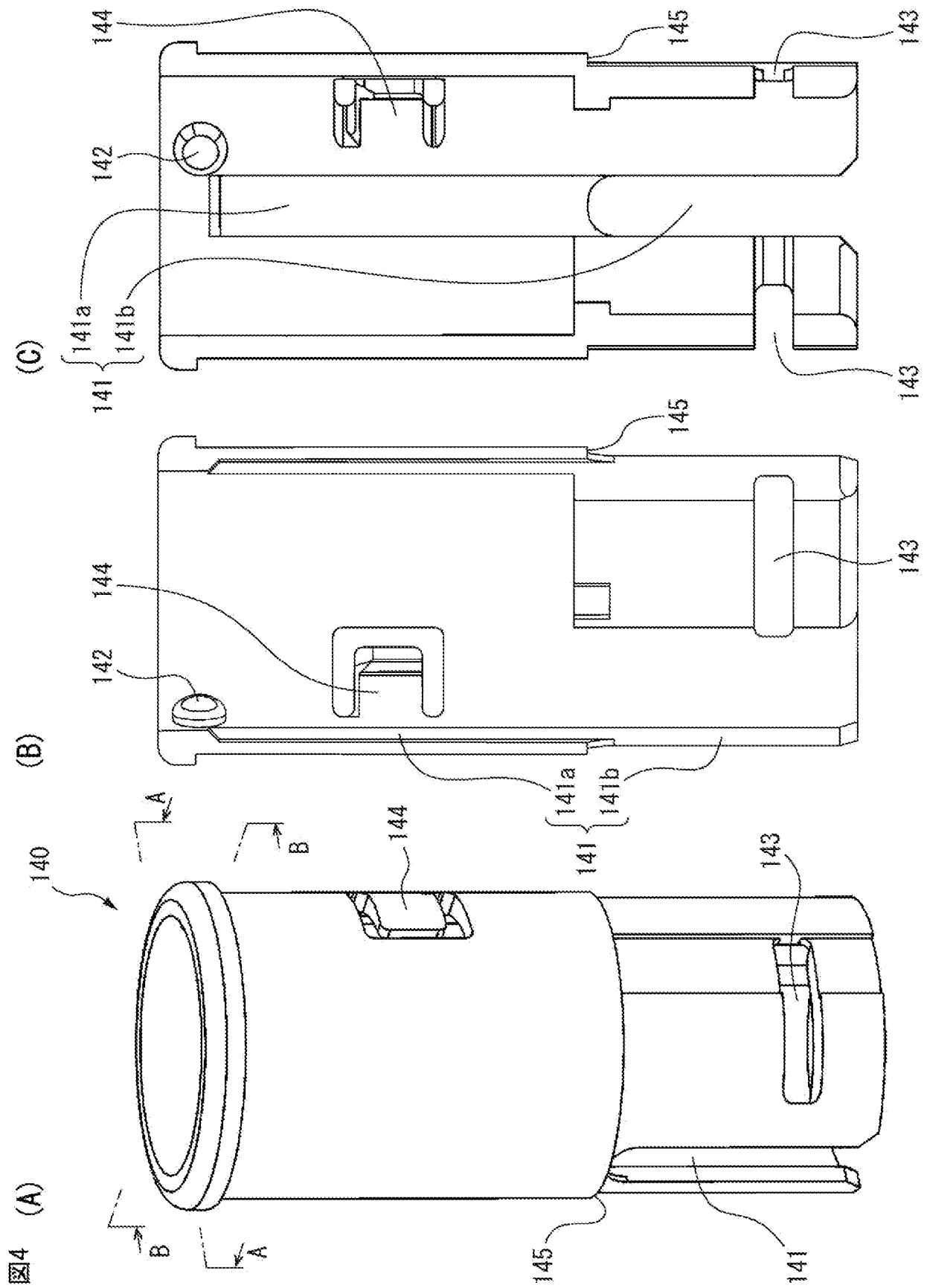


[図3]

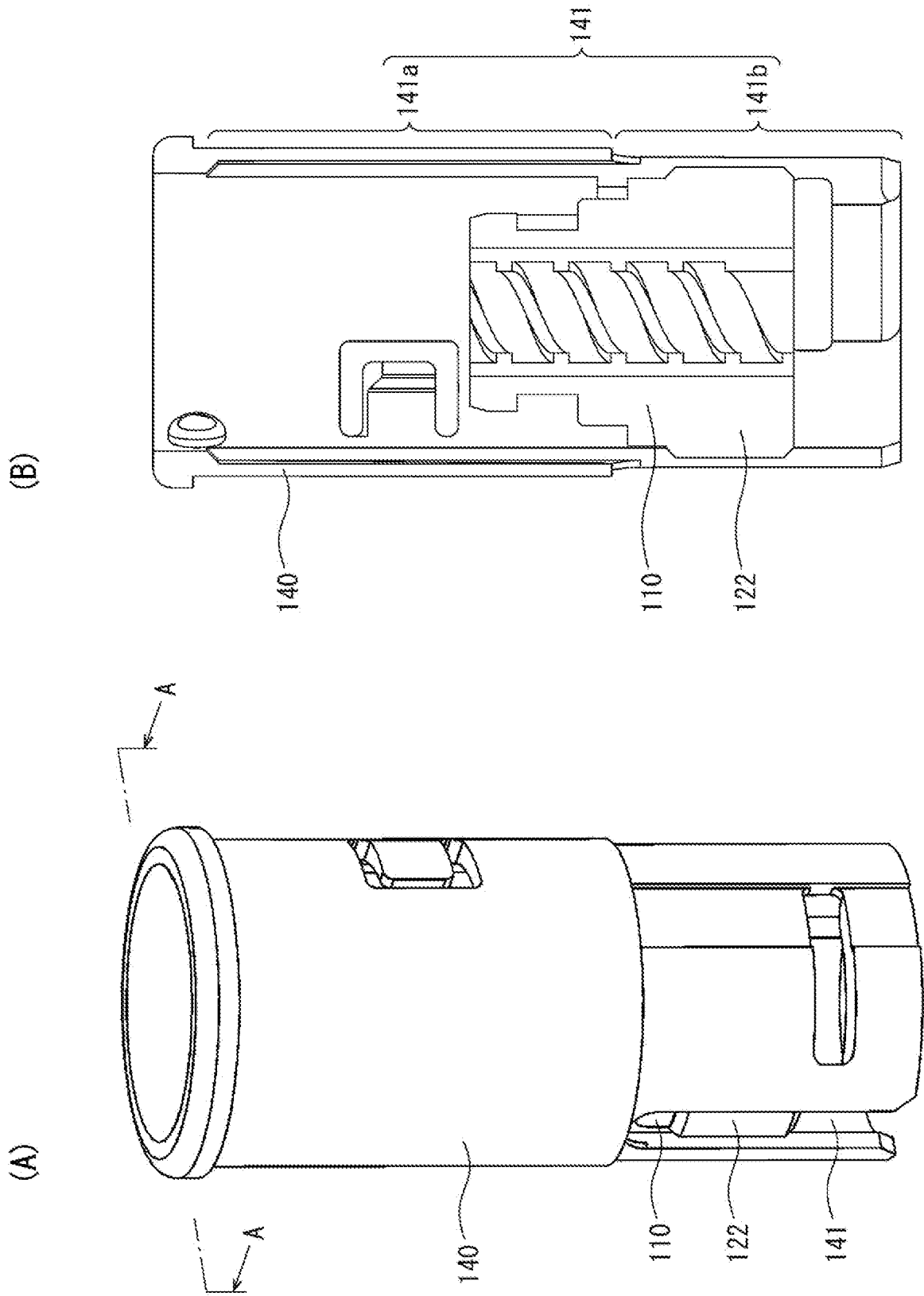
図3



[図4]



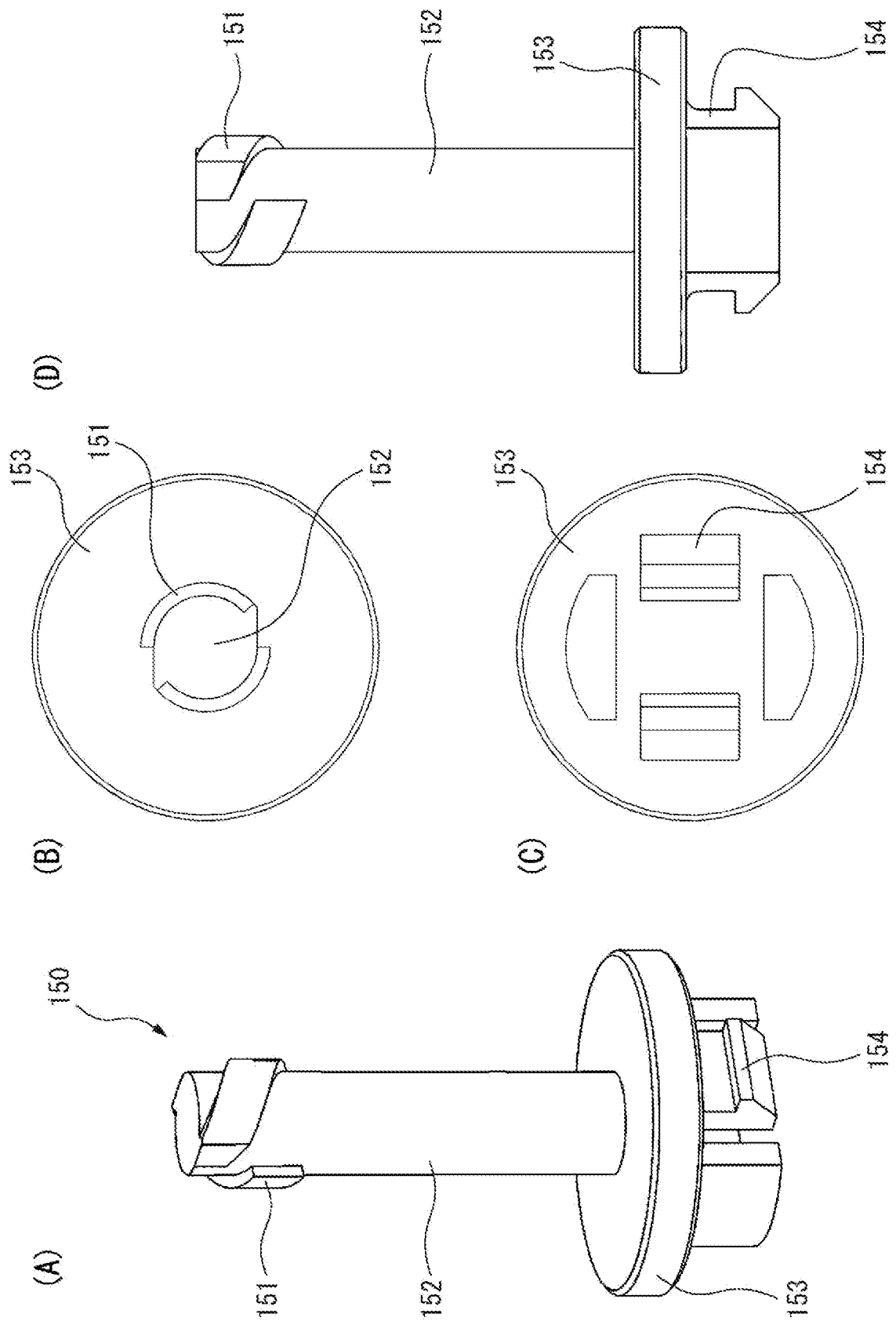
[図5]



[図5]

[図6]

図6



[図7]

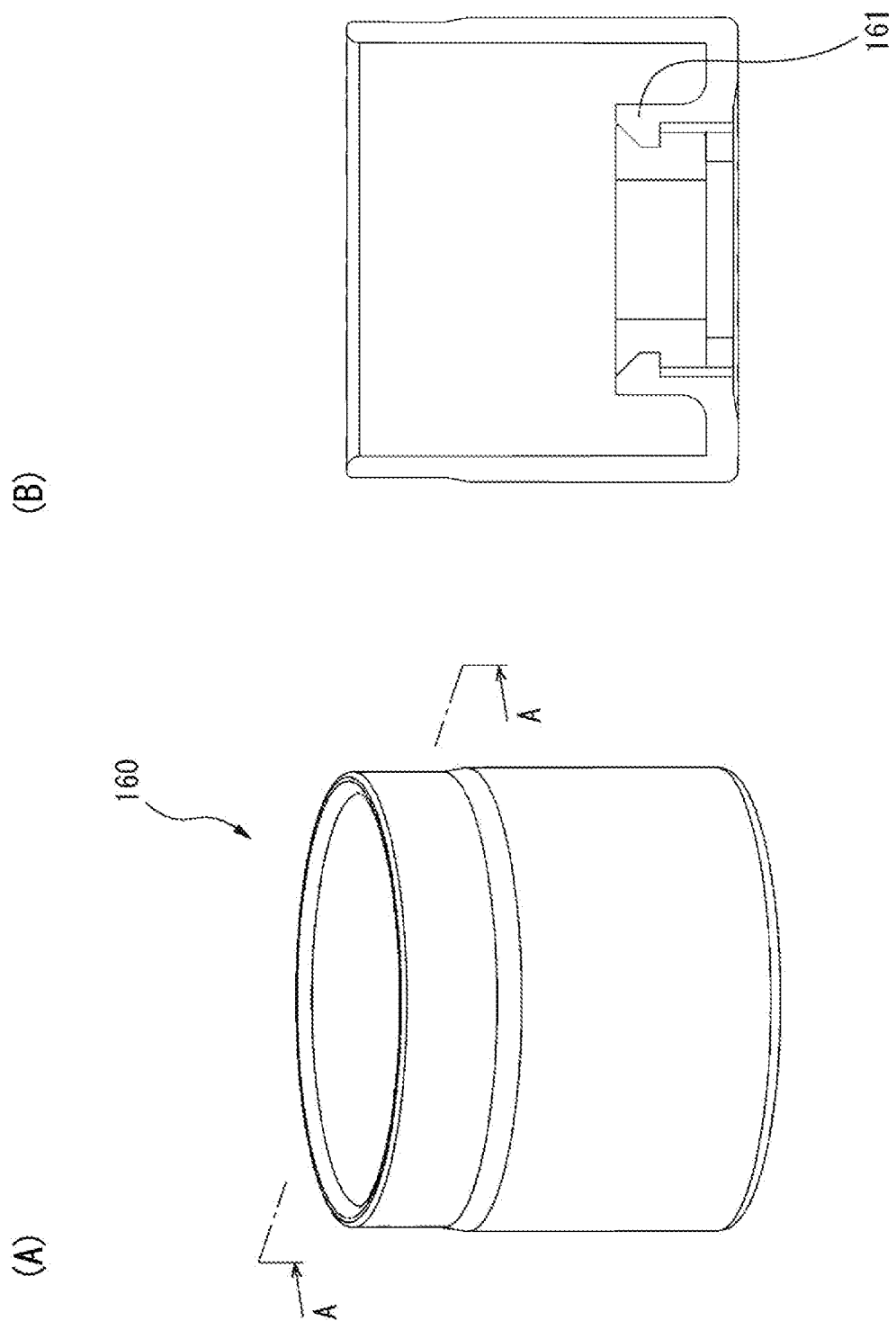
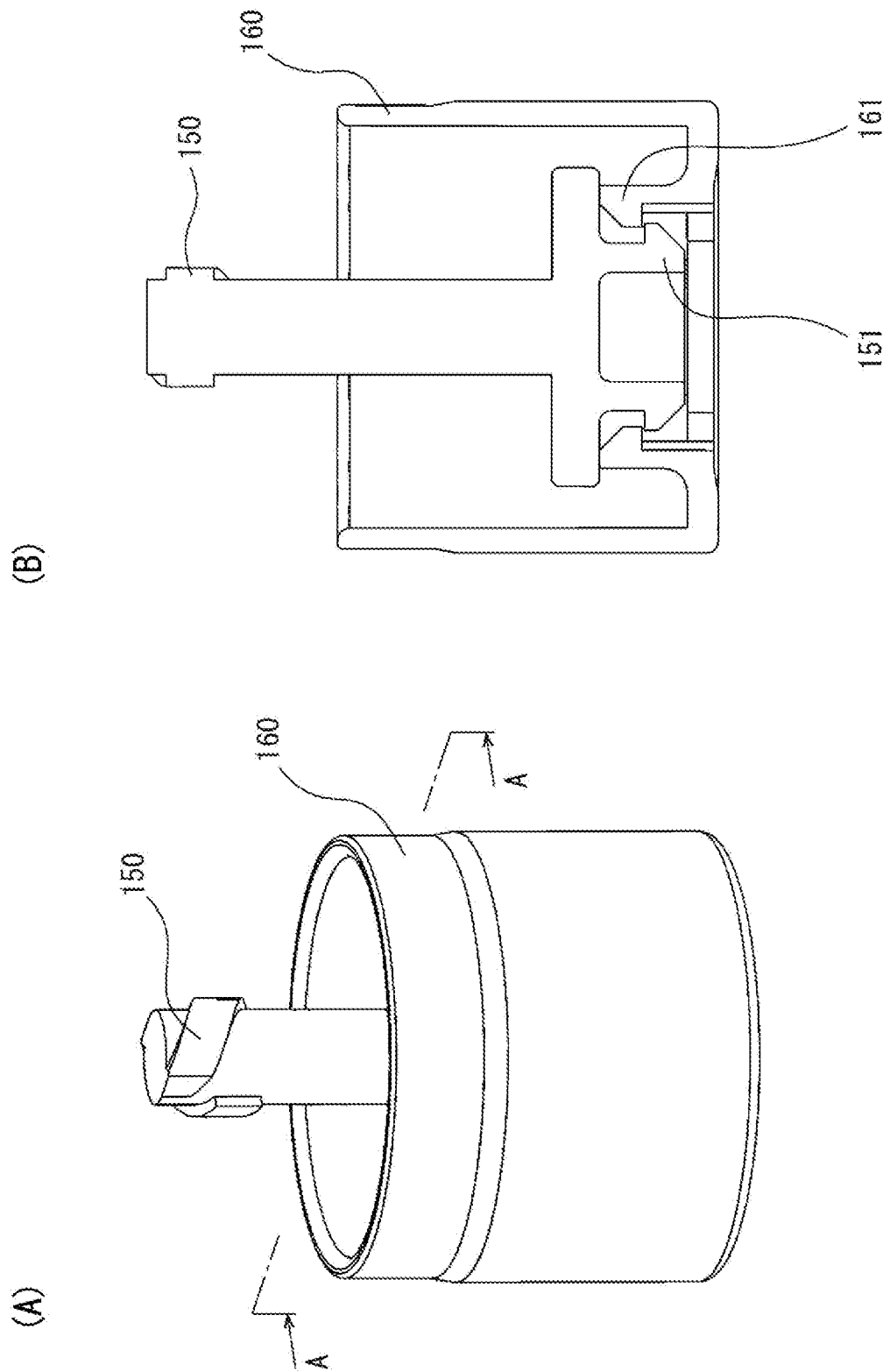


図7

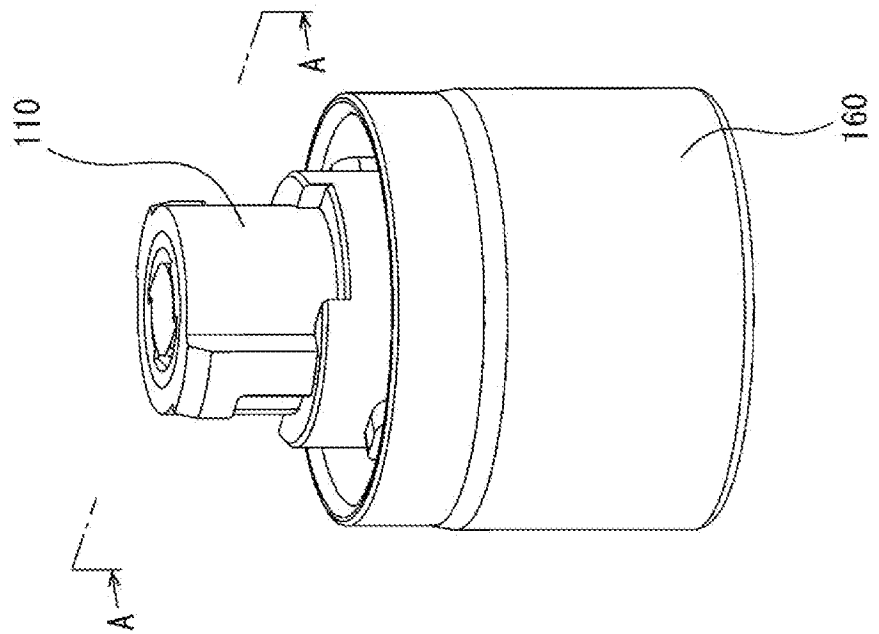
[図8]



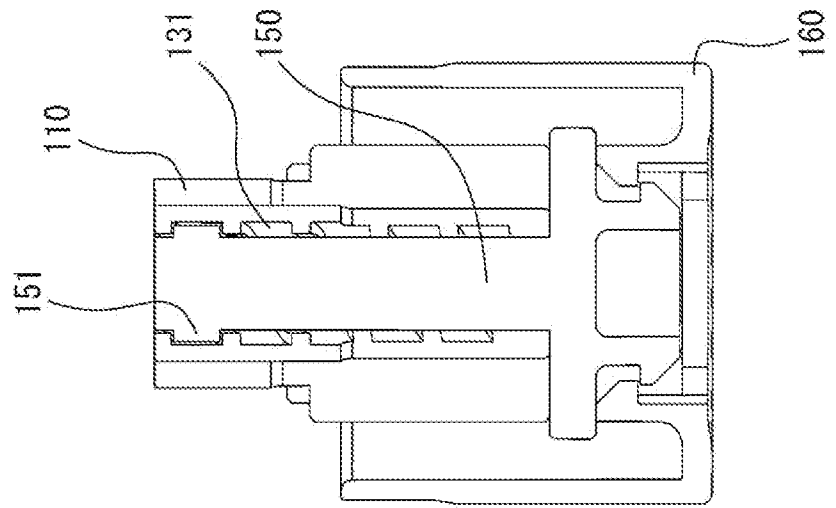
[図9]

[図9]

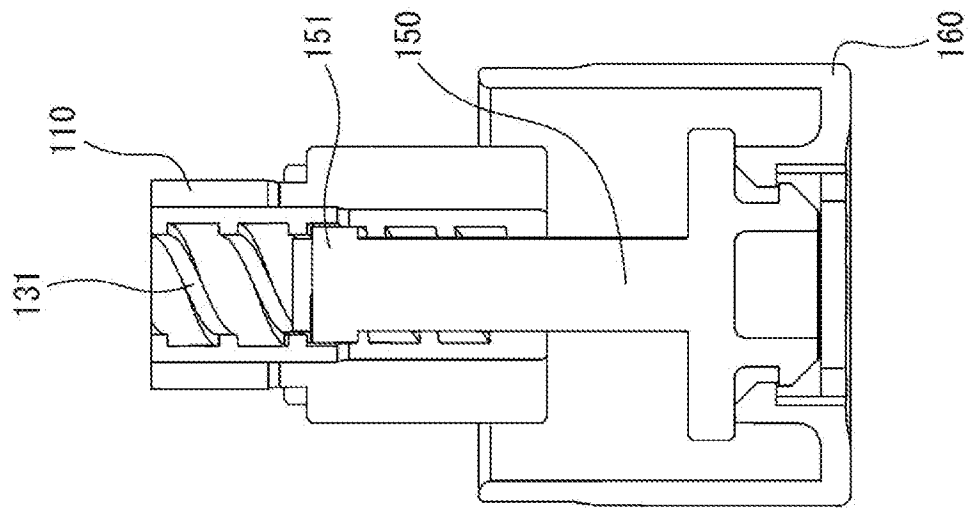
(A)



(B)



(C)



[図10]

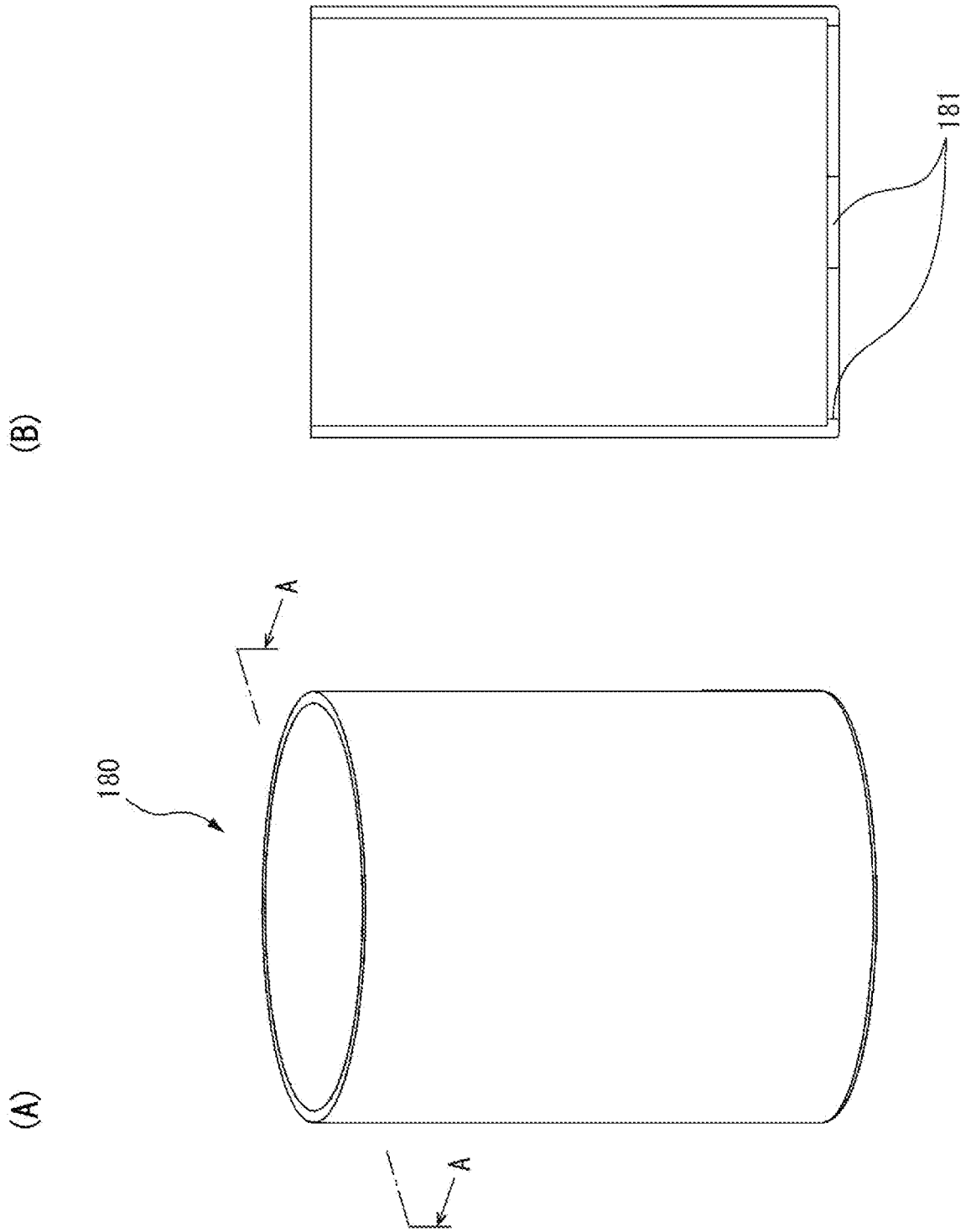
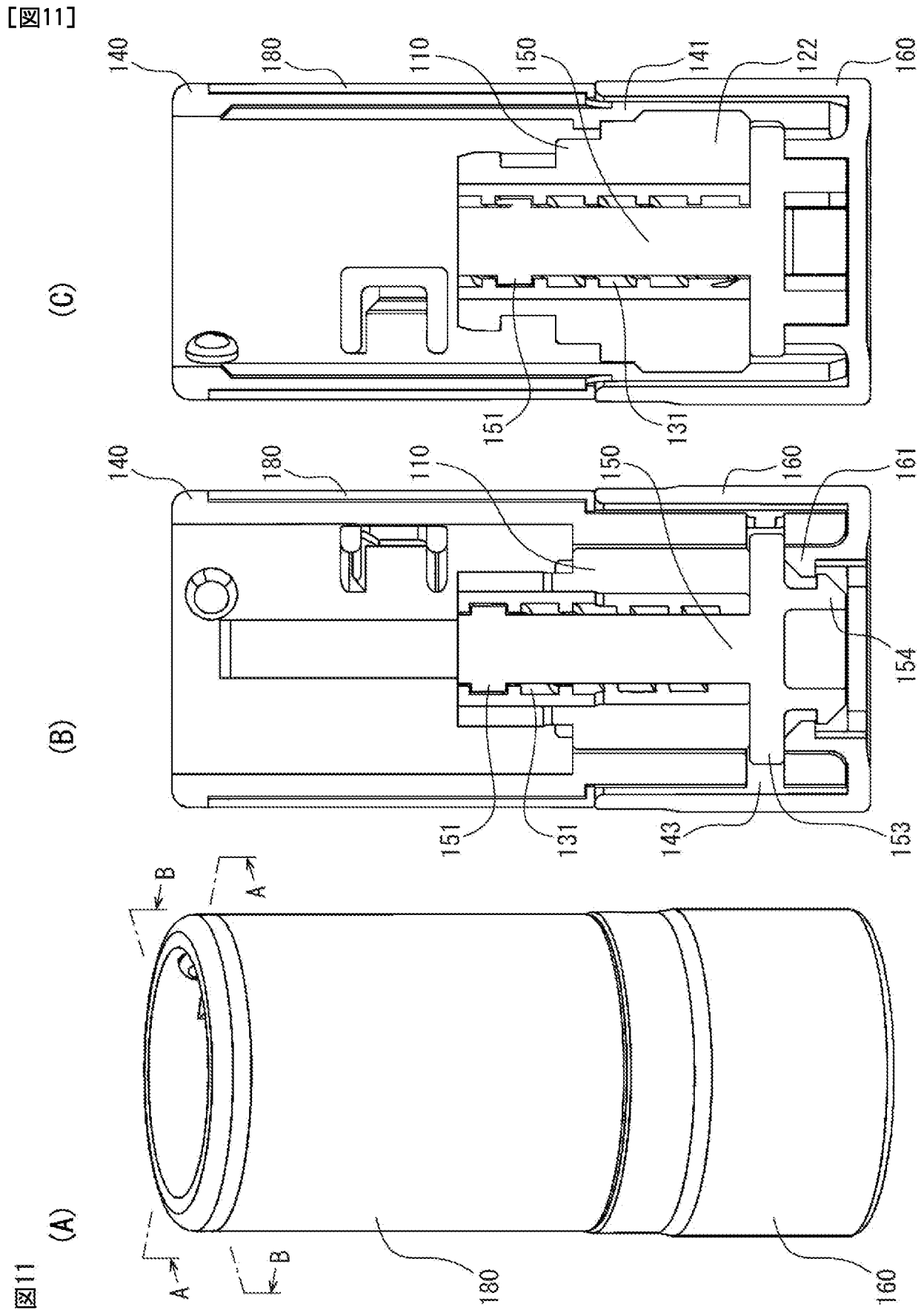
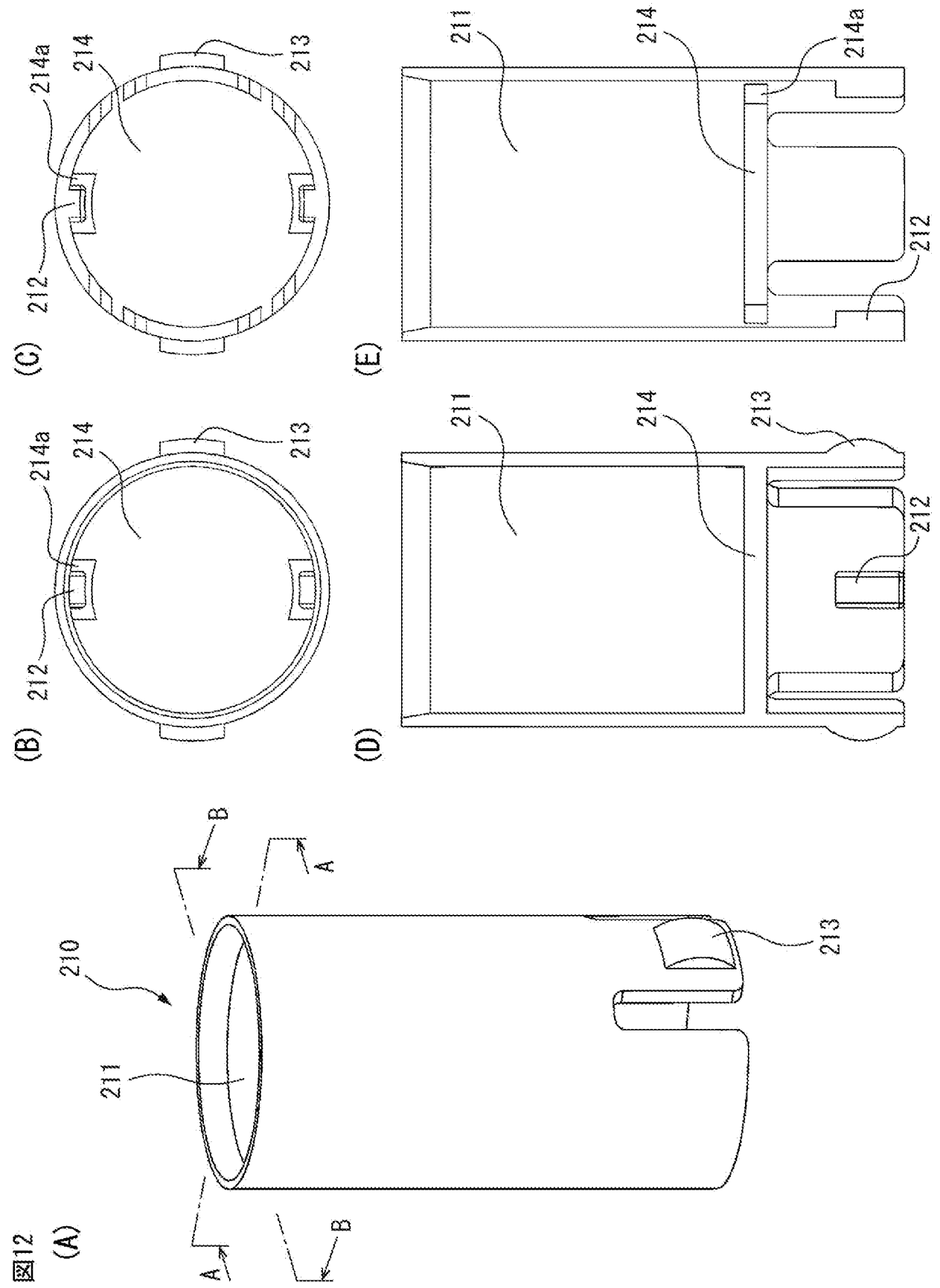


図10

[図11]



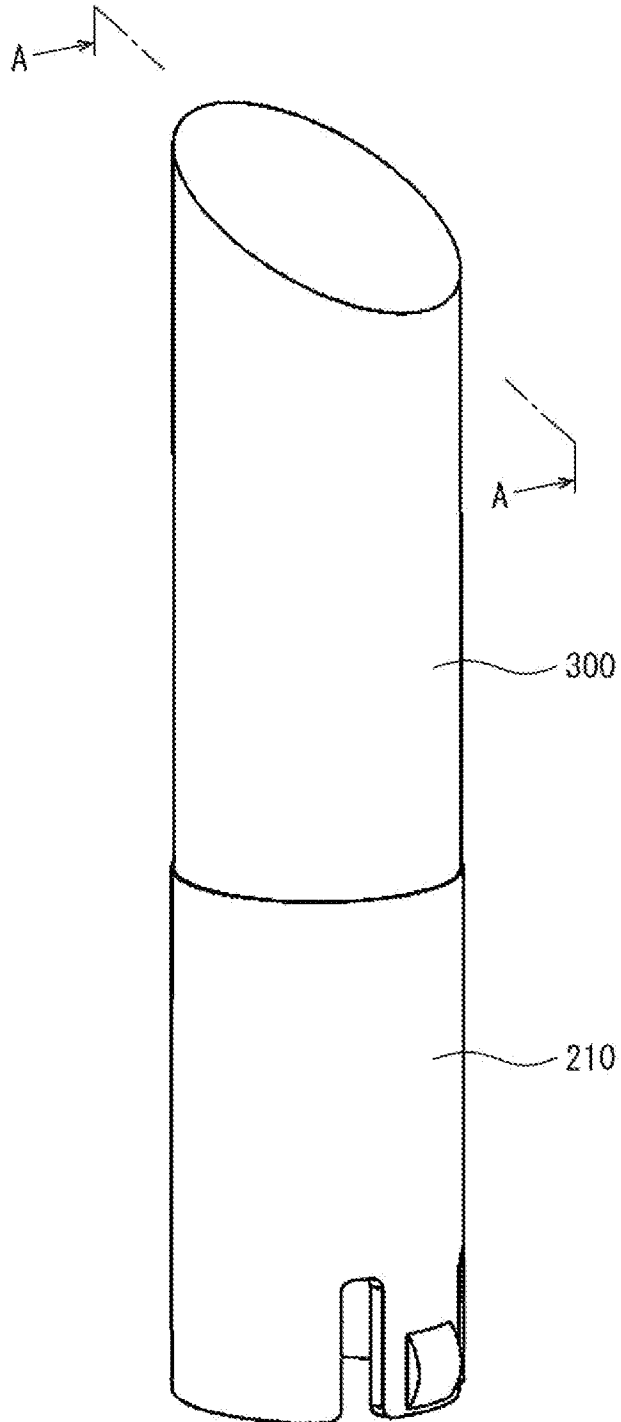
[図12]



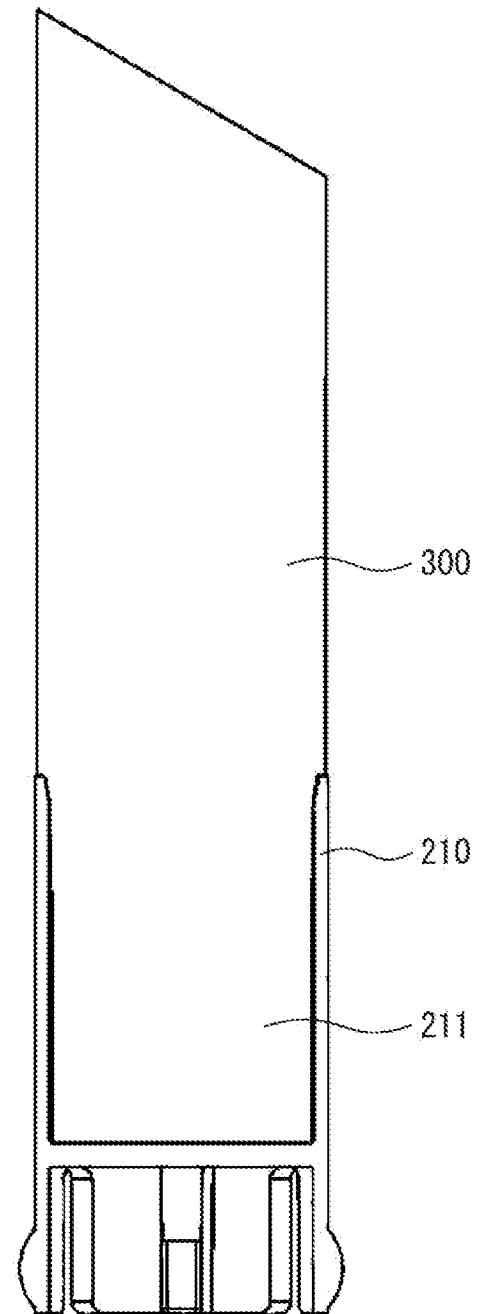
[図13]

図13

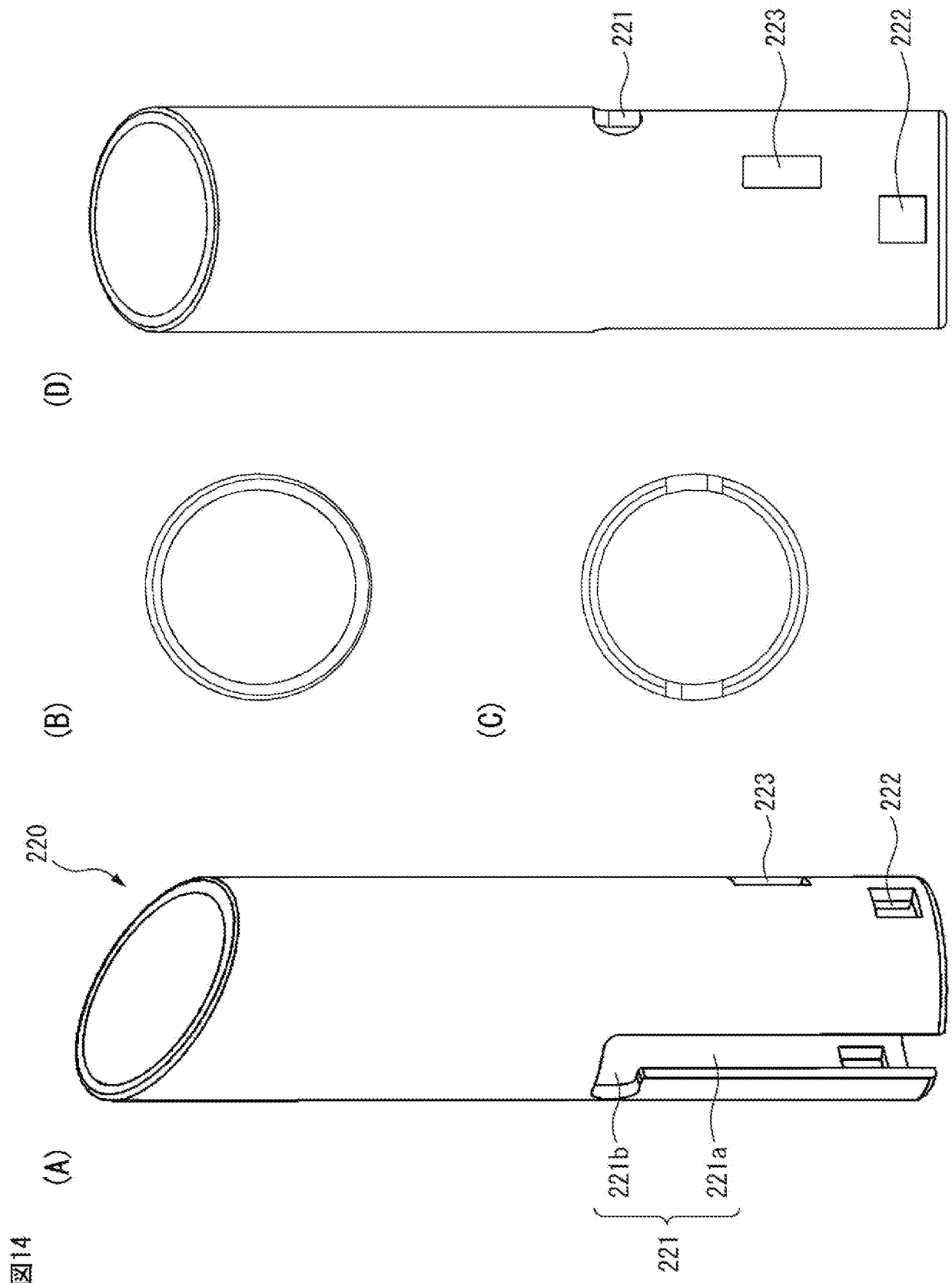
(A)



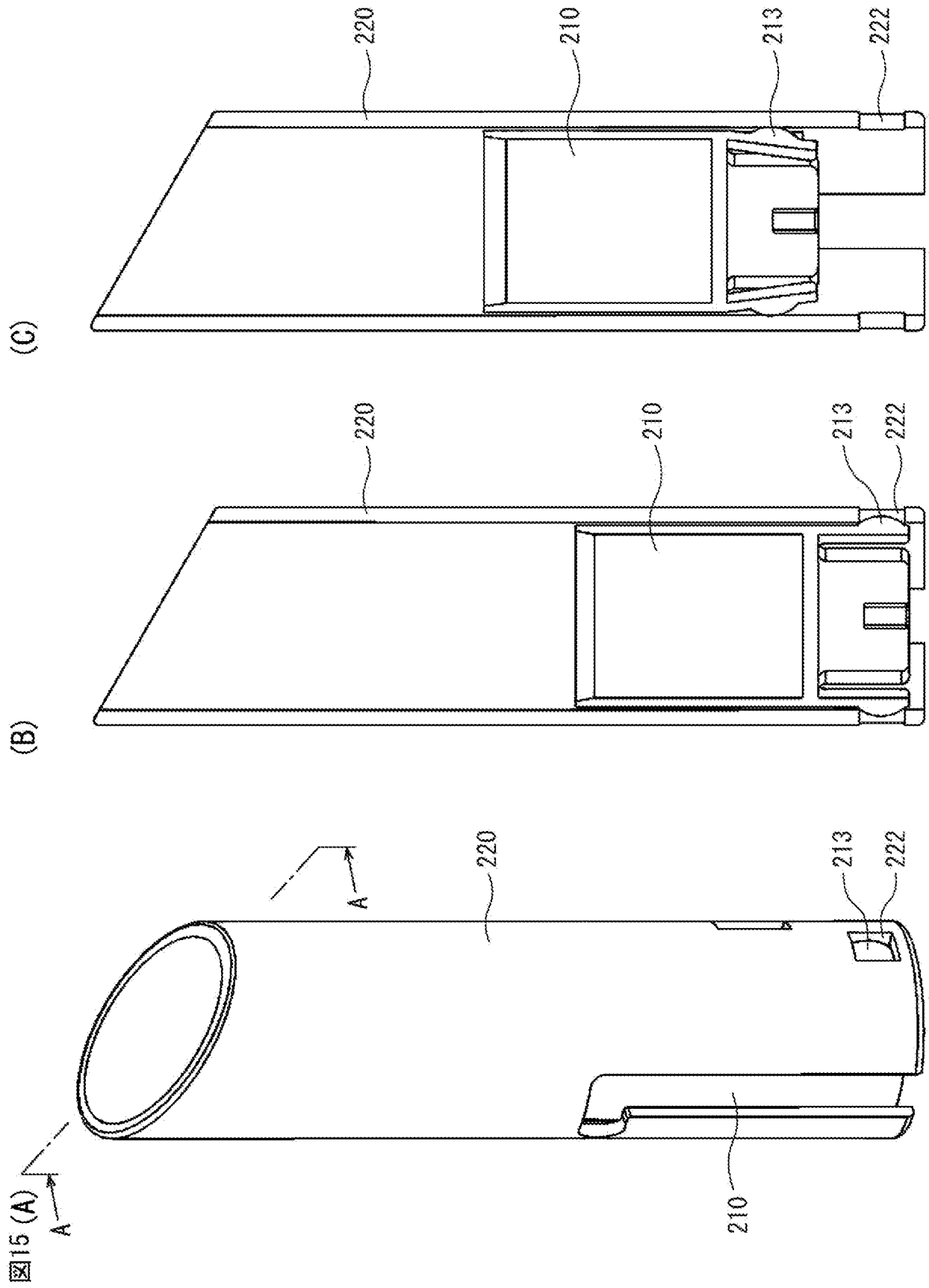
(B)



[図14]

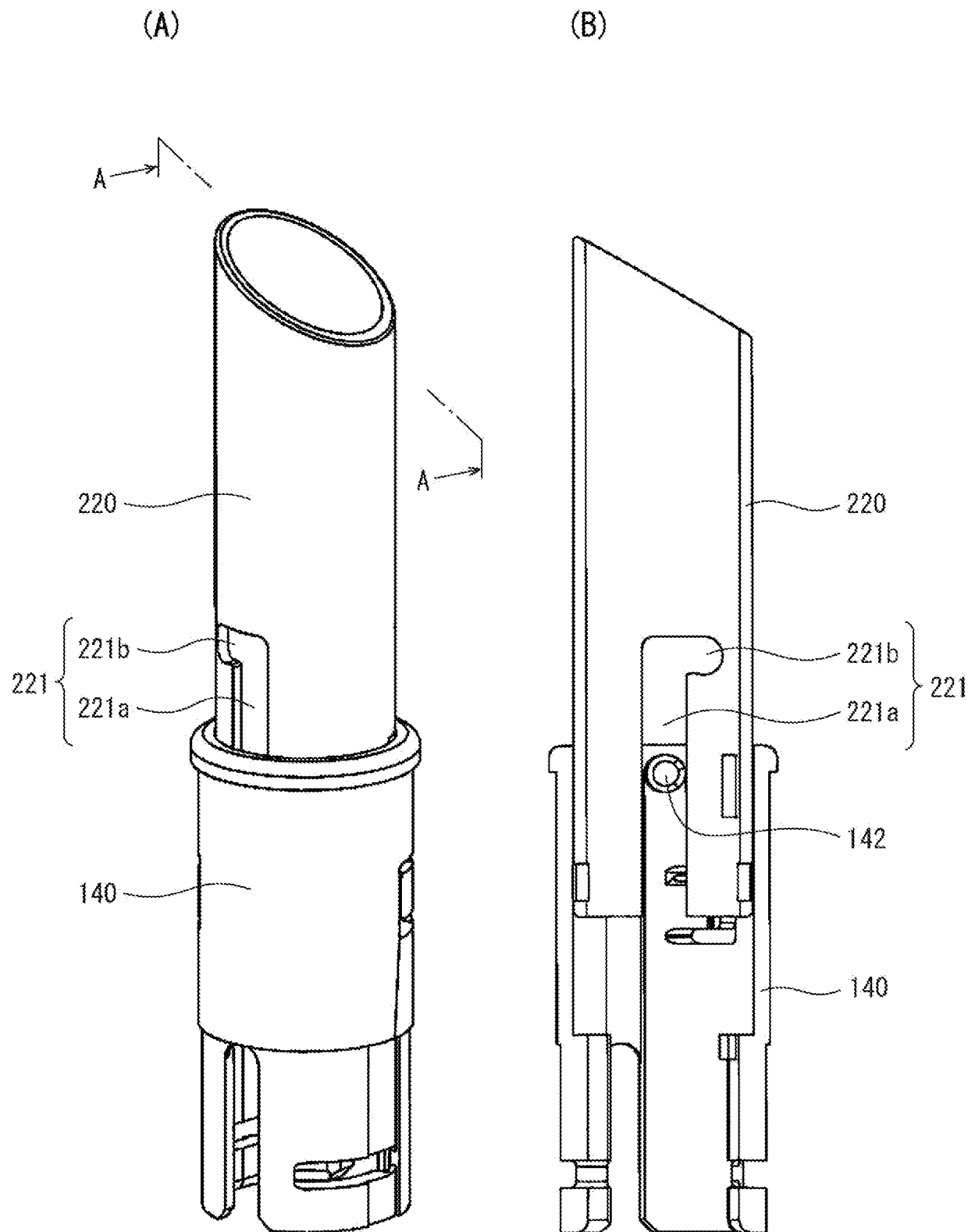


[図15]



[図16]

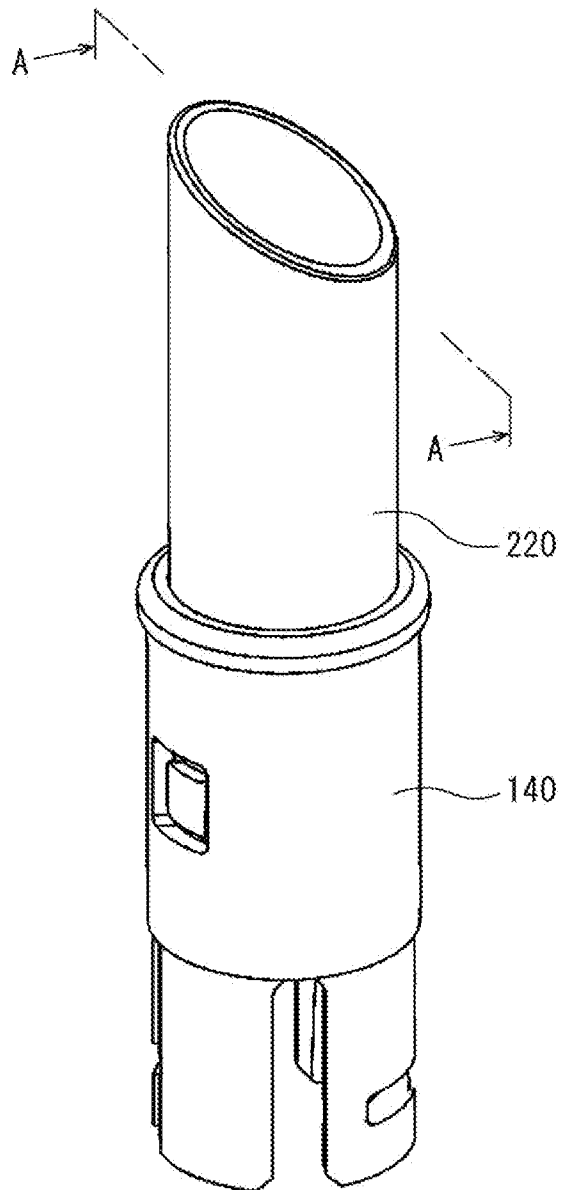
図16



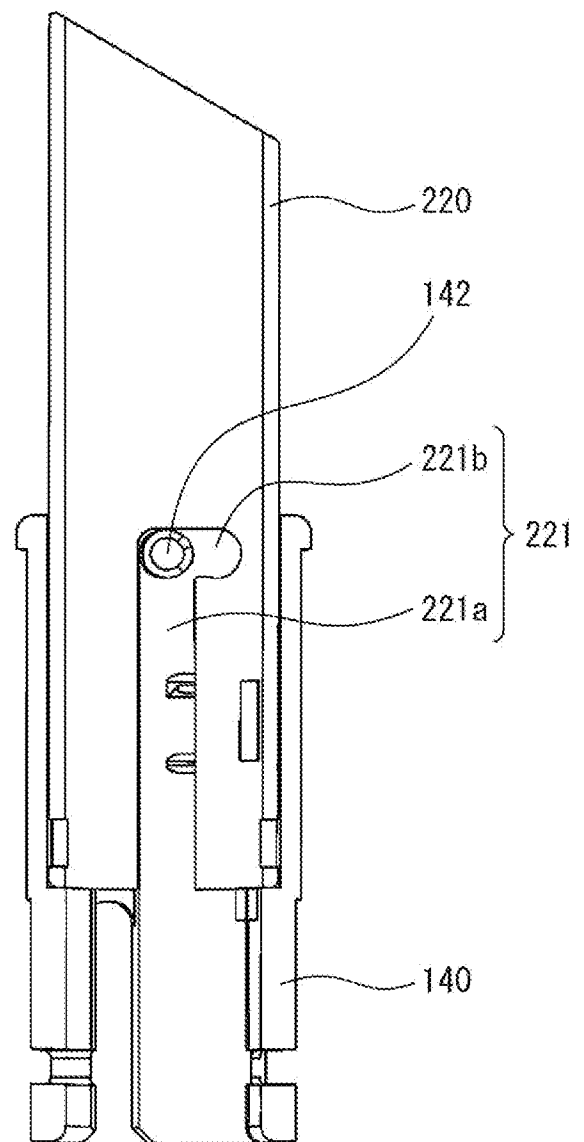
[図17]

図17

(A)



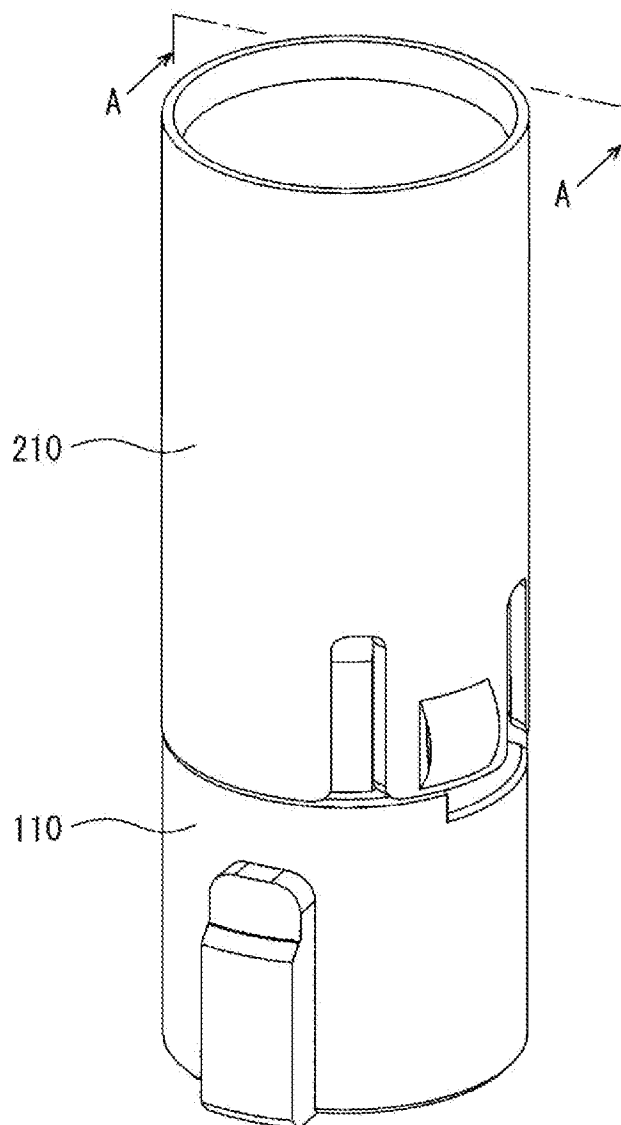
(B)



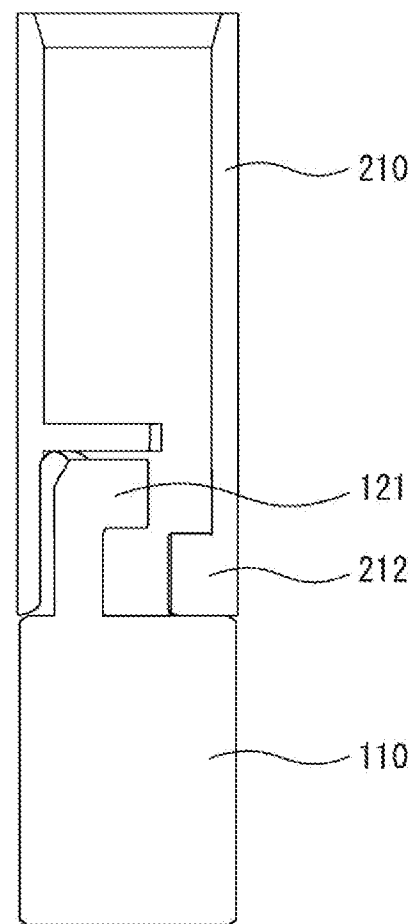
[図18]

図18

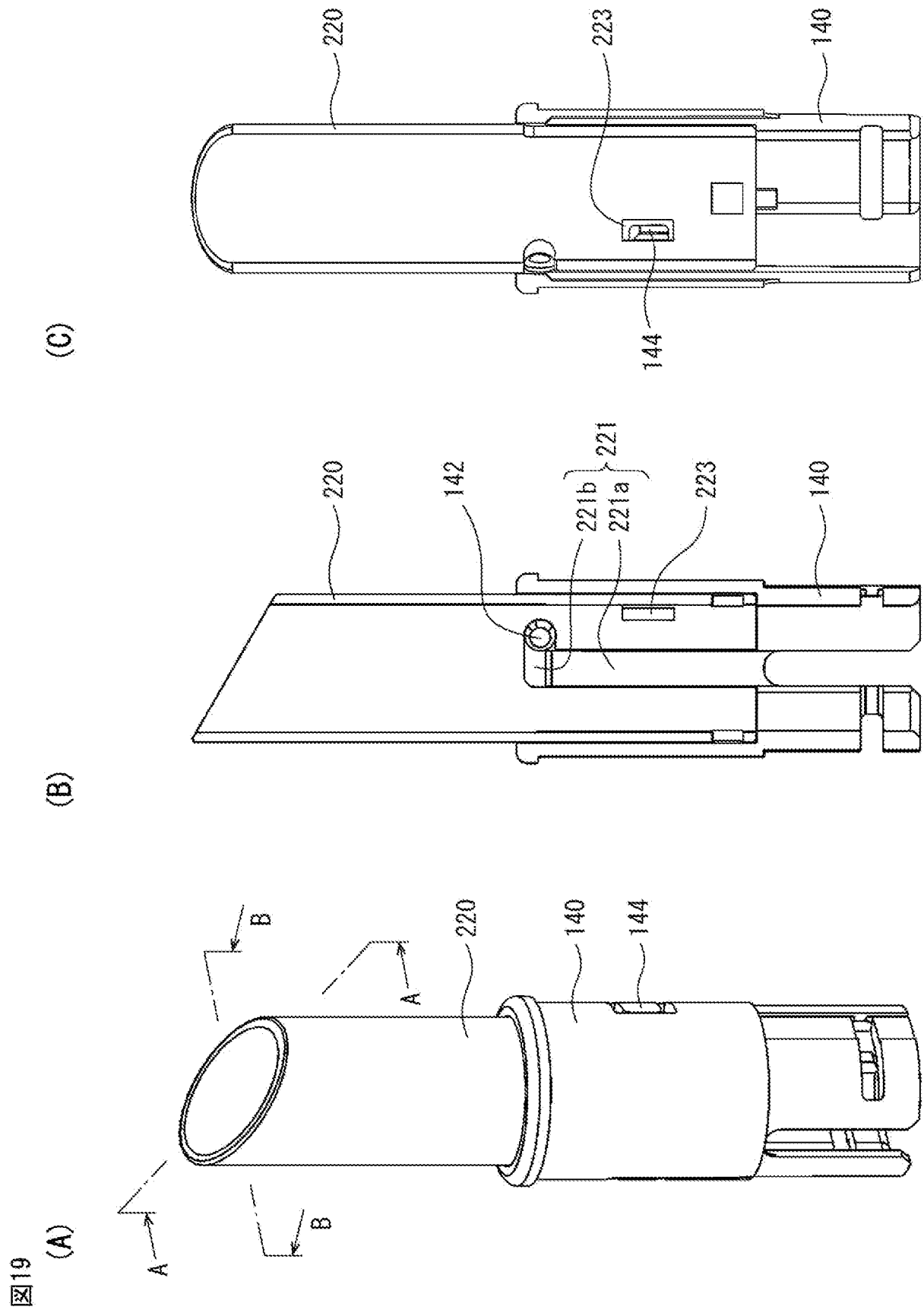
(A)



(B)



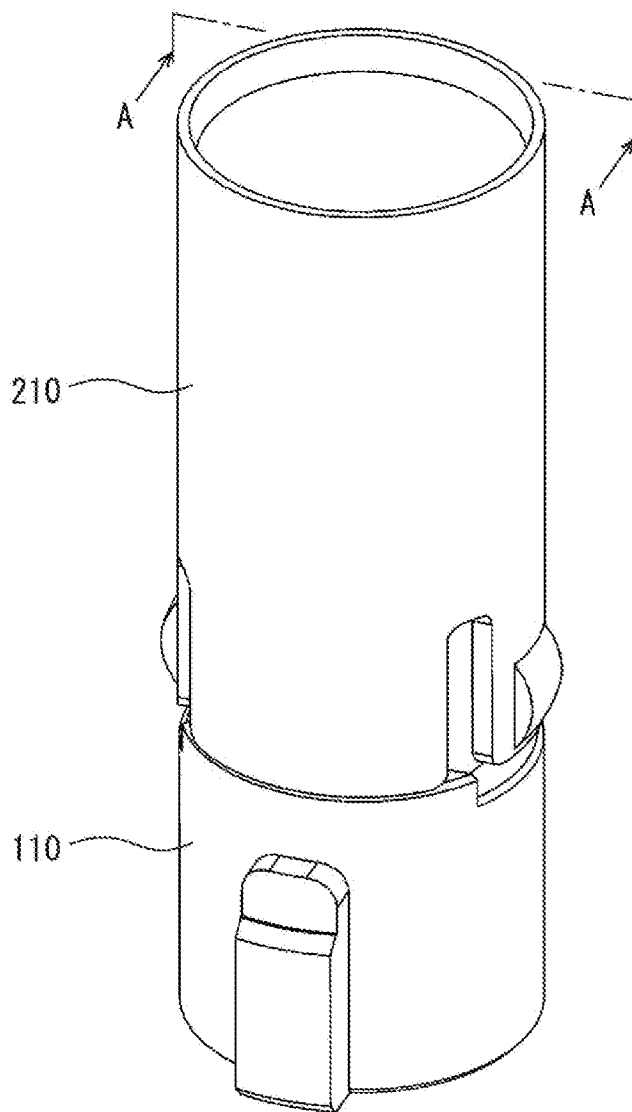
[図19]



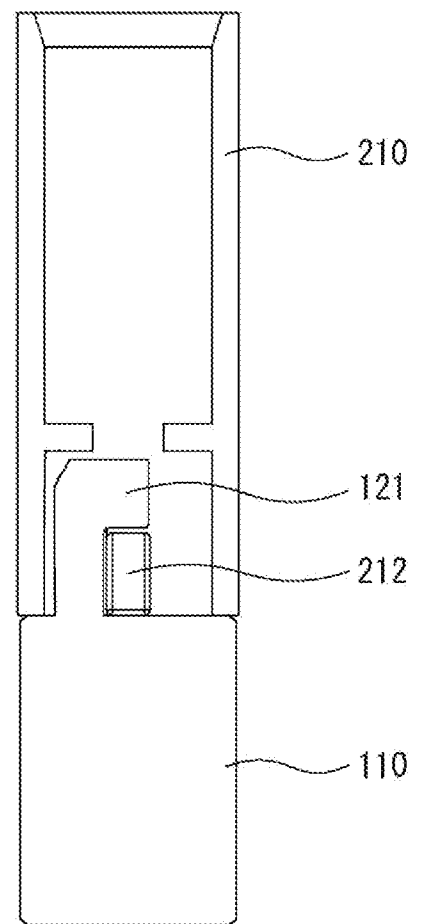
[図20]

図20

(A)



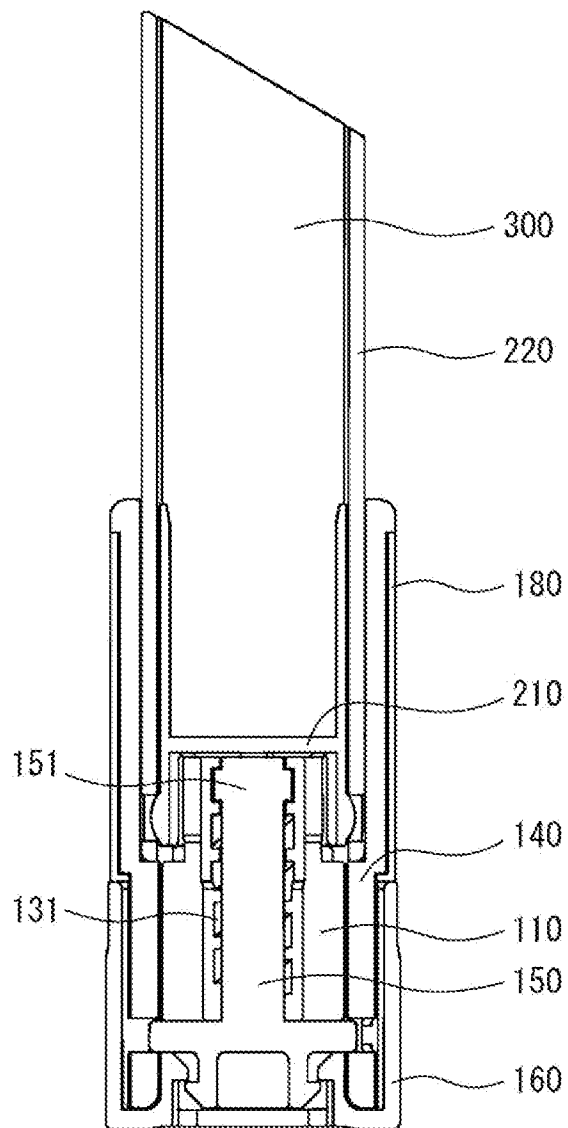
(B)



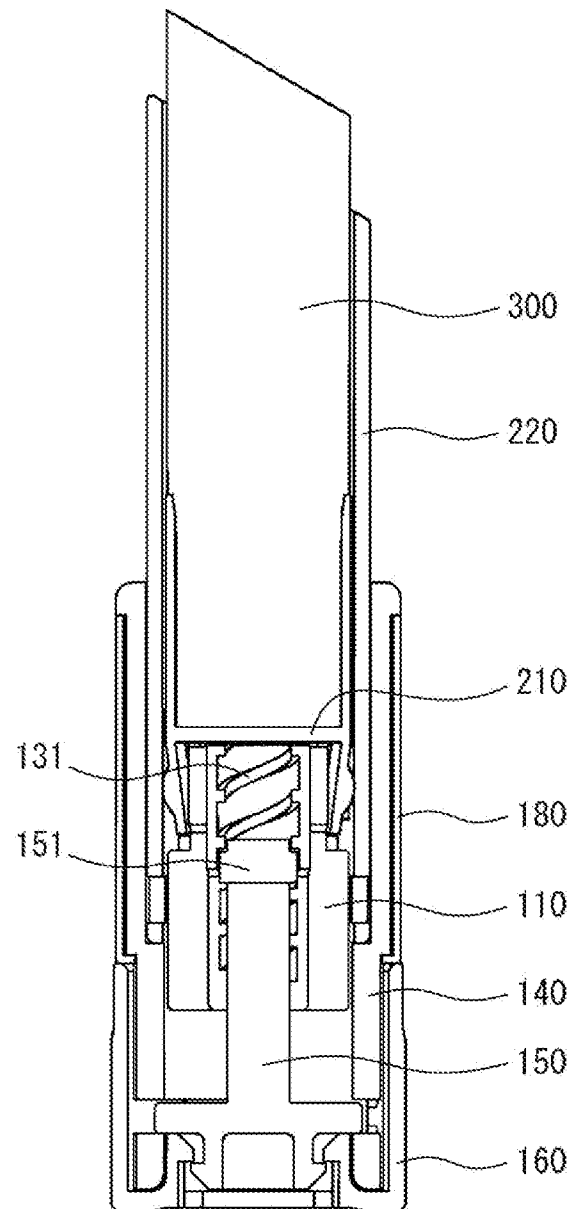
[図21]

図21

(A)

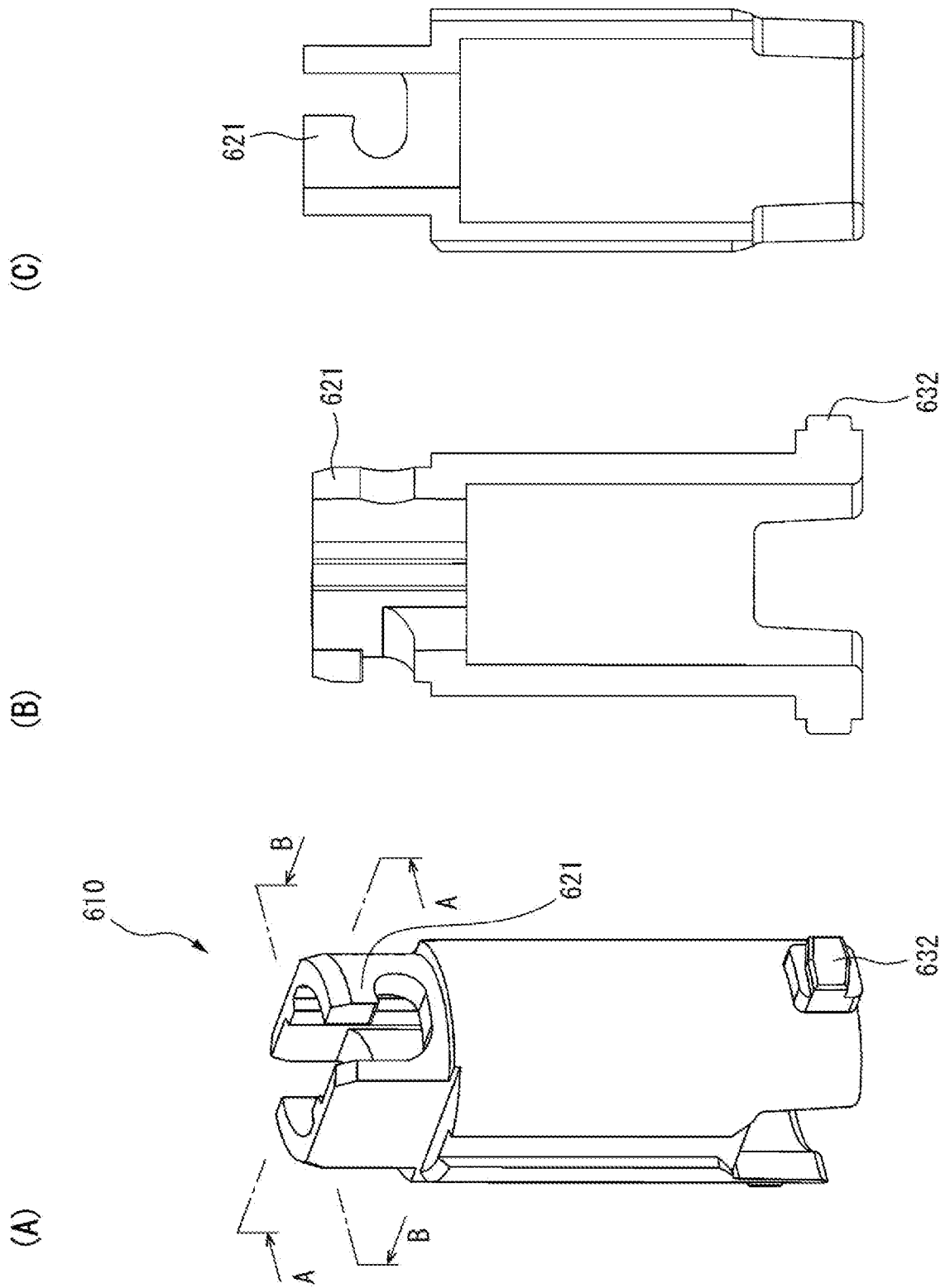


(B)



[図22]

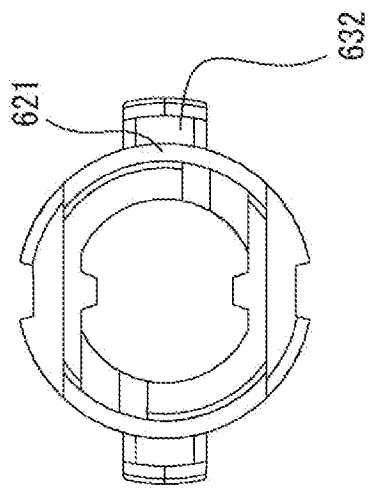
図22



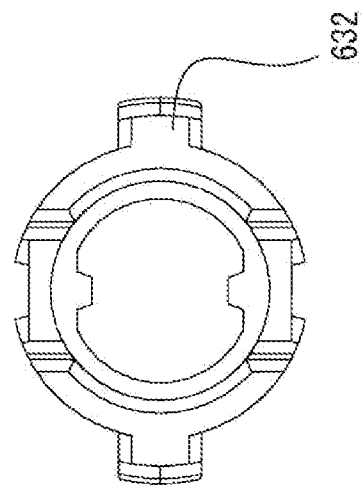
[図23]

[図23]

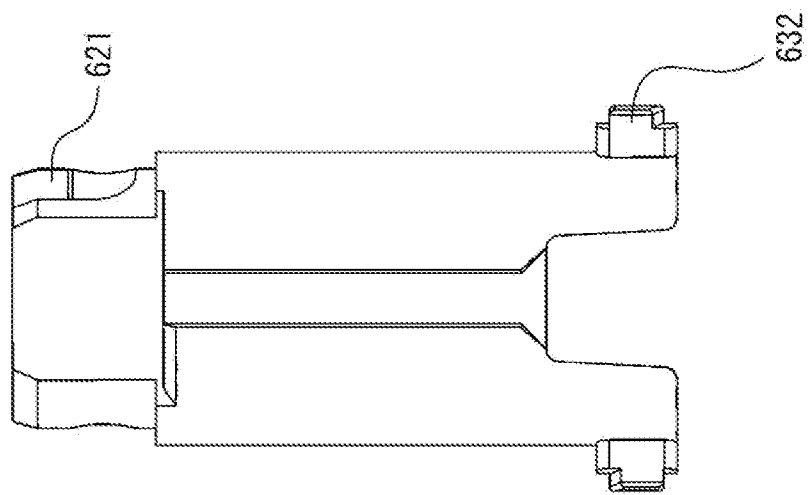
(A)



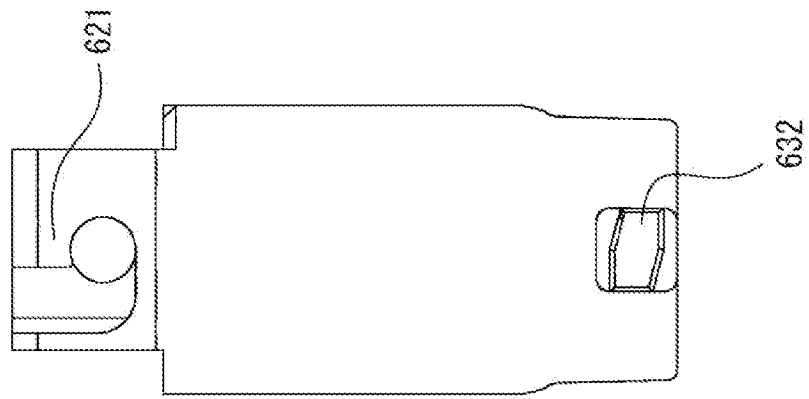
(B)



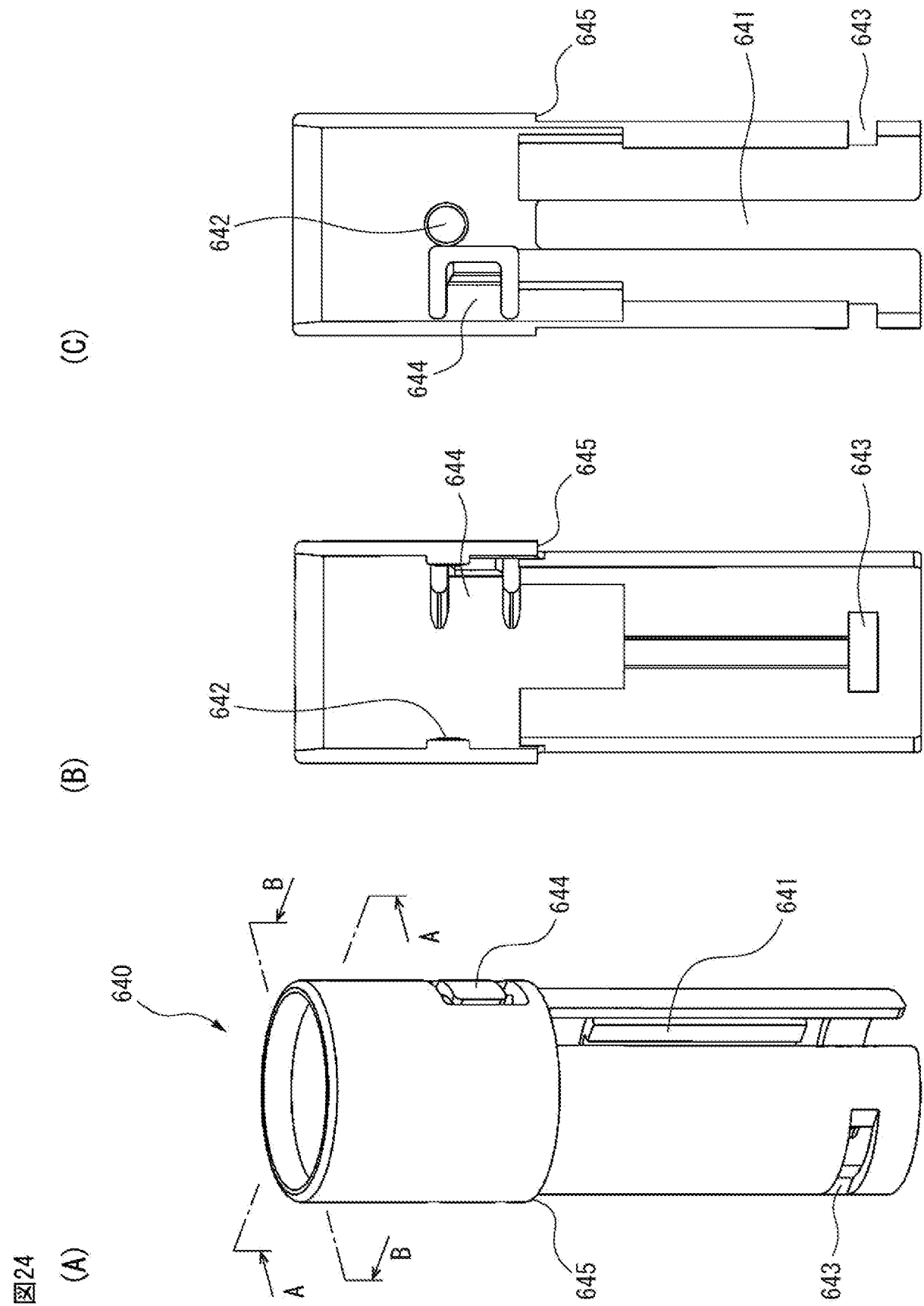
(C)



(D)

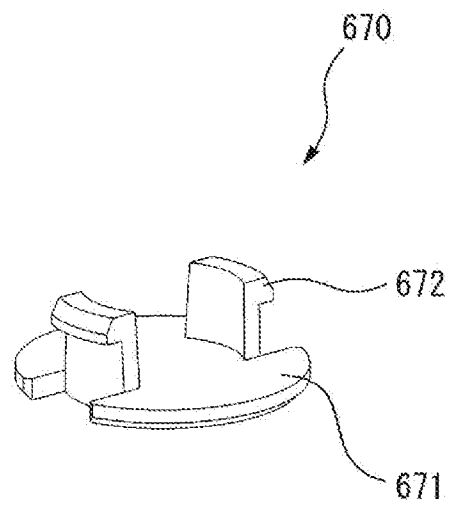


[図24]

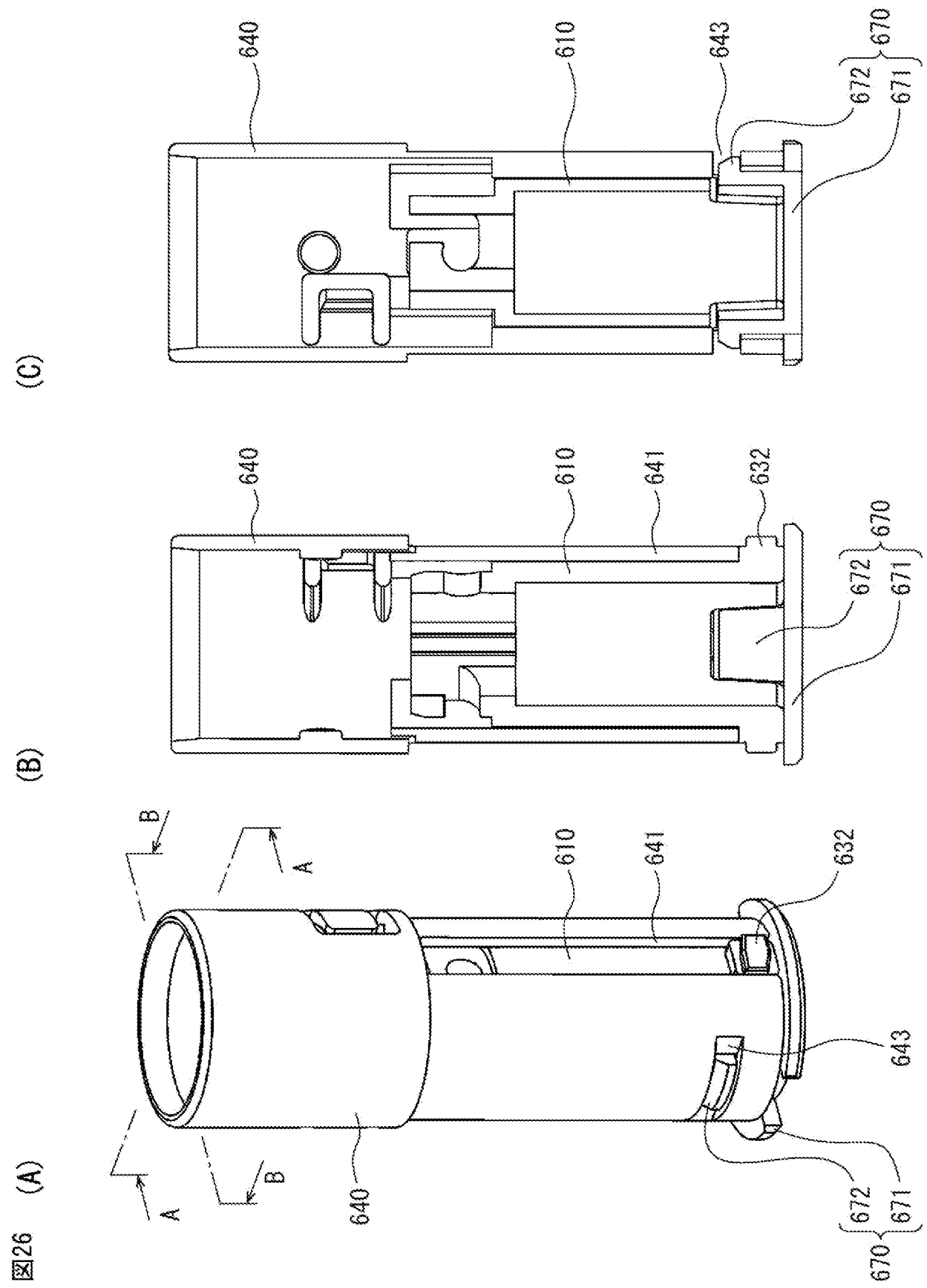


[図25]

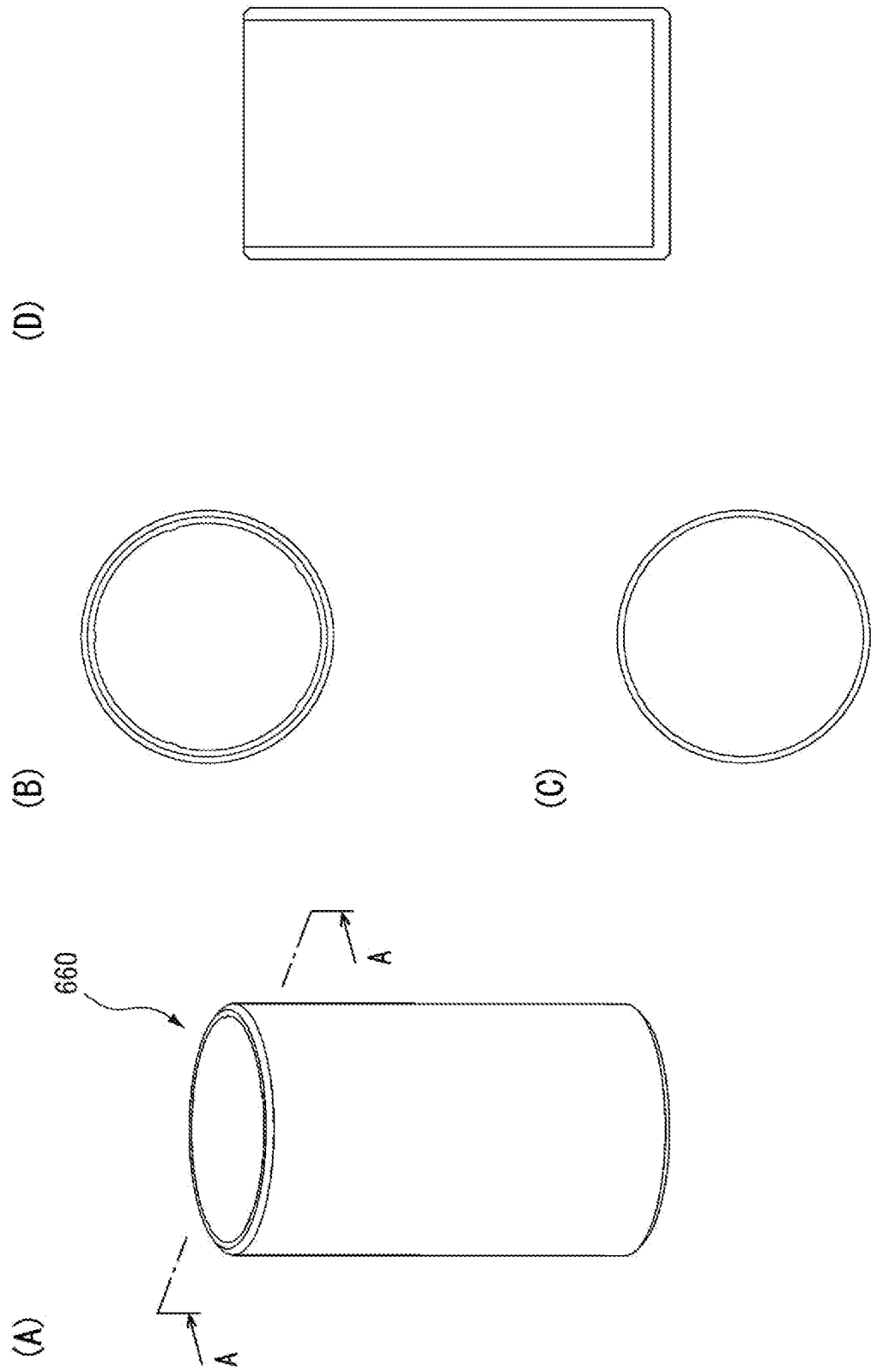
図25



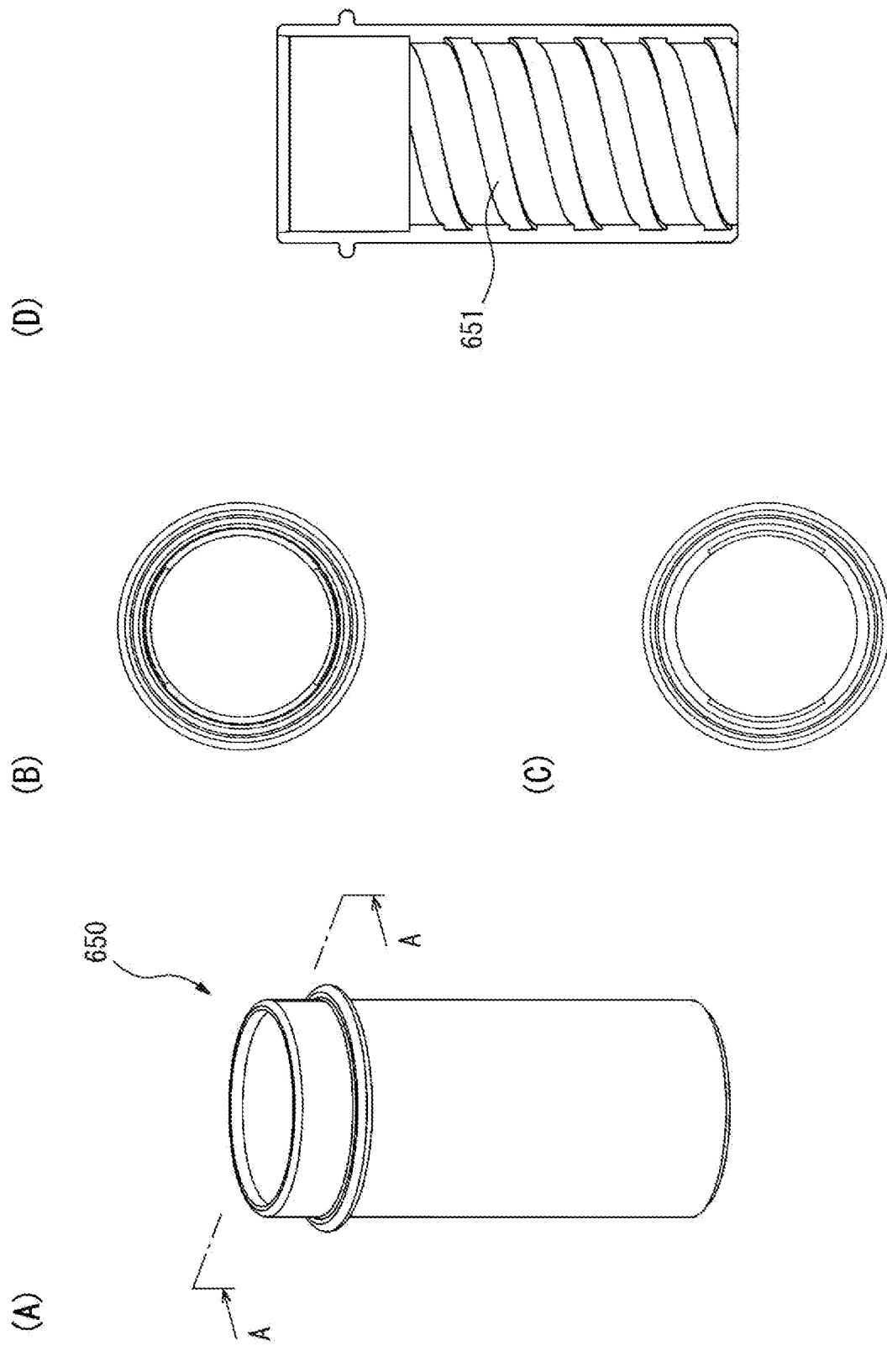
[図26]



[図27]

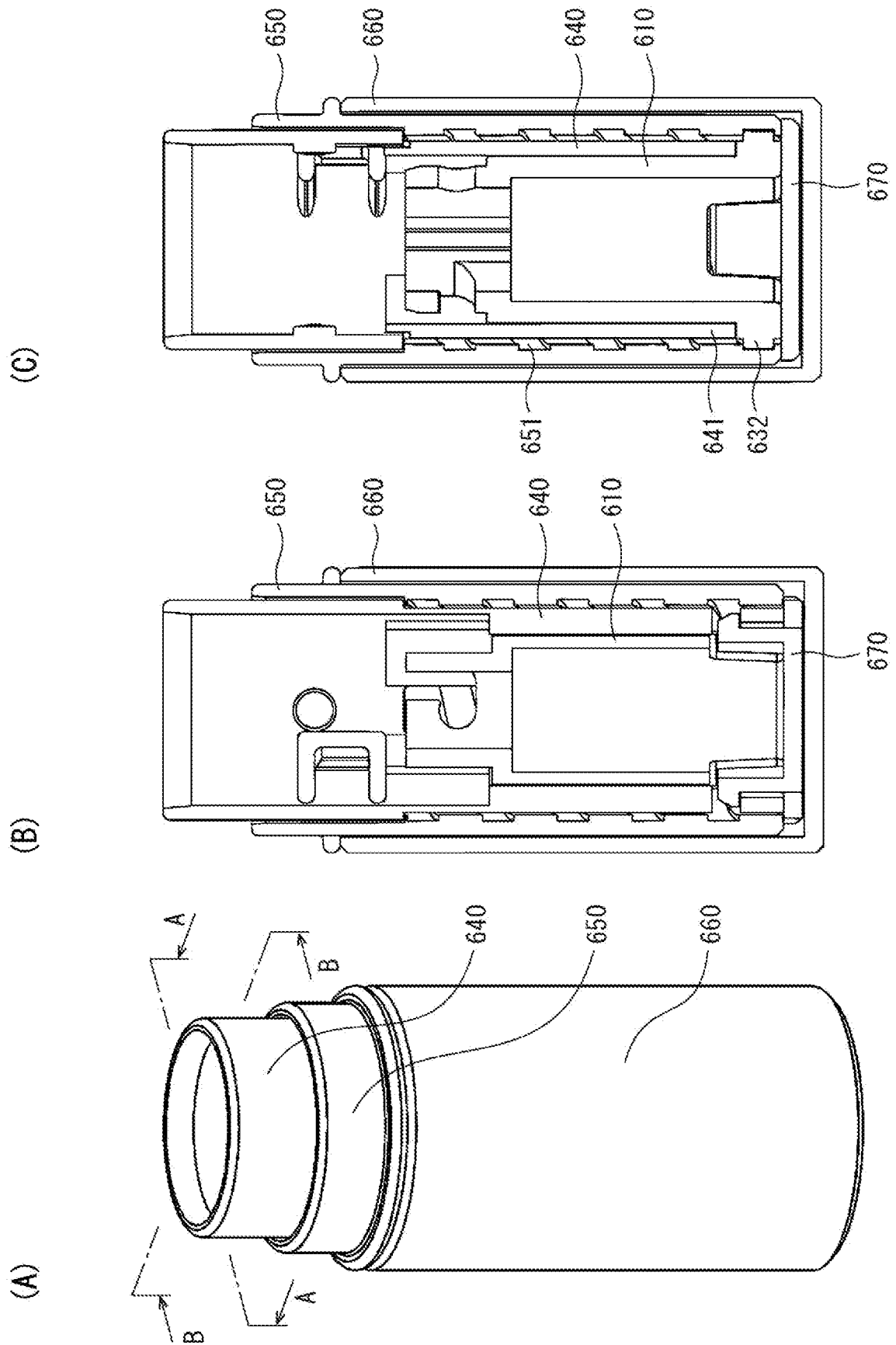


[図28]



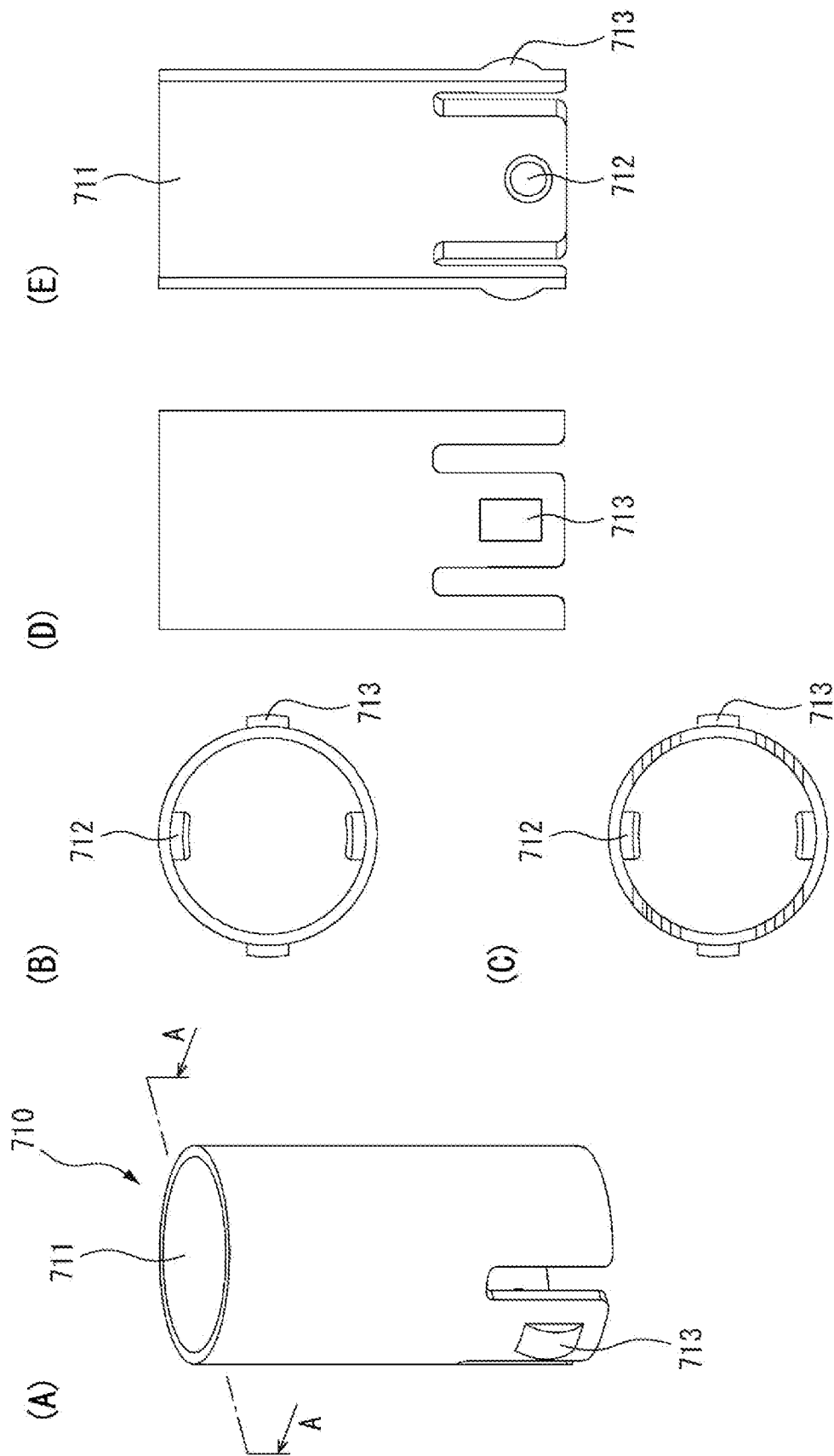
[図29]

[図29]

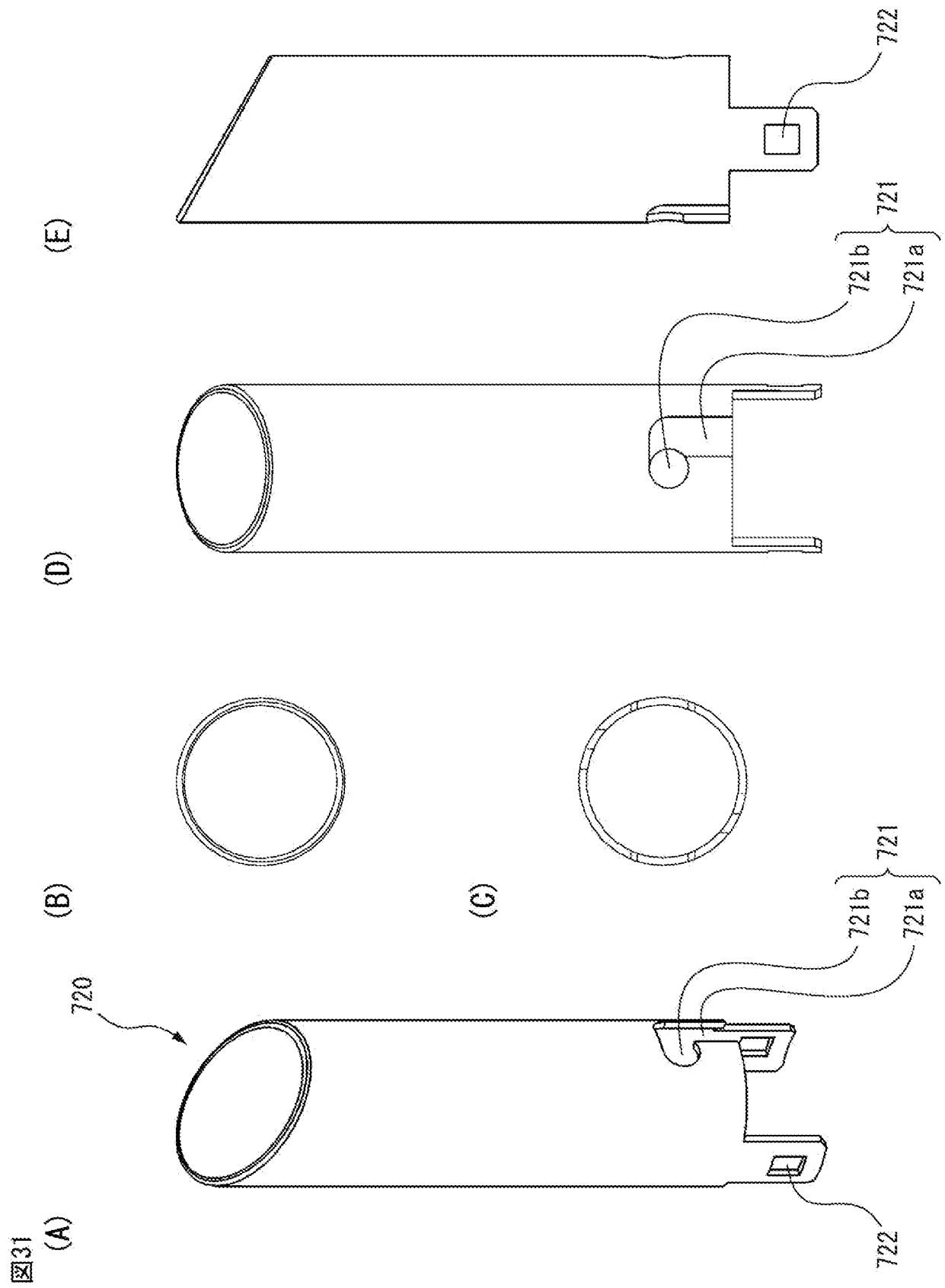


[図30]

図30

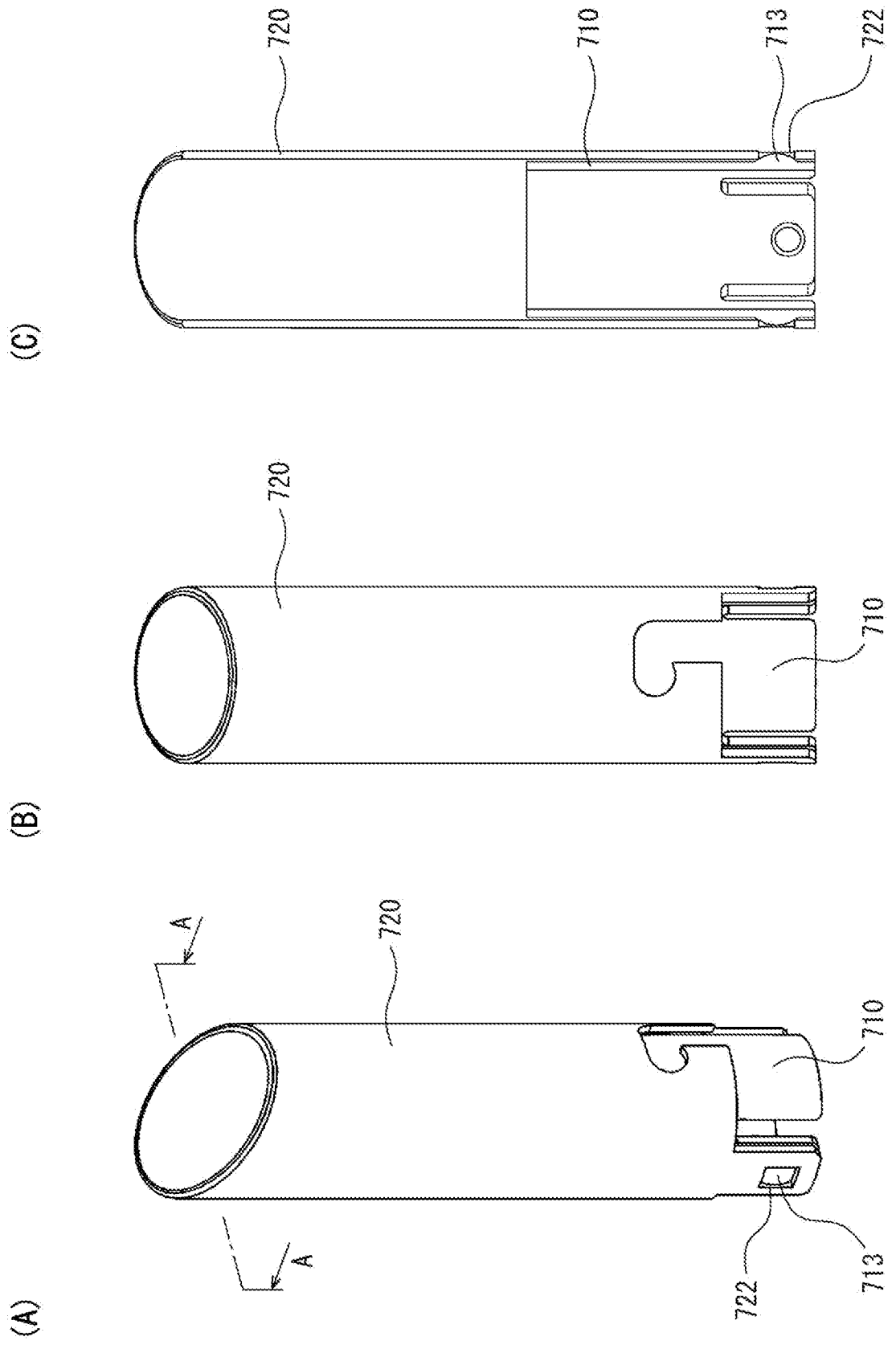


[図31]



[図32]

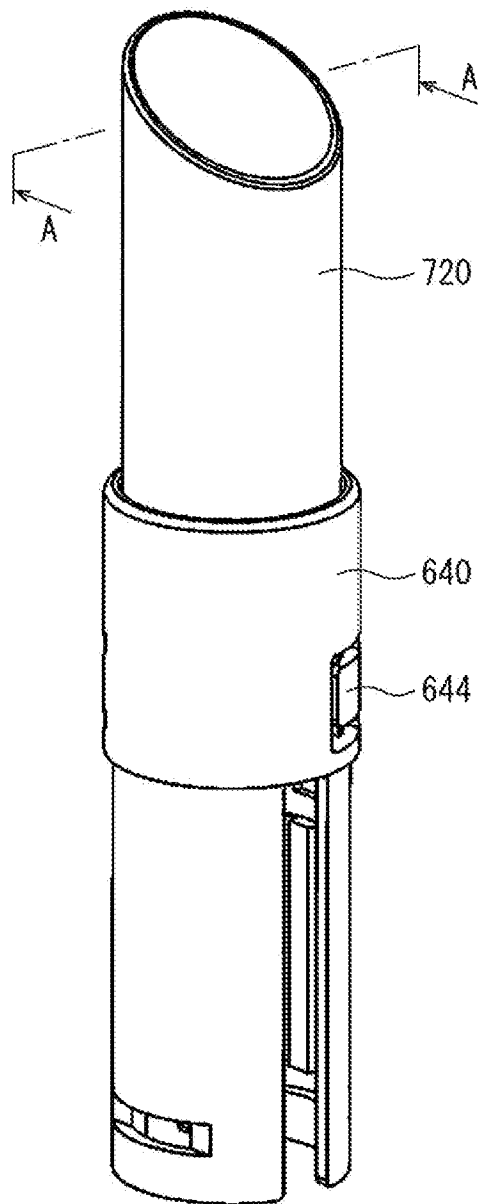
図32



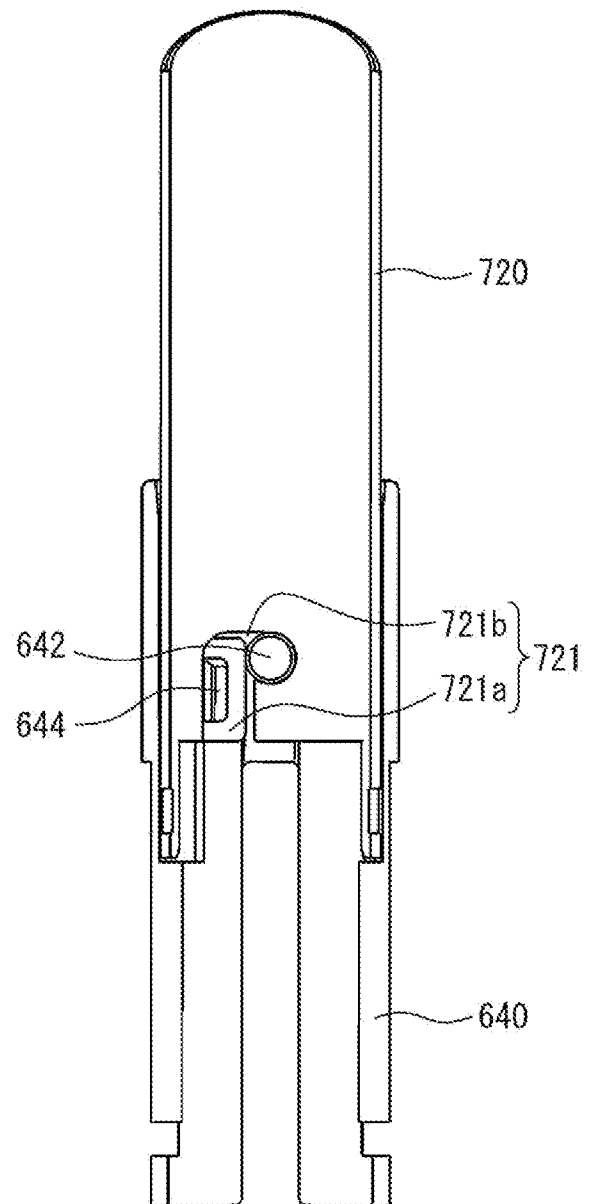
[図33]

図33

(A)



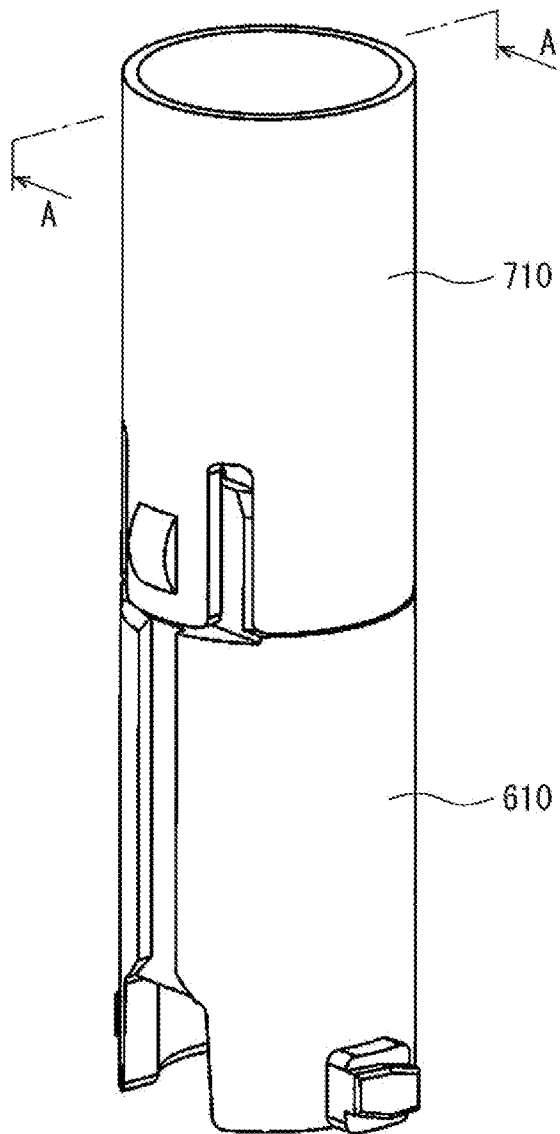
(B)



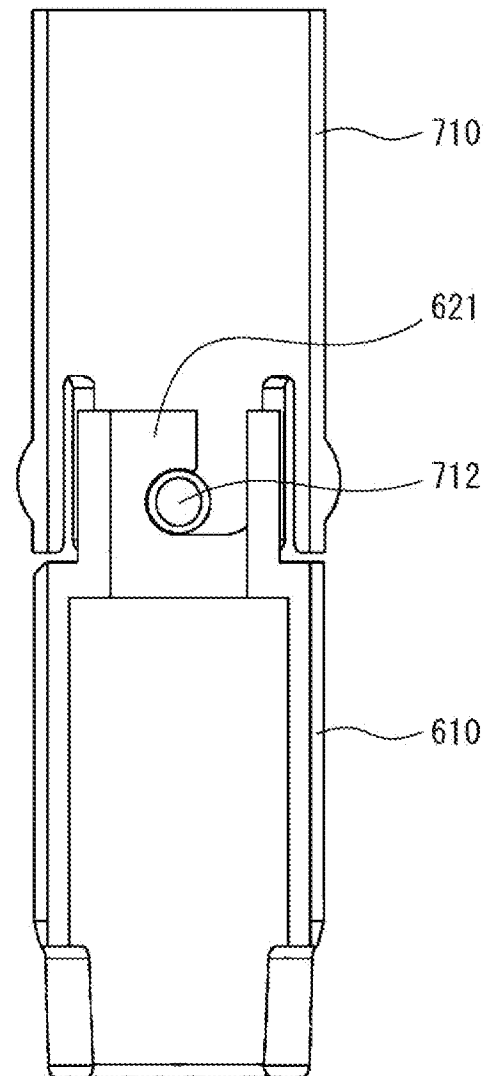
[図34]

図34

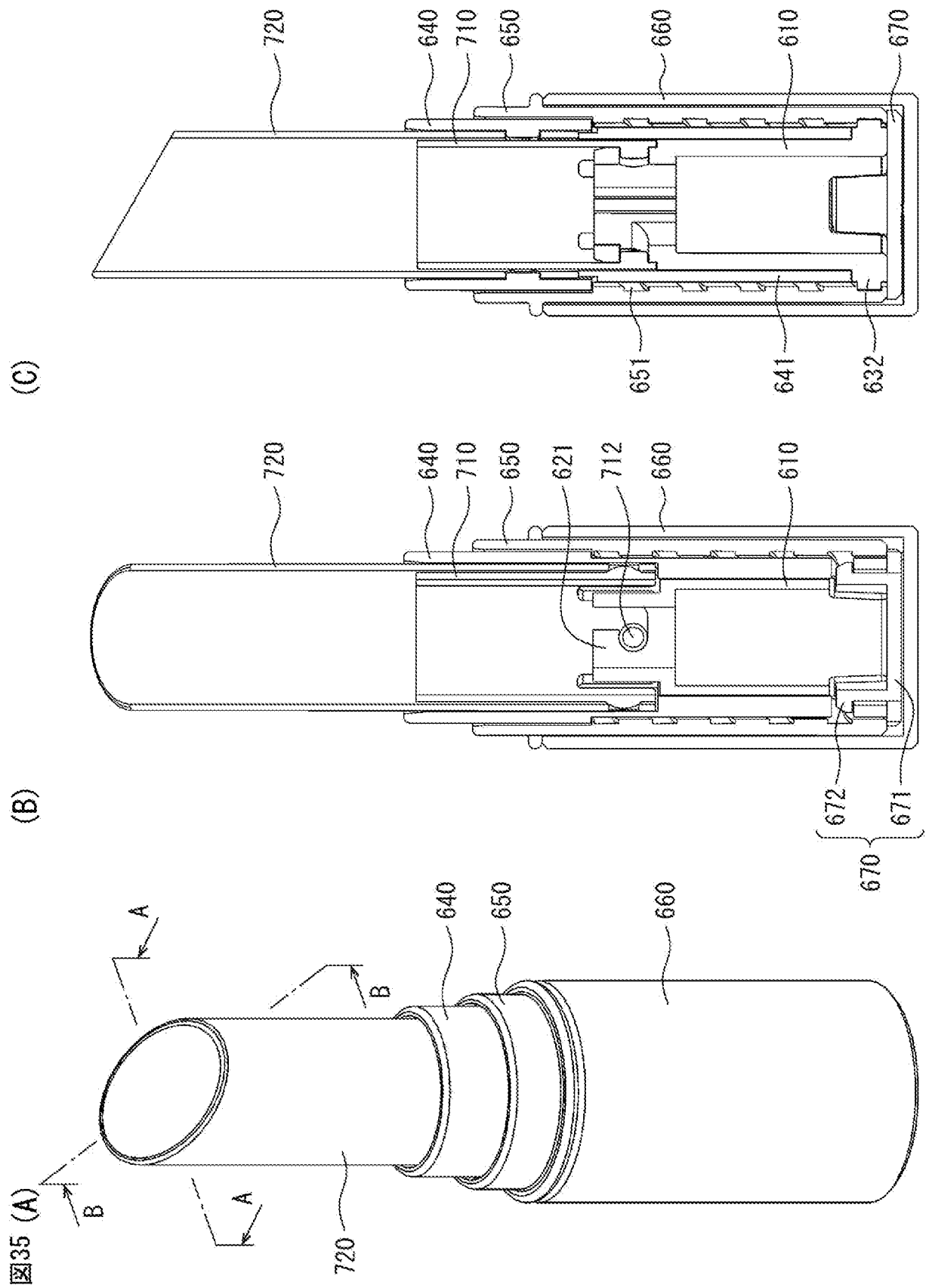
(A)



(B)



[図35]



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2022/040903

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER**A45D 40/04**(2006.01)i; **A45D 40/16**(2006.01)i

FI: A45D40/16 A; A45D40/04 A; A45D40/04 Z

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

A45D40/00-40/30; B43K21/00-21/26; B43K24/00-24/18

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Published examined utility model applications of Japan 1922-1996

Published unexamined utility model applications of Japan 1971-2022

Registered utility model specifications of Japan 1996-2022

Published registered utility model applications of Japan 1994-2022

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	WO 2021/131855 A1 (SHISEIDO CO., LTD.) 01 July 2021 (2021-07-01) paragraphs [0029]-[0088], fig. 1-26	1-12
A	CN 1284308 A (PACIFIC CO., LTD.) 21 February 2001 (2001-02-21) page 6, line 15 to page 12, line 4, fig. 1-6B	1-12
A	WO 2013/094536 A1 (KOSE CORP.) 27 June 2013 (2013-06-27) paragraphs [0019]-[0038], fig. 1-8	1-12



Further documents are listed in the continuation of Box C.



See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

“A” document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

“E” earlier application or patent but published on or after the international filing date

“L” document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

“O” document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

“P” document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

“T” later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

“X” document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

“Y” document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

“&” document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search

20 December 2022

Date of mailing of the international search report

10 January 2023

Name and mailing address of the ISA/JP

Japan Patent Office (ISA/JP)

3-4-3 Kasumigaseki, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8915

Japan

Authorized officer

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT
Information on patent family members

International application No.

PCT/JP2022/040903

Patent document cited in search report			Publication date (day/month/year)	Patent family member(s)			Publication date (day/month/year)
WO	2021/131855	A1	01 July 2021	CN	114828694	A	
CN	1284308	A	21 February 2001	KR	10-2001-0017834	A	
WO	2013/094536	A1	27 June 2013	US	2014/0363214	A1	
					paragraphs [0030]-[0045], fig. 1-8		
				KR	10-2014-0113905	A	
				CN	103997931	A	

A. 発明の属する分野の分類（国際特許分類（IPC）） A45D 40/04(2006.01)i; A45D 40/16(2006.01)i FI: A45D40/16 A; A45D40/04 A; A45D40/04 Z														
B. 調査を行った分野 調査を行った最小限資料（国際特許分類（IPC）） A45D40/00-40/30; B43K21/00-21/26; B43K24/00-24/18 最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの <table border="0"> <tr> <td>日本国実用新案公報</td> <td>1922-1996年</td> </tr> <tr> <td>日本国公開実用新案公報</td> <td>1971-2022年</td> </tr> <tr> <td>日本国実用新案登録公報</td> <td>1996-2022年</td> </tr> <tr> <td>日本国登録実用新案公報</td> <td>1994-2022年</td> </tr> </table> 国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）			日本国実用新案公報	1922-1996年	日本国公開実用新案公報	1971-2022年	日本国実用新案登録公報	1996-2022年	日本国登録実用新案公報	1994-2022年				
日本国実用新案公報	1922-1996年													
日本国公開実用新案公報	1971-2022年													
日本国実用新案登録公報	1996-2022年													
日本国登録実用新案公報	1994-2022年													
C. 関連すると認められる文献														
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号												
A	WO 2021/131855 A1 (株式会社 資生堂) 01.07.2021 (2021 - 07 - 01) 段落[0029]-[0088], 図1-26	1-12												
A	CN 1284308 A (PACIFIC CO., LTD.) 21.02.2001 (2001 - 02 - 21) 第6ページ第15行-第12ページ第4行, 図1-6B	1-12												
A	WO 2013/094536 A1 (株式会社コーセー) 27.06.2013 (2013 - 06 - 27) 段落[0019]-[0038], 図1-8	1-12												
☐ C欄の続きにも文献が列挙されている。 ☒ パテントファミリーに関する別紙を参照。														
<table border="0"> <tr> <td>* 引用文献のカテゴリー</td> <td>“T” 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と抵触するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの</td> </tr> <tr> <td>“A” 特に関連のある文献ではなく、一般的技术水準を示すもの</td> <td>“X” 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの</td> </tr> <tr> <td>“E” 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの</td> <td>“Y” 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの</td> </tr> <tr> <td>“L” 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）</td> <td>“&” 同一パテントファミリー文献</td> </tr> <tr> <td>“O” 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献</td> <td></td> </tr> <tr> <td>“P” 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願の日の後に公表された文献</td> <td></td> </tr> </table>			* 引用文献のカテゴリー	“T” 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と抵触するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの	“A” 特に関連のある文献ではなく、一般的技术水準を示すもの	“X” 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの	“E” 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの	“Y” 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの	“L” 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）	“&” 同一パテントファミリー文献	“O” 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献		“P” 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願の日の後に公表された文献	
* 引用文献のカテゴリー	“T” 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と抵触するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの													
“A” 特に関連のある文献ではなく、一般的技术水準を示すもの	“X” 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの													
“E” 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの	“Y” 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの													
“L” 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）	“&” 同一パテントファミリー文献													
“O” 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献														
“P” 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願の日の後に公表された文献														
国際調査を完了した日 20.12.2022	国際調査報告の発送日 10.01.2023													
名称及びあて先 日本国特許庁(ISA/JP) 〒100-8915 日本国 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	権限のある職員（特許庁審査官） 大内 康裕 3K 1184 電話番号 03-3581-1101 内線 3332													

国際調査報告
パテントファミリーに関する情報

国際出願番号

PCT/JP2022/040903

引用文献			公表日	パテントファミリー文献			公表日
WO	2021/131855	A1	01.07.2021	CN	114828694	A	
CN	1284308	A	21.02.2001	KR	10-2001-0017834	A	
WO	2013/094536	A1	27.06.2013	US	2014/0363214	A1	
				段落[0030]-[0045], 図1-8			
				KR	10-2014-0113905	A	
				CN	103997931	A	